

平成 30 年 3 月 12 日（月曜日）

予 算 審 査 特 別 委 員 会 会 議 録

（第 1 日 目）

平成30年予算審査特別委員会第1日目

平成30年3月12日（月）

出席委員（10名）

1番 伊藤 欽一	6番 斎藤 好彦
2番 小国 浩文	7番 佐藤 広幸
3番 石山 和春	8番 加藤 憲彦
4番 佐藤 勇	9番 叶内 富夫
5番 奥山 謙三	10番 八 敏太

欠席委員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため議場（会議）に出席した者の職氏名

町 長 森 富 広	まちづくり課課長補佐	沼 澤 豊 通
副 町 長 酒 井 雅 彦	住民税務課課長補佐	相 馬 昇
総 務 課 長 中 山 進	住民税務課課長補佐	大 場 正 江
まちづくり課長	住 民 税 務 課 危 機 管 理 室 長	高 橋 勤
健康福祉課長	健康福祉課課長補佐	沼 澤 伸 一
住民税務課長	健康福祉課課長補佐	森 祐 子
地域整備課長	健康福祉課課長補佐	高 橋 真 澄
農業振興課長	健康福祉課主査	東 村 貴 恵
会計管理者	農業振興課課長補佐	斎藤 雅 博
総務課課長補佐	地域整備課課長補佐	伊 藤 秀 樹
教 育 長 齊 藤 涉	地域整備課課長補佐	伊 藤 英 一
教 育 課 長 八 敏 照 光	地域整備課主査	相 馬 広 志
総務課課長補佐	教育課課長補佐	沼 澤 正
まちづくり課課長補佐	教育課課長補佐	大 場 君 博
まちづくり課課長補佐		曾根田 健

本会議に職務のため出席した者の職氏名

議 会 事 務 局 長 斎 藤 洋 一	係	長 石 川 忍
---------------------	---	---------

本日の会議に付した事件

議案第26号 平成30年度舟形町一般会計歳入歳出予算について

議案第27号 平成30年度舟形町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出予算について

議案第28号 平成30年度舟形町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出予算について

議案第29号 平成30年度舟形町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出予算について

議案第30号 平成30年度舟形町水道事業会計予算について

議案第31号 平成30年度舟形町農業集落排水事業特別会計歳入歳出予算について

議案第32号 平成30年度舟形町公共下水道事業特別会計歳入歳出予算について

午後 1 時 4 2 分 開会

委員長 ただいまの出席委員は10名です。定足数に達しております。ただいまから平成30年度予算審査特別委員会を開会します。

直ちに会議を開きます。

平成30年度一般会計外 6 特別会計の予算審査特別委員会の委員長に選任されました佐藤です。精いっぱい努めさせていただきますが、進行上不行き届きの点など、多々あるかもしれませんが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、ここで審査方法についてお諮りいたします。一般会計は歳入予算を一括し、歳出については各款ごとに審査していただくこと、特別会計は会計ごとに審査することによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 異議なしと認め、ただいま申し上げました方法で進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

また、会議場の都合上、説明員の交代のため、休憩を 3 款ないし 4 款ごとに一、二分程度とりますので、あわせてよろしくお願いいたします。

議案第 2 6 号 平成 3 0 年度舟形町一般会計歳入歳出予算について

議案第 2 7 号 平成 3 0 年度舟形町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出予算について

議案第 2 8 号 平成 3 0 年度舟形町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出予算について

議案第 2 9 号 平成 3 0 年度舟形町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出予算について

議案第 3 0 号 平成 3 0 年度舟形町水道事業会計予算について

議案第 3 1 号 平成 3 0 年度舟形町農業集落排水事業特別会計歳入歳出予算について

議案第 3 2 号 平成 3 0 年度舟形町公共下水道事業特別会計歳入歳出予算について

委員長 議案第26号 平成30年度舟形町一般会計歳入歳出予算、議案第27号 平成30年度舟形町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出予算、議案第28号 平成30年度舟形町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出予算、議案第29号 平成30年度舟形町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出予算、議案第30号 平成30年度舟形町水道事業会計予算、議案第31号 平成30年度舟形町農業集落排水事業特別会計歳入歳出予算、議案第32号 平成30年度舟形町公共下水道事業特別会計歳入歳出予算。以上 7 会計の審査を行います。

議案第 2 6 号 平成 3 0 年度舟形町一般会計歳入歳出予算について

委員長 最初に、議案第26号 平成30年度舟形町一般会計歳入歳出予算を審査します。

一般会計歳入について、読み上げ説明をお願いします。

総務課課長補佐 （朗読、説明省略）

委員長 本日の審査はここまでとします。

あすは午前10時より開会します。

これにて散会といたします。

ご苦労さまでした。

午後 1 時 5 4 分 散会

平成 30 年 3 月 13 日（火曜日）

予 算 審 査 特 別 委 員 会 会 議 録
（第 2 日 目）

平成30年予算審査特別委員会第2日目

平成30年3月13日（火）

出席委員（10名）

1番 伊藤 欽一	6番 斎藤 好彦
2番 小国 浩文	7番 佐藤 広幸
3番 石山 和春	8番 加藤 憲彦
4番 佐藤 勇	9番 叶内 富夫
5番 奥山 謙三	10番 八 敏太

欠席委員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため議場（会議）に出席した者の職氏名

町 長 森 富 広	まちづくり課課長補佐	沼 澤 豊 通
副 町 長 酒 井 雅 彦	住民税務課課長補佐	相 馬 昇
総 務 課 長 中 山 進	住民税務課課長補佐	大 場 正 江
まちづくり課長	住 民 税 務 課 危 機 管 理 室 長	高 橋 勤
健康福祉課長	健康福祉課課長補佐	沼 澤 伸 一
住民税務課長	健康福祉課課長補佐	森 祐 子
地域整備課長	健康福祉課課長補佐	高 橋 真 澄
農業振興課長	健康福祉課主査	東 村 貴 恵
会計管理者	農業振興課課長補佐	斎藤 雅 博
総務課課長補佐	地域整備課課長補佐	伊 藤 秀 樹
教 育 長 齊 藤 涉	地域整備課課長補佐	伊 藤 英 一
教 育 課 長 八 敏 照 光	地域整備課主査	相 馬 広 志
総務課課長補佐	教育課課長補佐	沼 澤 正
まちづくり課課長補佐	教育課課長補佐	大 場 君 博
まちづくり課課長補佐		曾根田 健

本会議に職務のため出席した者の職氏名

議 会 事 務 局 長 斎 藤 洋 一	係	長	石 川 忍
---------------------	---	---	-------

本日の会議に付した事件

議案第 26 号 平成 30 年度舟形町一般会計歳入歳出予算について

議案第 27 号 平成 30 年度舟形町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出予算について

議案第 28 号 平成 30 年度舟形町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出予算について

議案第 29 号 平成 30 年度舟形町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出予算について

議案第 30 号 平成 30 年度舟形町水道事業会計予算について

議案第 31 号 平成 30 年度舟形町農業集落排水事業特別会計歳入歳出予算について

議案第 32 号 平成 30 年度舟形町公共下水道事業特別会計歳入歳出予算について

午前10時00分 再開

委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席委員は10名です。定足数に達しております。

ただいまから平成30年度予算審査特別委員会を開会します。

直ちに会議を開きます。

議案第26号 平成30年度舟形町一般会計歳入歳出予算について

委員長 これより一般会計歳入の質疑に入ります。なお、質疑につきましては、ページ、款、項、目を明言し、簡潔にお願いをいたします。

では始めます。質問のある方、挙手お願いします。質疑ありませんか。

6番 じゃあ、誰もいないので。

歳入の12ページですか、町税ですが、固定資産税、今回は評価外ということで700万ほど減額になってございますが、評価外の方法といいますか、この700万の減額する積算の根拠といいますか、それをお伺いします。

住民税務課長 減額の積算について申し上げたいと思います。固定資産税、土地家屋償却資産、申告と大臣配分ありますけれども、土地につきましては、評価外、今おっしゃるように評価外及び宅地の下落修正を勘案して55万7,000円の減ということで積算しました。あと家屋については、やはり評価外による減少分ということで400……済みません、間違いました。306万5,000円の減ということで積算させていただきました。あと償却資産、うち申告分なんですけれども、これは118万2,000円の減ということでの積算であります。あと大臣配分につきましては200……直近5年間ともずっと前年減額となっておりますので、前年当初より267万7,000円の減額ということで、その合算が前年対比の減額ということになります。以上です。

6番 それぞれの金額はわかりましたけれども、例えば、土地のこの55万7,000円、家屋の306万5,000円について、どういった方法で見直ししているのかって、そこをお伺いしたいのですが。

住民税務課長 じゃあ、相馬……住民税務課の総括補佐に説明させます。

住民税務課課長補佐 それではまず、家屋のほうについて説明させていただきます。家屋については、新增築につきまして177万円の増、あと減失11万5,000円の減で165万5,000円の増となっておりますが、評価外につきましては経年原点補正率という国の基準がありまして、その評価基準に基づきまして、既存の家屋全てについて電算システムによりまして計算したところ306万5,000円の減という結果が出ております。以上です。

6番 今電算システムとお話ございましたが、それは舟形町独自の電算システムなの。何かこうソフトみたいなものがあるって、そこに金額を入れればダーッとこう評価が出るという仕組みなんですか。（「あれ、ちょっと待って、委員長に、ああいうのすぐそっちにあれしていいん

だっけか。最初、税務課長、あれなんじゃないの」の声あり)

住民税務課長 同じく、相馬総括補佐が答弁いたします。

住民税務課課長補佐 説明させていただきます。電算システムにつきましては、町で委託しています総合行政システムというシステムがあります。これについては、全国的に同じような評価基準に基づいていますので、業者はそれぞれの市町村によって違うと思いますけれども、結果的には委託業者のシステムで計算しているということになります。

委員長 ほかに質疑はございませんか。

5 番 28ページ、18款 2 項 5 目ふなっこ育成振興基金繰入金、前年が150万でしたが、今年度というか30年度においては30万というふうな予算であります、大幅な減額になった理由は何でしょう。

総務課長 ふなっこ育成振興基金につきましては、今回、中央公民館の図書のように20万、保育所のほうに10万を充てることで計上しておりますけれども、昨年、「伊藤茂さんの未来を拓く基金」が新たに創設されまして、そちらのほうに127万1,000円ほど、小学校のほうに73万、中学校のほうに54万1,000円を充当することにしておりますので、トータル的にはほとんど変わらないといえますか7万1,000円ほど多い予算としておりまして、図書の充実については昨年より若干多い充実というふうなことであります。(「わかりました」の声あり)

委員長 ほかにありませんか。

9 番 12ページの入湯税についてお伺いします。去年は若あゆ温泉が改修工事に入り、また、ことしから料金も350円から380円という値上がりになりましたけれども、この入湯税の税につきましては、前年対比より 2 万1,000円ほどマイナスになっておりますけれども、この積算根拠はどうなっているのかお伺いします。

住民税務課長 まず、積算根拠につきまして説明させていただきます。1 人当たり75円になりますけれども、月平均、ここ数年間、今年度は工事等ありまして 3 月で減額させてもらいましたけれども、月平均の予測として618人です。75円掛ける618人、その12カ月ということで55万6,000円、前年比 2 万1,000円ですけれども減額の予算とさせていただきました。以上です。

9 番 私の考えでは、入湯税が350円から380円に上がったというようなことで、この税金のほうもそれに比例して上昇になるのかなと思っていたもんですから、その辺の、料金が30円上がったとしても税率も同じだと、75円だということで理解していいんですか。

住民税務課長 おっしゃるとおりです。若あゆ温泉の30円上がりしましたけれども、入湯税は同額75円です。以上です。

委員長 ほかにありませんか。

6 番 これは何ページだ。12－2－2 です。16ページかな。斎場関係です。斎場費、衛生費負担

金の斎場ですね。今年度640万1,000円の計上でございますが、前年度は大きな工事があってかなり計上してございましたが、今回もちょっと、大変恐縮ですが、後ろの歳出のほうでちょっと確認すると、また工事も発生するようですが、この600何がして、これ大蔵から来るものですね、これで十分にカバーできるのか、そのあたりお伺いします。

住民税務課長 説明させていただきます。ご存じのように大蔵村と舟形町共同で斎場経営しておりますけれども、平等割40%、人口割30%、財政力割30%ということで、あと先ほど歳出ということありましたけれども、大きい工事が2つあります。それと人権費、総額のその平等、人口、財政力割ということで積算しました。以上です。

6番 それはわかるんですが、じゃあ、ちょっと聞き方変えます。640万1,000円って大蔵から来る分、工事が何もなければ大蔵から来る分というのは幾らなんですか。

住民税務課長 ちょっと、金額、今ちょっと計算しないとはっきり申し上げることできないんですけれども、斎場の歳出の経費、先ほど言った全額から工事費を引いた金額、残りの分ですね、そこから負担割ですることになります。計算したほうよろしいですか。

委員長 6番委員、計算して答えたほうがいいですか。（「はい」の声あり）何ぼだって計算して答えたほうがいいですか。この600……（「何ぼくらいになるのか、そこ知りたい」の声あり）じゃあ、今、今すぐ。今すぐなら少し休憩、暫時休憩しますけれども。（「いいっちゃ、いいっちゃ」の声あり）はい。

じゃあ、暫時休憩します。

午前10時13分 休憩

午前10時14分 再開

委員長 では、再開いたします。

答弁をお願いします。

住民税務課長 説明させていただきます。今年度の歳出の中で工事費が、工事予定しているのが2つの工事ありますけれども、810万円の工事を予定しております。それを差し引きまして、約44%ということになりますので、工事がないとすれば328万3,000円ぐらいの負担でということになります。以上です。

6番 そうしますと、工事、大きな工事何もなければ大蔵から来る分は320万ぐらいで済むと。60%が舟形で出すわけと。何ぼだ、すると。60%っていうと何ぼだ。500万ぐらい。800万ぐらいで斎場の運営をしていくと。ことし1,500万の計上していますけれども、歳出で申しわけないですが、それぐらいで足りるのかなと、ちょっとそこが不安なんです。先日申し上げました起債の関係でちょっと間違いがありましたよね。ああいうことが、後で足りなくて起債が云々とかそういうミスがないように、このあたりのそれぞれの町村の持ち出し分をしっか

りとした形で押さえておかないと、この間みたいな結果になってしまうので、そのあたりを注意していかなければならないなと思って申し上げたところでした。答弁ありますか。

住民税務課長 斎場そのものがかなり古いのですので、予定している工事は先ほど申し上げたように2つの工事です。突発的なものが出ないとも限らないんですけれども、その際は事前に財政なり町長のほうと相談して対応したいと思います。以上です。

委員長 ほかに質疑ありますか。

5番 30ページ、21－1の大きいところで5、商工債1億230万。その内訳を見ますと、若あゆ温泉と体験実習館の事業債ということでありますが、最終的に国、県なりからの補填される割合といいますか、幾らぐらいなのか、そこら辺お聞きしたいと思います。

総務課長 この事業につきましては、今のところ過疎を予定しておりまして、5月ころに過疎の申請をするわけですが、この事業を認められれば、この1億230万円について元利償還金の7割が町のほうに戻ってくるというふうなことになります。地方交付税として算入されるというふうなことになります。

5番 7割帰ってくるということですが、これは交付税として来るということになるのかというふうに思いますが、実際、本当にこの7割が来ているのかというふうなところのチェックというのはどうなっているのでしょうか。

総務課長 基礎額については、町のほうで償還金を積算をして、その分を基礎数値として国のほうに提出しておりますので、それが交付税の算定台帳のほうにその数字が、毎年毎年のやつも含めまして償還額を報告することになっていまして、その7割が来るというふうなことで、それについては確認をしているというふうなことになります。

5番 そうしますと、国からの交付税の内訳来るかと思いますが、これと照らし合わせて、確実に来ているというふうなところのチェックはしているというふうなことでいいのでしょうか。

総務課長 そういうことになります。

委員長 ほかに質疑ありますか。

6番 今のページ、ついでに。ちょっとわからない。確認ですが、町債、今年度4億7,410万でございますが、その町債の目的の内訳を見ますと、右のほう見ますと、臨時で1億1,000万、あとソフトで5,600万、あと以下全部過疎債ですよね。一番下の災害復旧は災害復旧債という区分けはしないんですか。過疎債の中の災害復旧債という見方するんですか。昨年の予算書見ると、災害の部分は災害復旧債で起こしているんですけども、今回は一番上の臨時とソフトと過疎で1本でまとまっているんですけども、そういう区分けがちょっとわからないので、その辺ちょっと教えていただきたいと思いますが。

総務課長 今の議員ご指摘のとおり、8ページの3表のほうには災害の復旧事業債の起債の目的が出ておりませんで、これについては3表の間違いでありますので、これについて、後ほど

訂正についての手続についてご相談をさせていただきたいというふうに思います。

6 番 そうしますと、31ページのこの起債の内訳は、先ほど申し上げました一番上が臨時で1億1,000万、ソフトで5,600万、あとその下の、一番下の災害が60万で、その残りが全部過疎ということで分けをするということですか。はい、わかりました。

委員長 ほかに質疑はございますか。

6 番 ないようなので。わからないので、俺ばかり聞いて申しわけないんですけども、24ページ、15-2-8教育費県補助金でございますが、後ろの歳出で出てくるのかもしれませんが、ここに教職員働き方改革推進事業補助金35万8,000円ございますが、今話題になっているこの働き方改革、本町でのこの事業というのは、どういう事業についての補助金なんですか。

教育課長 今の質問にお答えいたします。現在、国会のほうでも教職員の働き方改革ということで事業を進めておるところなんですけれども、舟形町のほうでは特別非常勤職員として、夕方、クラブ活動、部活になりますけれども、その非常勤職員の2時間分を週3回、年間35週ということで210時間の上限を設けた勤務時間で、補助金を国が3分の1、県が3分の1、町が3分の1の持ち出しでやる事業であります。

6 番 その仕組みはわかりましたけれども、働き方改革と言っているんだから、何を改革するためのこの補助金なんですかね。クラブ活動の指導するというのは今もやっているし、これからもやるんでしょうけれども、その改革というのは何を目的にするんですか。

教育課長 現在、教職員のほう、授業、学校が終わってから教職員がクラブ活動に時間を割いているところがありますので、その時間外を少しでも減らそうということで、部活のほうに教職員を配置しないで、別に非常勤として職員を雇ってクラブにその分を、時間外を減らすということになります。

6 番 そうしますと、先生の時間外部分の働いている部分をなくして、新たに金をつくって違う人にその指導をやってもらってそっちのほうに金を払う分だと、そういう改革だということなんですか。

教育課長 はい、おっしゃるとおりです。

委員長 ほかに質疑ございますか。

5 番 26ページ、17-1-1、一般寄附金3億円とありますが、前年度の予算が6億、ことしの実績として、見込みとしては8億円程度になるのかなというふうな感じがするわけですが、その3億円にした根拠というのをお聞きしたいと思います。

まちづくり課長 3億円にした根拠につきましては、前年6億に対しての半分というふうになっております。今年度、各市町村の動向を見ておりますと、半分以下になってきているというふうな、月会計ですけれども、そういう情報もあって、せめて目標数値としては半分の寄附

額というふうなことで計上させていただいております。

5 番 なぜこういうふうな質問したかと申し上げますと、歳出と歳入のバランスをとるために、この数字というのは幾らでも調整できるんじゃないのかなというふうな感じがしたもんですから、本当に思いがあつての3億なのかというようなところを聞いたかったわけであります。そういった中で3割に、今月からですか、返礼の割合が減ってくるというふうな中で、これまでのつながりを考えていくと、ことしが8億というふうな実績の中でそこまでは落ちないんじゃないかなと期待があるわけですが、要するに、この数字は自由に変えられたんじゃないかなというふうなところ、まだ疑念があるもんですから、ぜひ3億円を超えるように頑張っていたきたいと思います。

まちづくり課長 先般の一般質問の中でもふるさと納税の質問がございましたけれども、その中で今年度につきまして、来年度の先行予約も受け付けているというようなこともあって、どれぐらいの来年の状況になるのかというふうなことは、ちょっとはかり知れない部分があるんですが、今年度の半分は目標としたいというふうなことです。決してほかの会計の中での合わせ方での計上というようなことではございません。

委員長 いいですか。（「はい」の声あり）ほかに質疑ございますか。

1 番 26ページ、16－1－1 財産貸付収入でございますけれども、ここに土地建物貸付収入106万9,000円あります。これの内訳をお願いします。

総務課長 土地建物貸付収入の内訳でありますけれども、ファミリーマートに貸している土地分が42万6,000円、三菱マテリアルの分が12万3,000円、定泉寺に貸している井戸の土地の関係が1万5,000円、松岡縫製の駐車場の土地10万4,000円、郵便局8万円、それから庁舎内等にある自動販売機のジュース等の貸し付け収入が36万9,000円、電柱敷7万7,000円、松原ドライブインが1万円の内訳になっております。

1 番 土地に関してですけれども、契約というのは1年更新ですか、お聞きします。

総務課長 1年ごとの契約になりまして、評価額等が変わらなければ自動更新というふうなことでこの金額をいただくということになっております。

委員長 ほかにありますか。

4 番 26ページ、16－2－1 宅地売払収入120万、この内容をお聞かせください。

総務課長 これにつきましては、内山のほうにある宅地分譲地の、今2区画残っておりますけれども、そのうち1区画について売却の予算計上をしているというふうなところであります。

4 番 それが売れると、今現在それを予定している宅地が売れて何戸になって、あと何区画あいているのか伺います。

委員長 ちょっと、ちょっと待ってください。4番委員、さっき中山課長が内山分譲地については2区画あるうちの1区画という答弁したんですけどもじゃあ、どうしますか。2番目の質

問として再質問を許可します。2回目の質問として。

4番 残りが2区画ということで、毎年のように、当初はなかなか伸びなかったんですけども、伸びて埋まりそうな形にきているわけです。確かに条件的にも、やっぱり町の中央から離れて若干高台だけでも、J Rの防風林、防雪林があったりして住みよい環境かなと思います。これから宅地を造成するときには、ぜひ環境に配慮して住みやすい場所を、長く長く売れ残るような土地ではなく、もう競って買うような土地を、宅地開発を計画しているようですので、場所選定をしっかりとやって、こういうふうに長引かないように、ぜひ残りの区画も売却できるように進めてください。

総務課長 これから宅造の計画をすることになっておりますので、その辺を十二分勘案しながら、議会のほうにも相談をしながら場所等の検討をしてみたいというふうに思います。

委員長 ほかに質疑ございますか。

2番 26ページ、2-2物品売払収入とありますけれども、この中身についてお聞きます。

総務課長 物品関係については、館内図等を売り払いをした場合について、この款項目に入れているというようなことになります。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 24ページです。これは15-3-3県の委託金でございますが、一番下でございます。右のほうに森林計画自立事業委託金というのがございますが、これはどういう事業をするため、県から委託、委託金というか、40万ほど入ってくる事業なんでしょうか。

農業振興課長 森林計画自立事業委託金の内容でございますけれども、これにつきましては、森林法に基づきまして、県知事が県内の民有林について森林計画を樹立するものでございます。

委員長 マイクもうちょっと近づけて。

農業振興課長 はい。平成30年度につきましては、最上、村山管内、北村山管内というふうなことで指定をされまして、県が所有する最新の課税データと町の所有するデータを照合するというふうなことの業務内容になっております。これは、県のほうからの委託業務でございまして、5年ごとにこの計画を樹立するために行われるものでございます。以上です。

6番 歳入ではこれしか見えないんですけども、歳出のほう見ますと、今、課長が言った森林所有者情報システム補修管理委託料か林地台帳整備事業委託料、この委託料にこの県の委託金が充当されるということなんですか。

委員長 暫時休憩します。

午前10時36分 休憩

午前10時37分 再開

委員長 再開いたします。

農業振興課長 歳出のほうの充当先でございますけれども、林地台帳整備事業委託料の項目になります。以上です。

委員長 ほかに……いいかな。ほかに質疑ございますか。

3 番 16ページ、12－2－1 児童福祉費の負担金、認可保育所保護者負担金、これ保育料だと思うんですけども、昨年度より120万減っておりますけれども、これ単純に園児が減ったと、こういうふうなことでしょうか。

健康福祉課長 この積算につきましては、平成29年度の調停額ありますけれども、調停額3,184万円なんですけど、これの95%を見込んでおります。園児がだんだん減っておりますので、保育料の額もだんだん減少してまいります。以上です。

3 番 そうしますと、所得によって違うわけですね。そういうふうなもので減ったというふうなわけではないと、園児だけだというふうな理解でいいんですか。

健康福祉課長 所得によって正式な判定はしますけれども、まだ民税固まっておりますので、今年度の調停額を参考にして、かたく見積もって95。それから今年度は138名、現在申し込みがあるんですが、園児も若干減っておりますので、95でかたく見積もったところでございます。以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。ありませんか。ないですか。

では、異議なしと認め、一般会計歳入の質疑審査を終結いたします。

一般会計歳出に入ります。

第1款 議会費の読み上げをお願いします。

総務課課長補佐 （朗読、説明省略）

委員長 では、これより、第1款 議会費の質疑に入ります。質疑ありますか。

（「なし」の声あり）

委員長 質疑なしと認め、第1款 議会費について質疑審査を終結いたします。

第2款 総務費を審査します。読み上げをお願いします。

総務課課長補佐 （朗読、説明省略）

委員長 これより質疑に入ります。質疑ございませんか。

6 番 前のページから順番に聞いていきます。24ページですか、これは2－1－1、25ページの表をごらんください。

委員長 ちょっと、25ページ……25ページ歳入んねがず。25ページは歳入なるんが。25ページって言ったよにや。

6 番 ごめん、ごめん。35ページ。

委員長 35ページね。

6 番 目が見えないんだ。済みません、35ページです。済みません。

35ページの表の下から、下が5、4。その上、3段上、縄文国宝自治体首長懇談会負担金と
いうのがありますけれども、5万円でございますが、これはどういった会議といいますか、
会合するための負担金なんでしょうか。

委員長 どこだ、担当課は。

総務課長 これにつきましては、縄文の国宝が出土したり、今その場所等のところが対象であり
まして、その縄文国宝自治体首長会議を新たにつくっておりますけれども、十日町が事業主
体で、十日町市、舟形町が加盟する団体であります。

6番 団体加盟はわかりましたけれども、何を目的にする会議、首長さん方の会議なんでしょう
か。

総務課長 東京オリンピック・パラリンピックにおきまして、今その火焰土器を聖火台に採用し
てほしいとか、いろいろ活動しております。また、縄文時代というのは人々が物をわけ合っ
て生活していたというふうな時代で、そういった文化を東京オリンピック・パラリンピック
を機会に、そういった情報を発信をしたいというふうなことで、それに向けての活動するた
めにその団体が、3団体でそういった懇談会をつくったということでございます。

6番 今言ったその懇談会、十日町に町長もおいでになって、もうそういう首長さん方の会議は
していますよね。この事業はことし初めてこう出てきましたよね。今までのやつというのは
何をもってやっておって、これにかわる、何ていいますか、変えてきた経緯といいますか、
ちょっとその火焰土器の聖火台の話はわかりますけれどもね、目的がちょっと、主旨がよく
見えないです。そこ町長から答弁願えますか。

町長 全国組織としましては、縄文文化発信サポーターズということで、北海道から沖縄までの
自治体が参加している会議がございます。

この縄文文化国宝自治体首長懇談会というのは、その中で国宝に指定されている土器、土偶
を持っている自治体で、さらにその分野の中で東京オリンピック・パラリンピックの聖火台、
さらにはメダル等、表彰台等、とにかく縄文文化というものを、日本にすばらしい文化があ
るというふうなことをやろうということで昨年からは始まっております。昨年の京都の国立博
物館で100周年記念があったときに、その際に3つの団体が集まりまして、こういう団体をつ
くろうというふうなことになりまして、昨年についてはそのアピールをして、今年度からそ
の活動をさらに2020年度までにしっかりと運動していこうというふうなことで、今のところ
3団体なんですけど、そのほかに函館と青森と、国宝の土器、土偶を持っている5つの市町村
を巻き込んでいこうというふうなことで、今のところ活動をしているところでございます。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 次のページ、36ページ、2-1-4会計管理費、右のほうに指定金融機関取扱手数料130
万、前年度と同じと載せていますが、先般の全協の中で改訂来たようなふう、そんな説明が

ございましたが、前年度と同じこの130万を計上したというのは、先般の全協とどういふかわりがあるのでしょうか。

会計管理者 全員協議会のときに説明したとおり、1月におきましては指定金融機関の取扱手数料、これが郡内で一番高い状況でありました。それは間違いございませんでしたけれども、その後、農協さんのほうに疑義があるとして文書を出しております。その中で、協議の中で、30年のほうから戸沢さんや鮭川さんと同じようなレベルまで下げていくということで了承は得ている状況であります。

この予算につきましては、12月にもう計上しておりますので、今までと同じように120万ということで計上した次第でございます。

委員長 130万ね。130万だべ。

会計管理者 130……はい、130万。120万に税ということで計上いたしました。

6番 そうしますと、計上のタイミングで130、同額を計上せざるを得なかったけれども、変更について今後も検討するんだということなんでしょうか。（「農協さんの……」の声あり）

委員長 手挙げてからね。

会計管理者 農協さんのほうでは、30年4月のほうからほかの町村と同じレベルまで下げるということで了承は得ていますので、金額的には100万に税ということになるかと思います。以上です。

6番 そうしますと、100万に下げるともう決めたんですか。双方で。（「はい、委員長」の声あり）

委員長 ちょっと待って。

6番 決めるのであれば、指定金については議会に諮らなくちゃいけないんじゃないの。もう指定管理者がもう決めちゃったということはちょっとおかしいんじゃないかなと思ったので。

町長 指定金融機関の指定につきましては議会の同意を得なければいけないので、議員おっしゃられるとおりなんですけど、その契約の委託料につきましては、その指定金融機関とお話をするというふうなことがあります。それで変更することというふうなことで、今までも値上げしてきた経過がございます。

今、会計管理者が申し上げましたのは、とりあえず3つの農協が合併して新しく、4月1日から新しい農協になるんですけれども、その際に指定金融機関をしている自治体があつて、それぞれの統一された考え方で単価が決まらなかつたそれはおかしいのではないかというふうなことで、農協さんのほうに申し入れをしているところでございます。そういったところで、農協さんのほうとしても善処したいというふうなことで、その点については先ほど会計管理者が申し上げたような値段交渉を今しているところでございます。決まりましたならば、またちょっと全員協議会等でお話をさせていただきますけれども、そして、その上で、改めて

農協さんのほうでも5つの自治体ございますので、その5つの自治体さんと改めてその単価等の考え方について、統一した考え方の中で指定金融機関の委託料を決定したいというふうな農協さんの意向もございましたので、今のところはそういう状況でございますので、まだ指定金融機関については組織の変更というふうなことで、今のところは4月以降も継続をされるというふうに思っているところでございます。

委員長 ちょっと待って。（「4回なるか」の声あり）もう一回。やります。

じゃあ、7番委員の本件に関する質疑は既に3回になりましたが……（「6番」の声あり）済みません。ごめんなさい。6番委員の本件に関する質疑は既に3回になりましたが、標準会議規則第55条の引用により、もう一回に限り特に発言を許可いたします。

6番 済みません。農協が一緒になるのはそれはわかりますけれども、相手が市町村それぞれ違うわけですし、それが指定金なわけですし、この間の全協でも言ったけれども、指定金なり、指定代理なり、収納代理なり、それぞれの取り扱い量によって手数料というのは違うんじゃないかなと私は思うんですよ。そのあたりの整理をして、こういうことだからということで根拠を示さなければ、やはり130万から100万にしますとかつてね、みんな一緒にします、それじゃちょっとおかしいと思うんですよ。そのあたり今後もっと精査すべきと思うんですが。

町長 おっしゃられるとおりでございまして、その点について、今後、やはり4月1日までの間で調整をするということができなかったようでございます。ただ、舟形町が一番高いというふうな事実がございますので、その点についてはJAさんのほうで大変前向きに検討していただいて、若干の値下げがあるものというふうに思います。

ただ、議員さんおっしゃられるとおり、その統一した考え方に基づいての積算というふうな形になるように、4月1日以降にもう一度自治体と、それから農協さんのほうで検討会議を開くというふうなことで、その際については、先ほど言った取り扱い量とか、取り扱い金額とか、その業務体系によってその委託料が決まってくるというふうに思います。したがって、それ以降については統一した考え方の中で委託料が決定されるものというふうに思っているところです。

委員長 ほかに質疑ございますか。（「関連をお願いします」の声あり）関連（「はい」の声あり）1回しか、1回しかできないよ。

5番 ただいまの質問の中で、前回の全協の中で一般金融機関、きらやか、荘内、山銀も含めて、当然舟形に支店を出すというような条件になろうかと思いますが、この辺についてどういうふうな話し合いが行われたのか。要するに、一般金融機関は全部だめだったというふうなところで、やはり農協しかないというような形で農協にいったのか、この辺のところをお聞きたいと思います。

委員長 暫時休憩します。

午前10時58分 休憩

午前10時58分 再開

委員長 再開いたします。

会計管理者 ただいまの質問にお答えいたします。ほかの金融機関、指定代理金融機関さんの中で、指定金融機関としてご協力いただけるところがあるかどうかということはこちらのほうでお聞きいたしました。その中で協力いただけるということでお返事、協力のみということで山銀さんなり荘内さん、きらやかさんが協力いただけるということで、そののみ返事をいただいております。（「それは支店」の声あり）いえいえ、支店ではなくて、指定金融機関としてお声がかかれば協力する体制はあるということで返事はいただいております。

委員長 暫時休憩します。

午前10時59分 休憩

午前11時02分 再開

委員長 再開いたします。質疑ございますか。

6番 指定金を指定する、その、何ていいます、最初、取っかかりというのは、自治体が金融機関に言うんじゃないで金融機関からが指定してくださいっていうの自治体に来るんだよ。逆じゃないのそれだったら。何とかうちの、うちは金融機関としてやっていきたいので、舟形町さんお願いしますです。そういうやり方が一番最初ですよ。逆じゃないですか、今町長言ったのは。それで、手数料なんていうのは最初はなかったんですよ。町長。手数料なんて最初考えないんですよ。お願いするわけ。例えば、私が農協であればね、何とかうちを指定金融機関にしてくださいって町にお願いが来るわけだから。何で手数料なんかいらんないかっていうと、金融機関としては金が入ってくるわけだ、国とか県から。全部指定金通ってくるわけだ。そこであれば運用できるわけだ。あとそのほか、一借とか何か発生すればその利息で運用できるわけだ。そういうことがあって、手数料なんて最初はなかったのよ、考え方が。ただ、今、金融機関さまざま、山銀のほうに町の財産を預けたり、証書なり何かで預けてばらばらになっている、ばらばらって言い方あれだけれども、分散しているわけだから、それからのその利息運用できるうまみというのは余りなくなってきたし、一借そのものもなくなって、実入りがなくなってきたもんだからさまざま手数料、取り扱い件数も多くなってきたから、その分に見合う分の手数料欲しいですよってことでそれが進んでいくわけだから、金融機関側から先、自治体に話をするのが一番取っかかりですね、指定金の指定というのは。

委員長 簡潔に。

町長 自治法上でいって、こちらのほうからというふうなことで募集という、いわゆる入札と同

じような考え方の中で、農協さん以外にも金融機関あるわけですから、今回は契約が3月いっぱい切れるというふうなところもあって、改めてこういう形でどうでしょうかというふうなことで、公募に近い形でお話をしたというふうなことでありますので、金融機関から必ず来なければいけないというものではないのではないかとこのように思っているところです。ほかの自治体についても同じようにしているというふうに思います。

6番 私、言い方悪かった。金融機関が来るんじゃないくて、金融機関からまず手を挙げて、うち指定してくださいと、山銀なり荘内なり農協さんいるわけだ、金融機関が。そこからみんな手を挙げて、舟形町さん、何とか私のところ指定金融機関にしてくださいということで、その中でさまざま条件とか話をして、それから進んでいくわけだから、一方的に自治体から、じゃあ山銀さん、荘内さんという指名するものではないと、そこを言いたかったのです。

町長 その点についてはわかりました。

5番 今回農協との契約の中で金額を減額するというような話ではありますが、今回の改正については、再度指定金融機関としての農協との、町との契約を結ぶということなんでしょうけれども、今回の契約というのは何年間か。

そしてまた、この金額というふうなことについての見直しは今後どういうふうにしていくの。要するに、新しい農協できた段階で、各、今合併農協で指定金融機関になっているところで業務の、何ていうか、点検をしながら、その金額等の検討も入るかと思います。そういった中で、今回100万に下げたというふうなことがずっとそれでいくのか、それとも農協の中で調査してもう一度合わせるような形でやっていくのか、この辺についてお聞きしたいと思います。

会計管理者 まず、期間でありますけれども、1年の契約で、疑義があるときは再度話し合いをするという契約の内容になるかと思います。

あと、先ほど町長も話しましたがけれども、その金額の見直しなんですけれども、30年4月1日合併するわけですからけれども、合併後に合併した町村が集まりまして、本当にこの指定金融機関の金額、手数料について、適正な手数料かどうかということで再度話し合いをすることに話をしております。なので、合併して落ちついた四半期過ぎあたりに、再度この手数料について話し合いがもたれるかと思います。以上です。

委員長 いいですか。（「わかりました」の声あり）ほかに質疑ございますか。

5番 38ページ、2-1-6 まちづくり推進費の中の町内会長報酬581万とありますけれども、昨今、町内会長の業務というふうなものが、特にことしのような豪雪の場合ですと繁忙を極めたんじゃないのかなというふうに感じがします。そしてまた、その地域におけるまとめ役というふうな業務が本当にふえてきているというふうなことを考えていくと、町内会長報酬の見直しもやっていくべきじゃないかなというふうなところで、今年度のこの報酬額という

のは前年と同じなのか、この辺についてお聞きしたいと思います。

まちづくり課長 前年同様でございます。

5番 それでは、町としての見解といいますか、町内会長の業務というふうなところは、前と比べてどういうふうな感じで町としては把握しているのか、お聞きしたいと思います。

まちづくり課長 今年度につきまして、アンケートをとというふうなことで、地域づくりアンケートのほうをご協力いただいて調査していただきました。来年に向けて各地域、町内会でワークショップないしはいろんな講演会等々について町のほうでも計画しています。今年度と比較して来年度は、平成30年度については別建てで、その件についての委託業務的なところで、その配慮は予算には計上してございます。ですので、ここでは町内会の手当といいますか、報酬についてですけれども、後に出てくる戦略のところでは予算計上をさせていただいております。

5番 ぜひ、町と住民とのパイプ役としての業務というふうなことを考えていくと、本当に準公務員的な業務が多々あるわけでありまして、今後、町内会長との意見交換会の中でも含めて、この辺についても検討をしていただきたいというふうに思います。

まちづくり課長 ワークショップがこれからございますので、そういったことも含めて、こちらのほうから話題提供していきたいというふうに思っております。なお、町内会長会議もございますので、その中でも話を、話題提供させていただきたいと思います。

委員長 ほかに質疑ございますか。

1番 40ページ、2款1項の7企画開発費でございます。41ページに最上広域市町村事務組合広域交流拠点施設整備事業分担金でございます。内容をお願いします。

総務課長 交流センター、ここの分担金でありますけれども、舟形町分としましては、維持管理、本体の維持管理分として239万円、それから駐車場の分として12万8,000円強、それから建設費の償還関係、本体分と駐車場関係、そういったものを合わせて来年度の負担を325万3,000円が来年度分として計画されておりますので、その計上というふうなことになります。

1番 昨年で264万8,000円の予算を計上しています。今回、60万5,000円がふえていると思います。その60万5,000円、このふえた内容をお願いします。

総務課長 こちらのほうに広域のほうからきている理由としましては、全体の維持管理費が上がっているというふうなことで負担がふえたというふうなことで伺っております。

1番 ゆめりあのほうで今回工事が入るというふうなことお伺いしているんですけれども、そちらの方でふえたというふうなことではないのでしょうか。

総務課長 こちらのほうには詳しい資料はちょっと今のところ手持ちにないんですけれども、それらも含めて維持管理として事業費が上がっているの、その改修費用も含めての負担金というふうなことだと思います。

委員長 ほかにございますか。

3番 48ページ、2-1-19地域交流センター管理費、49ページの5番になります。光熱水費231万3,000円計上なっていますが、28年度の決算額で171万になっております。60万ふえた理由をお伺いします。

まちづくり課長 増額の理由につきましては、長沢集学校が改修、リングローさんで終わりました、利用状況が拡大しているというようなことで、その分の増というふうなことになります。歳入のほうで、その分雑入で町のほうにいただいているというふうになってございます。

3番 そうすると、交流センターですけれども、今、富長交流センターというのは使用なされているんですか。

まちづくり課長 富長交流センターにつきましては、体育館のほう、舟形中学校野球部で練習に使っています。冬季間については週3日定期で使っているという状況になっています。

3番 そうしますと、体育館だけ使っていても、これまでの交流センター使用していたのと大体同程度の光熱費がかかると、こういうふうなことを想定しているわけですか。

まちづくり課長 光熱水費については電気料のみで、冬季間については、ちょうど入り口のスロープでございますけれども、ロードヒーティングで燃料使っているというふうな状況です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 46ページです。2-1-16定住推進事業で、新規事業で孫プロジェクト事業ございますが、前回は説明を受けたんですが、いまいちちょっとどういう、何ていいますか、理解できないといえますか、町内外に住んでいる子供さんたちが舟形町に住むような仕組みづくりってわかりますけれども、その中でこの製本代と編集業務委託、これかなり経費とってありますが、どういうものを冊子として作成する予定なんですか。

まちづくり課長 冊子といえますか、については、町外にいる、今、大学生とか、あとは東京友の会で、まず町出身の方々のお孫さんとか、あとは町内の保護者の皆さんとか、というふうなことで対象に、今現在この地域で将来も暮らしていけるというふうな地域の魅力を発信しながら定住につなげていきたいというふうなことなんですけれども、特にその町の魅力を、将来的にも定住できる環境であることをPRしていく内容のものをつくり上げていきたいというふうに考えています。

6番 そうしますと、業務委託をするようですが、製本について、これはどこに委託するの。一番町の中身を知っているのは伊藤課長であったり、その他補佐じゃないの。誰かに頼んでつくってもらうの。

あとこれをつくって町内外、外の人にもっていう、まあふるさと会という話もございましたけれども、町外に住む学生さんなり、そういう方にはどういう方法で配布するの、そういうのは。

委員長 一問一答ですので、気をつけてください。（「ごめんなさい」の声あり）

まちづくり課長 最初に、業務委託につきましては、内容的なことは当然担当のほうでまとめさせていただきます。その中には、やはり地域のさまざまな職がございますので、町だけではなくて福田山の工業団地の業者等々もいらっしゃるの、そういった業者も取り上げながら、こういう職の多様性といいますか、そういったこともPRしていきたいと思っています。

それと、先ほどの業務委託については、そういった内容の情報をアイデア的な企画をお願いするという意味での業務委託というふうになっています。

6番 これは新規事業ですが、舟形町独自なんですか。独自。なんかいまいちよく、ちょっと理解ができないのは、町長のお話もありますけれども、舟形町の雪の状況をわかる子供たちとか話ありますけれども、雪の、こんないっぱい雪の状況わかったら、かえって来ないんじゃないかなと思って話を伺ったんですが、ちょっといまいち、この仕組みはわかるんだけどね、こういったお金をかけて何を、定住させるのはわかるんだけどね、仕組み、何といたしますかな、これ窓口どこ、まちづくり課が窓口なんですか。その窓口だけでここでしたんでは何もならないと思いますけれども……

委員長 簡潔にお願いします。

6番 はい。

委員長 簡潔に。

6番 済みません。

委員長 質問の要旨。

6番 はい、済みません。何言うか忘れてしまった。

もう一度お伺いします。ちょっとこの仕組み、窓口が担当まちづくり課で今後どうやっていくのか、それをお伺いします。

まちづくり課長 小中学生の、端的に申し上げますと、小中学生に地域にある業務の紹介、PRをしていくというふうなことで、あと実際に将来的に生活していく中で、こういった企業があるということを、大学生につきましては地元から出身での大学生ということですので、町内の各家庭に連絡をとっていただくような手法になるかと思っておりますけれども、そういった周知の仕方、それと、ふるさとサポーター並びに東京友の会の会員の皆さんにご協力いただきながら町の魅力を発信し、ぜひ舟形町に、今ある実家といいますか、あると思いますので、そういったところでの生活も可能ですよというふうな、あとはさまざまな各行政支援というものもありますので、そういったことも含めて子育て支援並びには住宅関連の補助支援等もございますので、そういった定住、移住についての情報等も含めた形でやっていくと。

で、先ほど、一番最初に申し上げましたとおり、今いる小学生、中学生については、いろんな福田山とか、あと町内の事業所ございますけれども、そういった方の仕事の内容を知っ

ていただくというふうなところで、あとは町の自然とかそういったものを子供たちが感じとっていただいて、将来町から出ていったとしても、ふるさとに帰ってこれるようなそういう回帰志向といえますか、そういったための内容のものを運動していきたいというふうに思っているところです。

委員長 ほかに質疑ありますか。

3番 47ページ、定住促進事業費の2番目の婚活推進事業ですけれども、結婚奨励資金融資利子補給補助金、これ10万円になっています。平成28年度が70万で29年度が100万というふうになっておりますけれども、10分の1になっているんですけれども、利用する人がいないというふうなことでしょうか。

まちづくり課長 3番議員のおっしゃるとおりでございます。

3番 利用する人がいないというよりも、この制度を知らないという人が多いんじゃないかなと私は思うんですけれども、積極的に周知する必要はないでしょうか。

まちづくり課長 周知については従前どおりやっているわけですが、今、金利等々安くなっているというような傾向もあって、そういったことも影響しているのかなというふうに考えております。

4番 ページ開いているので、その下、孫プロジェクトについて私からもちょっと質問させていただきます。今のまちづくり課長の意見でありますと、町から出ている生徒、生徒というか大学生なりを中心に置いておいて、孫プロジェクト事業を展開していくというふうな形に受け取っているんですけれども、少なからずとも小学校、中学校、保育園、地元で頑張っている子供たちがいるわけです。これも形式的には孫なわけです。ある程度成人に近い、頭の中が固まった、学力があって大学に行った生徒を引き戻すというのは大変難儀なものがあるかと思います。先ほど雪の情報やったら帰ってこないべというような状況で、やはり保育所から中学校までの間で、いる孫に対しての、いかに舟形町のよさ、地元のよさを伝えるかというところの孫プロジェクトにシフトを置いて、こういう事業を展開したほうがいいのではないかなというふうに思うんですけれども、そこら辺はどうなんですか。

まちづくり課長 小中高の話につきましては、当然、先ほど申し上げたとおりでございますが、内容的には町内の小中高生、それから保護者、教員等々についても周知をしてきたいというふうなことで、町外的には大学生、社会人というふうなことで、先ほど申し上げました東京友の会とか、あとはふるさとサポーター、あとは県の最上地域ふるさと連合とかございますので、そういった中でアピールしていきたいというふうに考えております。当然、保護者…じゃなくて、小中学生を中心にというふうなことではなくて、それも含めて一緒にやっていきたいというふうな考えです。

4番 私の孫は私に似て学力が低下していて、大学に行けるかという心配はありますけれども、

執行部の皆さん方のご家庭では大変学力優秀で、大学に行くようにしっかりと教育に力を入れているかと思います。ぜひいい会社に入れというふうに育てているかと思います。心の片隅には、もし誰か一人家に戻ってきていただければなというふうな思いがありながら、こういう家庭教育をやっているかと思いますが、この孫プロジェクトで、実際の家庭の考えというのは、まるっきりギャップがあるような状況を常々感じております。その中で、やはり地元にいるうち、小さい子のうちから、やはりしっかりとよさを伝えていくべきだと思います。成人になってから戻ってくるために予算を組んで孫プロジェクト、新しい事業組んで引き戻すよという、手ぐすね引いてもなかなか戻ってこないかと思っています。ぜひ、計画倒れにならないような形の中で、せっかく予算を組んだら中身のある使い道にやっていただきたいかと思っています。

町長 議員さんと同じ考え方でございまして、このプロジェクトについては2つの目的といいますか、目当てがございまして、1つは、議員さんがおっしゃられるとおり、保育所から中学校卒業するまで、舟形町のよいところ、そして舟形町を含め、新庄、最上地域、舟形の地理的要因でいけば東根までの広がりを持つことができるかかと思っていますけれども、そういった中で、どういった企業があるのかというふうなことをしっかりと教えていきながら、先ほど雪の話もありましたけれども、雪の大変さばかりではなくて楽しむこともひとつ大事だというふうに思っております。そこについては、先ほど言いましたとおり、企業訪問とか新庄の中核工業団地の庄司会長ともお話をさせていただいて、舟形は来年から企業訪問をさせていただきますというふうに申し上げます。

それはそれとして、ちょっと長期的なスタンスで、短期的なスタンスとしましては、大学生等々の方々が東京で暮らすよりも、働くよりも、こちらのほうでもちゃんとした収益なり生活ができますよというふうなPRをすることがもう一つの目的でありますので、この2本立てというふうなことで、孫プロジェクトを今年度から進めていきたいというふうに思っております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

2番 同じ47ページで、婚活推進事業について質問させていただきます。これだけの予算を計上しているわけですから、どのくらいの成果が見込んでいるのか、その辺について質問させていただきます。

まちづくり課長 成婚実績は今年度はございませんでした。昨年、イベント関係の事業縮小しまして今年度なっているわけですが、ノツツエという民間の会社のマッチングシステムを利用した婚活の事業につきましては3名ほどの登録者ございますけれども、見合いについて1件、仙台市のほうで実施したというふうな経過がございますが、それもちょっと交際までには至らなかったというふうなことで、という実績になってございます。

2番 ただいまの答弁で3名、3名。人数がどうのこうのという気持ちはないんですけど、やはり人口減少に走っているこの町にとって、婚活というのは一番キーマンになるのかなと思いますけれども、やはり年齢的にも20代、30代だったらまだ若い人たちですのであれのかなと思いますけれども、40代ぐらいになってくると、ちょっと話聞くとそういうものに登録するのも嫌になっているような話を伺っておりますので、やっぱり壮年期じゃないですけども、40代でもまだまだこれからという方たちが多いので、そういう方たちに対しても啓蒙活動して、この婚活の事業に参加していただけるようにやっていただきたいと思いますけれども、その辺についてはどう。

まちづくり課長 周知活動につきましては、今後とも委託しているふるさと公社のほうとも協力して周知を図っていきたいというふうに思っています。

2番 これだけの予算もやっぱり計上しているわけですので、やはり積極的に、町も業者をお願いするだけでなく、町としても何らかの、そういうものに対してやっていただきたいところも思いますので、よろしくお願いします。

まちづくり課長 そのようにやっていききたいと思います。

委員長 ほかに質疑ございますか。

1番 ただいま2番委員が質問したところと同じでございますけれども、婚活サポートセンター業務委託料249万6,000円、ここに計上になってございます。今まちづくり課長の答弁で、この中に登録した方が3名ということなんでしょうか。お聞きします。

まちづくり課長 ノツツェという民間の婚活のマッチングシステムを利用した業者さんがございまして、そこにつきましては、経費を無料で活用させていただくというようところで町が利用しているようところで、そこに3名の方が登録しているということです。

1番 それでは、249万6,000円のこの委託料の使い道をお伺いします。

まちづくり課長 ふるさと公社のほうに業務委託しているわけでございますので、そこにかかわる人件費と、あと業務システム関係での手数料かな、あとその職員の旅費、それから消耗品等々、通信費等々での金額でございます。

1番 昨年も同じように249万6,000円計上しています。果たしてこれが妥当なのか、ちょっと検証する必要があると思うんですが、いかがですか。

まちづくり課長 これにつきましては、予算、一昨年この倍ぐらい、2人の計上でございました。今年度1人にしまして、こういう状況での委託なってございまして、今年度内部的なところですけども、本来であれば組織委託というふうなことで組織対応でというようなことになるんですが、なかなか固定した人材を定着することができない部分がございまして、来年度また新たな人にかわるようなことにもなっている状況でございますので、来年度につきましては今年度同様計上させていただいているというような状況です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6 番 同じページで一番下、16目公共交通関係でございますが、いよいよデマンドスタートするわけでございますが、今度委託から補助金という形で、補助金1,150万計上してございますが、これの積算根拠をお願いします。

まちづくり課長 補助金のシステムといたしますか、ルールと算出方法につきましては、タクシーの走行距離の通常金額、値段が出るわけですが、そのうちの15%は業者負担、残りの85%について利用者の負担金300円なり500円、それを差し引いた分を補助金としてございます。まずは今現在、町営バスの事業費と同等の額を計上してございますが、まずはその距離数が、ちゃんとした距離数での把握がちょっと見込めないのが現状です。

ただ、今、何ていいますか、空バス解消というふうなことで、従来町営バスが走っているところの距離よりも少ない距離になるのかなというふうなことも考えられるんですが、まずは前年同様の金額だけ押さえていただいて、確保しておいて、まずやってみてというふうなところで、状況を見ながらということでしたので、前年どおりの予算だけ計上させていただいたというふうになっています。

6 番 そうしますと、基本となる走行距離というのも前年度、29年度の実績でそれを基礎として計算をしたということなんですか。前年……あ、一問一答、はい。

まちづくり課長 済みません。町営バスについては距離数ではなくてある程度の、ある程度じゃなくて1日幾らの報奨……報奨だっけか、賃金……賃金でやっているという……委託料になるのか……委託料で算出してございます。ただ、走行距離等々は関係ございませんけれども、おおよその事業者さんの事業収入というようなことでの対応ということで、まずは前年どおりの額を計上させていただいているというふうな状況です。

6 番 そうしますと、さっき課長が答弁したその走行距離が基本となるというのは、それは違うんですね。あとあわせて、前年同様の額を計上したということなんですが、前年度の何の分、委託料700何がし、これと同額という意味なんですか。総額の、幾らだっけ、1,300万と同額のその公共交通、今回1,100万を計上したということなんですか。いずれにしてもその積算根拠がなければ計上できないと思うんだけど。

委員長 暫時休憩します。

午前11時40分 休憩

午前11時44分 再開

委員長 再開いたします。

まちづくり課長 1,150万についての算出でございますが、昨年度の町営バスの運行記録をもとにしまして、それで大体各路線の金額を打ち出しているところです。ですので、全路線を走

っているというふうなところでの予算の算出の仕方というふうになってございます。

委員長 3回終わっていますけれども（「いいです」の声あり）ほかに質疑ありますか。

2番 同じページで、デマンド乗り合いタクシーで質問をさせていただきます。料金について町内便500円……町外便か、町外便500円、町内便300円とありますけれども、この金額をつくるに当たっての根拠というか、何をもってつけたのかお聞かせください。

まちづくり課長 今、町営バスについては200円なんですけど、当然乗るための受益者負担といえますか、バス停に行く、それからバス停までというふうなことで、待っている時間等々もあるんですけど、まずは自宅までお迎えにあがるというふうなことで、そういったサービスを加味して100円超過というようなことと、あともう一つは、全体的な経費の中でそのサービスに似合った分の経費というふうなことで100円、町営バスとは比較して100円上げさせていただいたというふうに考えています。

あとは、500円につきましても、従来堀内のほうでやっているんですけども、堀内の松橋のほうから西南部地区については県立病院まで500円というふうに金額があるんですけど、今回これが全町的になるというふうなことと、さらには自宅までお迎えにあがるというふうなことなんですけれども、やっぱり利用拡大も踏まえて変わらず500円というふうな設定でさせていただきました。

2番 これは理解しましたけれども、先般、全協のほうで4番議員からも障害者の運賃については質問していただいて、私も安堵したんですけども、やはりこういうお知らせ版とかには500円、300円と出ているんだけれども、障害者に対してのお知らせというか広報は、前と変わらないんだよということに対しての通達とか、そういうものはやっておられるのでしょうか。

まちづくり課長 今現在お渡ししてありますチラシのほうにはそういった記載がないんですけども、今ちょっと新たにつくっているチラシがございますので、それについては記載させていただきます。

2番 じゃあ、障害者についてもこれからお知らせするという認識で。話を聞きますと、その差額分は企業努力ということで、星川タクシーさんのほうで回収するというような話も聞いておりますので、ぜひ障害者に対しても、やっぱり今まで同様100円なるのかな、その辺でなるということを通知していただきたいと思います。よろしくお願いします。

まちづくり課長 そのように対処いたします。

委員長 ほかに質疑ございますか。

4番 新しい事業の車の助成。

委員長 何ページでした。

4番 44ページ、44ページの中段、高齢者先進安全自動車購入補助金。登録時点で満65歳以上の

方となっているわけですがけれども、近年確かに踏み違えでの事故が多く発生しておるわけですがけれども、それと同時に、ご高齢の方の運転マナーといいますか、なかなかちょっと緩やかなドライブテクニックになると、逆に安全でない状況が見ゆられる状況が今ふえてきているわけですがけれども、新規事業で、30年4月1日からなる事業で1台につき5万円、これからお知らせするわけでしょうけれども、車の動く時期というのは、卒業式と同時に3月がすごく車屋がPR、販売をしているときです。隣のばあちゃんが3月で買って、隣のじいちゃんがこれ見て4月で買って、5万円でけんかしないといいんですけれども、さかのぼるような計画は考えていませんよね。どうでしょうか。

委員長 誰かな、課長は。答弁。

住民税務課長 当3月の定例議会で可決なれば、すぐ周知のほうに入るんですけれども、3月中に契約、納車が4月以降であれば、3月中契約しまして納車が4月以降に適用するというところで考えております。以上です。

4番 今販売契約というか、売買契約というか、登録して、納車が4月だとオーケーだと。でもこれいっても、4月の1日前に届いた場合というのはあっぺけっど、そこら辺、何かちょっと難しいところが、いろんな事業の中で境目というのは非常に難しいかと思います。特に個人に対してのわずかでも補助金というのは、やはり境目を気にして、いいんじゃないのとかあっていいながらもめごとの範囲となろうかと思しますので、そこら辺の取り扱いを緩やかに平等になるような、ソフトな考えでやっていければなというふうな思いがあるわけです。

その中でもう一つですがけれども、この登録者が65歳以上の本人名義で登録する車両でないとだめなのか、それともやはり家庭環境上、息子さんなりの登録にしておいて、ばあちゃん、じいちゃん乗んならというような、いろんな絡みがあると思います。そこら辺の状況の決まりというか、仕切りはどういうふうに考えておりますか。

住民税務課長 契約者が65歳以上の高齢者ということに限らせていただきたいと思います。以上です。

4番 そうすると、使用者と所有者が違っていても大丈夫だというふうに、今の意見は私、理解したんですけれども、それでよろしいですか。

住民税務課長 購入方法を今、いろいろリースとか、いろいろあると思うんですがけれども、使用者が、契約者が例えばリース会社であっても、使用者が65歳以上のご本人であれば、これは該当なるということで考えております。以上です。

委員長 いいですか。

2番 関連ですがけれども、今……

委員長 関連。

2番 関連でいいや。

委員長 関連、はい。

2 番 今、答弁していたんですけれども、使用者と所有者、リースじゃなくて、例えば家族の中で年をとった方が、免許証がなくても所有者にはなれるわけですよね。使用者にはなれないのかもしれない、使用は免許なければできないんですけれども、所有者と使用者の違いというのはそこにあると思うんですよ。だからそこを、私も聞いていてちょっと腑に落ちない。リースじゃなくて家族の中で所有者と使用者の違い、どこで線を引くのかをお伺いしたい。

住民税務課長 お答えします。あくまでも使用者の、使用者の方が65歳以上の高齢者といいますか、それで判断させていただきます。

なお、先ほど、済みません、4 番議員の質問の中で、リースもということあるんですけれども、リースは適用外です。済みません。申しわけありません。

委員長 それでは、一旦休憩をいたしまして、13時、1 時から開会しますのでよろしくお願いします。

午前 1 1 時 5 4 分 休憩

午後 1 時 0 1 分 再開

委員長 それでは、委員会を再開いたします。

第 2 款の質疑を受けたいと思います。質疑ある方の挙手……。

1 番 46 ページ、2 款 1 項 15 目ですね、定住推進事業ですけれども、先ほど、先ほどというか、ここで結婚祝い金の交付金ということで 100 万ございます。先ほど、課長答弁で、去年は婚姻した方がないというような何か答弁でしたけれども、この祝い金は今幾ら交付になっていますか。1 組。

委員長 いいですか。

まちづくり課長 先ほどの小国議員からの質問では、あれは借入金の話で、借入金の対象というか申込者はいないということです。祝い金についてですけれども、平成 29 年度につきましては 6 件、今現在ございます。

委員長 ちょっと待って。幾らというのも聞いたにや。幾らって聞いたんじゃないっけか。

まちづくり課長 結婚祝い金については 10 万なんですけど、婚姻時に 5 万、その 1 年経過してからまた 5 万というふうになってございます。

1 番 6 件ということで単純に 60 万。思い切って 30 万とか 50 万、1 組に今後祝い金を渡すというような、そういうふうなことは検討していく余地はないのかなというふうに思います。なかなか人口がふえないとかいろいろあるんですけれども、思い切ってそういうふうな形で目に見えるちょっと施策もいいのかなというふうに思いますけれども、そこら辺、今後検討していく余地はあるかないか、お伺いしたいと思います。

町長 すばらしい提案をいただきましたけれども、結婚祝い金をふやして結婚する方がふえるのであればそのようにやりたいというふうに思いますが、必ずしもそれに結びつくというふうなことではないのではないかというふうに思っております。基本的には、やはり若い世代をここに、舟形町にとめ置いて、そしてここで住んでもらうという施策の中で、結婚したときにおめでとうという意味での祝い金であるというふうに思いますので、まあ、10万が安いとすればある程度の検討余地はございますけれども、それを目当てにとりますと、結婚後またどこかに移住、移住といいますか転居されるというふうなこともあるかと思しますので、そういった意味も含めながら、総合的に結婚をする方をふやすような努力をしてまいりたいというふうに思います。

1 番 結婚する方は祝い金を目当てに結婚するわけではないと思うんで、結婚のご褒美というような形の捉え方のほうがいいのかなというふうに思います。やはりそういった施策も一つの手かなというふうなことで、ちょっとご提案差し上げた次第でございます。今後やっぱり状況見ながら、そこら辺も検討していく余地はあるのかなというふうに思いますので、今後の町長の施策に期待したいと思います。

委員長 ほかに質疑ございますか。

5 番 ページが40ページです。2－1－6の空き家解体事業補助金200万ですけれども、この内容を見ますと補助額を倍にするというふうなことですけれども、非常にこれまで解体できなくて重い案件が、空き家がいっぱいあるわけです。基本的にはそういうふうなところを解決していくための一対策としての空き家対策事業、今回上げた理由なのかなというふうに思いますが、本当に危険で危ないようなところについての空き家の解体を進めるに当たって、この補助金上げたからどうのこうのじゃなくて、むしろ大事なのは、そういうふうなところをいかに解体をしていただくように進めるのか、具体的な対策といいますか、金額じゃなくて、どういうふうな対応をしていくのか、お聞きしたいと思います。

住民税務課長 お答えしたいと思います。予算については、今、議員おっしゃったとおり積算等もわかっていると思いますので省きます。要件は緩和したということで補助金上げたということなんですけれども、そのほかの施策ということなんですけれども、今年度も含めてなりますけれども、特に冬場の降雪が多くて、やっぱり危険空き家も潰れるおそれがあるということで、ちょっと結構立ち入った形で県外の方にいろいろ電話差し上げたりして、冬の降雪による潰れもそうなんですけれども、空き家の、今実際に毎年冬場の心配だけじゃなくて夏場、道路等に特に面している方については、引き続き夏場についても相談をお受けするのでよろしくお願ひしたいということで、ちょっと個別に電話したところです。

特に危険空き家、この資料、お手元の資料にもあるんですけど13軒であります。この13軒の中にもそれが潰れれば、特に小さい子供さん、高齢者の方等々含めて、やっぱりこの13

軒の方に集中的に引き続き交渉といいますか、当たっていきいたいと思っています。ただ、なかなか所有者がいなくて、結局親族、その中でもやっぱり相続放棄した方もほとんど多いです。その中での交渉になりますけれども、引き続き強化してまいりたいと思います。以上です。

5番 説明した内容についてはわかりますが、安全安心というふうな観点から考えていくと、やはり早急に解体しなきゃならない空き家があるというのはもう現実です。そういった中で、強制的な形で、要するに、請求する先ができた段階で請求することとして、まずは危険の除去というふうなところで、強権的な発動によって解体を進めるというふうな考えはないんでしょうか。

住民税務課長 今、5番議員さんがおっしゃることよくわかります。ただ、やっぱり法的な問題なり、そこは個別に応じて、必要あれば弁護士等々にも相談しながらという件も生ずると思います。件数全体を減らしていくということだけではなく、それが一番なんでしょうけれども、特に除去に向けてハードルがよりこう、何ていいますか、私たち行政側の努力で何とか解決するもの等も優先しながら進めていきいたいと思っています。以上です。

5番 これまでの回答聞いていますと、これまでと同じような対応していくというふうなことが聞こえません。やはり本当の意味で、この危険空き家の解体というようなことを考えていけば、やはりもう一步踏み込んだ対応というものをやっていかざるを得ないというような現状になっていることも確かなんで、この辺について町長の考えをお聞きしたいと思います。

町長 奥山議員が言われることも重々わかっているんですけども、法的なところでどこまでできるかというふうなところがございます。一步進めた形がこの空き家対策で、非課税世帯とか、あと補助金の額を上げたのがまず一步だというふうに思っております。あとは強権的にというふうなことになりますと、法的な問題をクリアしていかなければいけないということもありますし、そういったことを今すぐというふうなことにはちょっとならないかというふうに思います。

したがって、それをするための準備段階なり、それをするまでの年数というものも必要になってくるかというふうに思いますので、そういったもろもろのことを、これがゴールではなくて、この先も議員さんがおっしゃられるとおりの内容で、できる限り対応できるようにしてまいりますけれども、すぐに、一朝一夕にできるということではないので、その点についても少しお時間をいただきながら、できる限り危険のないようにというふうに思っております。

また、一番あれなのが、危険な空き家を出さないようにしていくことも、これ重要なことだというふうに思いますし、そういったところで、空き家になりそうなところのことなんかも地域カルテの段階で、つくるときに皆さんで考えていくというふうなことも一つ、大きな空

き家を出さないための改善策としては有効なのではないかなというふうに思っているところ
です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

3 番 同じ41ページになります。地域づくり支援事業、この中で除雪機械購入費補助金200万円
なっています。29年度の申し込み件数というのは今現在何件あるでしょうか。

まちづくり課長 現在24件になります。

3 番 最後の申し込みなされた方というのは、何月に申し込みをなされたんでしょうか。

まちづくり課長 平成30年2月21日に申請なっております。

3 番 28年度の決算を見ますと260万円の決算になっているかと思えます。今200万になっており
ますけれども、もう少し予算額をふやしたらどうかなと思えますけれども、この件について
はどうでしょうか。

まちづくり課長 毎年同じ額といたしますか、必要性というふうなことなんですけれども、いろい
ろ克雪の対策として小型除雪機を購入して対策しているご家庭がふえてきているといいた
すか、昨年よりも比べると若干少なくなっているというふうな状況ですので、状況的には
少し件数を減らした形で見込んだというふうになっています。

委員長 ほかに。ほかに。

9 番 38ページのまちづくり推進費の説明種目で、39ページの……

委員長 マイク近づけてください。

9 番 39ページの地域おこし協力隊事業の内容をお伺いします。

まちづくり課長 現在2名おります。その2名分の予算経費でございます。

9 番 地域おこし協力隊はこの制度できてから結構年数もたっておりますけれども、この最終的
な目的は、協力隊員がこの舟形町に永住するという大きな目的もあったと思います。その関
係上、今まで協力隊になってきた隊員の方で舟形町に永住している方が何名いるのか、お伺
いします。

まちづくり課長 3名でございます。

9 番 私の記憶では3名いたのかなと、まあちょっと驚いているときがあります。この協力隊員
の手当といたしますか、給料といたしますか、金子といたしますか、それは全額町……町でなくて
県、国からの公金で賄えると思っております。この関係上、もっと協力隊員をふやして、そ
して町のいろんな、協力隊員が地元の目線ではなくて、いろんな都会から来たり、関西から
来たり、いろんな関係で来ておりますので、その辺の視点を舟形町の活性化、また住民の安
全、幸せのためにも、変わった視点でいろんな形でアドバイス、協力できるものと思います。
そのような関係で、今現在2名という形でありますけれども、まだまだふやして、町のいろ
んな行事等の応援を頼みながら地域住民の福祉向上、安全向上のためにいろいろやっていた

だきたいと思いますが、もっと隊員をふやすというような考えがあるのかどうか、伺います。

まちづくり課長 昨年、今年度の状況を申し上げますと、当初農業関係でリタイアされる農家の方がいらして、その後というふうなことでさくらんぼ農家を経営してみないかというふうなことと、あと地域づくりを興味ある方いらっしゃいませんかというふうなことで募集をかけました。全体的に3名ほどの応募がございまして、いろいろ面接もさせていただいたんですが、なかなか現実を、やはりいろいろとご説明申し上げるとちょっと一歩引いてしまうというふうな状況と、もう一つは、地域づくりにつきましては、本人が福祉関係の観点でのアプローチをしたいというふうなことだったんですが、将来的なことで申し上げますと、いろいろと町の福祉行政等々のかかわりについてうまく関係できるのかというような心配もございまして、いろいろ協議した結果、取り下げしていたという経過がございまして、新年度については、まだ募集というか、予算的な措置はしてございません。一旦とめて、検討していきたいというふうに考えております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

5番 44ページです。2-1-12交通安全対策費、本年度が306万6,000円、前年度が97万2,000円。なぜこんなに差異が出たのかなというふうなところ調べたら、高齢者先進、これは50万はいいにしても、事務筆耕、この雇い上げ賃金159万4,000円、これ計上されております。前年度はなかったんですが、ここにこの人員を配置して事務をさせるというふうなことになった理由といたしますか、お聞きしたいと思います。

総務課長 昨年は2款1項1目のほうの総務管理費のほうに予算を置いておりましたけれども、昨年の機構改革で危機管理が住民税務のほうにいきましたので、支出項目が、交通安全の指導員ですのでこちらのほうに今回は計上をさせていただいたということで、新たに置いたわけではなくて、予算の支出科目を変えたというふうなことでございます。

委員長 ほかに質疑ございますか。

10番 それでは、1点お願いします。51ページの舟形町の総合戦略推進事業費ですけれども、一番下の段に住民主体の地域づくり推進事業委託料というふうにあります。この委託の内容と委託先をお願いします。

まちづくり課長 委託業務の内容でございまして、まず一つは町内ワークショップ指導及びコーディネート、次に地区計画及び町内会ビジョン作成の指導コーディネート、あと地域カルテ作成の指導コーディネート、あと酒田公益文科大学の学生が地域に入ってワークショップというふうなことでの業務、それから講演会の講師、あと年間を通じた指導とコーディネートについて業務委託を考えております。（「委託先」の声あり）委託先につきましては、東北公益文科大学です。

10番 内容的にはいろいろあるようですけれども、この地域総合戦略も一般質問でも出ましたけれども3年目になるのかな、というふうな時期に来ているわけですが、そろそろ本腰を入れてこの町の将来に向けたビジョンというか、そういうものをつくっていく時期に来ているのではないかなというふうに思うわけです。そうした中で、やっぱりある程度実績を、実績を出るようなそういった、やはり地域づくりの、何ていいますか、そのプロセス的なものをきちんと出していく時期ではないかなというふうに思うわけです。

ある程度最近の委託事業見ますと、やっぱり公益文科大学もいいんですが、国なりから来ているお金でそういうふうな事業をやりましたよというような実績に終わっていないかなというふうに思うわけです。委託先はある程度そういう仕事をもらって結構だとは思いますが、これが本当に町の将来ビジョンに役立っているのかなというふうに考えたときには、もう少し視点を変える必要があるのかなというふうに思うところです。そんな意味で、もう少し視点を変えた委託内容といいますか、地域づくりの委託内容を検討していただきたいというふうに思うわけですが、いかがですか。

まちづくり課長 昨年、昨年というか平成29年の当初においては、委託先についていろいろと検討させていただきました。

まず初めに、川西町のおきたまサポートセンターということで、今実績もあるしというふうなことでお話を伺いに行きました。それと、山形市の東北芸術工科大学のほうにも出向いて、こういった方面でのたけた先生を紹介いただいて話をしております。あと公益文科大とそのほかに地域づくりコーディネーターというようなことで、個人的になさっている、取り組んでいる県職員の方だと思えるんですが、そういった方にもお話をしていたんですけれども、やはり皆様実績を持っていらして、いろいろと町の状況等々話して、こういった方向でやりたいんですけれども。

あともう一つは、町の困り感を共有していくプロセスを、町民が共有して今後の地域づくりをどうあるべきかというふうな方向でやっていきたいという旨の相談をいたしました。

やはり先生方それぞれ、やはり自分の実績というふうなものが経験的なところで当てはめられてしまうのかなというふうな、そういうちょっと懸念されたものですから、ちょっと内部でもいろいろと検討して今現在進めているような格好になってございます。ただ、進めていく上で、いろんな方々の意見を聞ける環境だけは整えながら、今後進めていきたいというふうに考えているところです。

10番 このまちづくり、地域づくりに対しては、地域総合戦略ということで国のほうの交付金事業もあるわけですが、なかなかその交付金事業に該当しないというところに一つの悩みというか、があるのかなというふうに思うわけですが、ぜひその辺で、1つでも事業に該当するような、そういう知恵を生み出すような策を考えていただきたいというふうに

思います。

まちづくり課長 地方創生交付金につきましては、いろいろとアプローチは昨年、一昨年はしたんですけれども、今年度はこの事業に特化している形でやってございます。もっといろんな、広い意味での地域づくりなり、地域振興なりの地方創生の資金運用というのができると思いますので、その辺いろいろと探ってまいりたいというふうに思います。

委員長 ほかに質疑ございますか。

4番 46ページ、2－1－15、新規事業、民間賃貸共同住宅建設支援事業ですけれども、新しく支援事業つくったわけです。町ではひだまりから始まって保育所の隣という形の中で3棟あるわけですけれども、ああいうふうな形であるか、もしくは一戸建て、いずれにしても建て主がどちらかを選択して事業申請するという形ですけれども、これは業者のほうから、前にも質問あったかと思いますが、業者のほうからこういう要望というか、それらしき相手方がいて事業立ち上げたのか、全く相手方の予測もつかないけれども、ああいう子育て支援並びに高齢者の支援等に賃貸住宅を民間に建てていただきたいという、何も全く白での考えなのか伺います。

地域整備課長 ただいまのご質問にお答えします。民間賃貸住宅の建設関係の補助金を30年度から創設する予定であります。今回この制度を立ち上げる上で、先進地であります川西町さん等に視察に行ってみまして、その町のよいところを参考とし、補助要綱等は作成したところでございます。

それで、委員の質問であります。民間の方一本釣りで誰かコンタクトなり、ご説明をしている方がいるかということなんですが、そこら辺は事前には一応ある程度のPRもしておたんですが、今のところ私がやりたいとか、そういう業者さんについてはいらっしゃらないです。それで、広く30年度から町内、町外含め周知しまして、説明会等々も開きながら周知してまいりたいと思います。

4番 予算をつけたからにはぜひ執行して、定住促進を進めていく計画で念頭にしっかり持っていただきたいと思うわけですが、当町では所有の空き地、長沢地区であったり、堀内地区の旧学校跡地であったりとあるわけです。もちろん町の計画でも一般質問でありました学校移転なり教育ゾーン並びに住宅ゾーンということも、これからメニューを考えていくということですが、そういうふうな有効的な土地を利用して、土地は無償で役場でやって、上物を、例えば会社建ててどうなんですかとなると、またこれも受け手、受け手側というか補助を受けて建て主側のほうは若干投資、初期投資が有利になるというような形の中で進める範囲の程度の考えというのはないものなんですか。

地域整備課長 この制度につきましては、一応土地の売買は該当しないということになっております。それで、建設費補助のみでありますので、建て主の方から探していただくというのが

大前提でございます。

しかしながら、私ら担当者、町のほうにどこか休有地とかいろんな土地がないかというご相談を受けたら、それはそれなりにご紹介したり、できる範囲でですね、紹介するような形は考えておりますが、基本的には土地の売買には該当しません。以上です。

4番 土地の売買に補助どうのこうのじゃないんです。やはり町の所有地で計画がなく、都市計画とか計画の中に未定で空き地、更地だけであるというところを無償で期限なしで貸し付けて、上物を建ててもらおうというやり方を建て主さんという形です。そういうふうな、していくことによって、町の空き地を有効活用できると。もちろん空き家対策とともに踏まえてという形の中で。だからといって、今回除雪センターが移転になって前の光生園の高台に眺めがいいから建てませんかといっても、それはなかなか見つからないと思うけれども、そういうような形の中で有効的に利用して、いろんなものと組み合わせて、予算をつけたものはできるだけ執行していったって、町に定住者を多く促せるような方向性に、予算を使えるように努力してくださいということを言いたいわけなんです。ぜひそういう計画でやってください。

ただ、こういう計画については、定住促進イコール8市町村管内で人口引き合いしては何の意味もないと思います。ぜひぜひ、いろんな形で幅広く居住者を募えるような形の中で、無理無駄のない計画をしてください。

町長 委員のご指摘を十分受けとめてやりたいというふうに思います。町の所有の休業地といいますが、空き地所有地のほうについても十分な活用を進めていきたいというふうに思います。

堀内小学校のほうの跡地なんかは、今年度、平成30年度から堀内橋のかけかえ工事等が始まります。それにあわせて家屋の移転等も出るかと思います。そういったところで、ぜひ地域に残っていただきたいというふうな思いもございまして、一部宅地造成なんかもいいのではないかとというふうな話をさせていただいているところもございしますので、そういった中で広い視野に立ちまして、ぜひ町の所有地の活用も含めて、今、委員さんがおっしゃられた内容等を十分検討して、せっかくつけた1,000万がそのまま不用額にならないよう努力してまいりたいというふうに思います。

委員長 ほかに質疑ございますか。

5番 同じく2-1-15の定住推進事業の中の民間賃貸の関係で、その入居要件です。勤労者世帯なりで45歳未満というふうな条件をなぜつけたのか。要するに、今、舟形に住んでいて、この雪等が大変で、もう家を出てそういうふうなところに住みたいというような方もあろうかと思います。その上のこの住宅確保要とかってありますけれども、単純にこういうふうな賃貸共同住宅に入られるような環境というものも整備したほうがいいんじゃないのかなというふうな中で、あえて勤労者とか45歳未満とかというふうな入居条件をつけた理由はどうし

てですか。

委員長 暫時休憩します。

午後1時35分 休憩

午後1時35分 再開

委員長 再開します。

地域整備課長 ご質問の勤労者向け、勤労者向けじゃないですね、45歳という年に設定したのはどういうことかということでございますが、町の住宅に関しましては、町営住宅は低所得者向けに、団地のほうなんです、向けの住宅でございます。さらには、子育て支援住宅は期限つきの子育て世帯向けの住宅でありまして、あと定住関係、定住者住宅というものもあるんですが、それもまだ若い年齢層に向けた住宅でございます。

今回のこの民間の住宅に関しましては、それ以外の勤労者が該当するような年齢ということで、先ほども言いましたけれども、先進地の事例もちょっと参考にしながら設定したところなんです。それが大体45歳なのかなということで設定させていただきました。以上です。

5番 今の回答聞いていますと、何も考えないで見に行ったところのまねをしたというふうなことでだけのようにしか感じられません。要するに、これはあくまで民間の方が運営するんですよ。町がするんならねえべ。あくまで民間が運営するんであればそんな条件は取っ払って、そして民間の方に自由に運営させたほうがむしろ有効活用ができるというふうに考えるんです。その中にあえてこういうふうな条件つけることのほうが、むしろ民間のそういうふうな会社が来づらくなるというふうな感じします。そういったところむしろ取っ払ってしまったほうがいいかと思いますが、どうでしょう。

町長 住宅政策のやり方としてはいろいろあるかと思いますが。やはり先ほど課長のほうからもありましたけれども、子育て世代、それから老齢といいますか生活困窮者もしくは住宅困窮者に対する住宅政策というふうなものがあるかと思いますが。

その中で今回、民間賃貸の限度額1,200万の住宅を補助するに当たりまして、やはり町の狙いとしましては、勤労者世帯、今働いている世帯が、舟形町にアパートがないために新庄市に移り住むというふうなことを防止するというのが一番の目的でございます、その年代を何とか舟形町にとめ置きたいというふうなことが主なんですので、そのことをまず最初にやらせていただきたいと。

さらに、委員ご指摘のように、冬季間楽なくて、一戸建ては楽んねわというようなことについても十分認識しているつもりでございますので、そういったものについてはサ高住というような制度もあるようですし、そういったものの取り扱いというふうなこともあるのかなと思っております。

まずは、働く世代をしっかりと舟形町から出さないように心がけていきたいという思いでのこの制度でございました。

5番 考えはわかります。というのは、私、心配するのが、民間でやるのであればむしろこんな条件つけて来てくださいといっても、恐らく来る会社ないだろうというふうに思います。むしろ民間では、民間に要請すべきは、つくった後には月々4万円の家賃を、町でこのくらい補助金出すから3万円ぐらいしてくれと。1万ぐらい安くしてくれとかって、そういうふうな形の要請であれば民間での導入ということも可能かと思いますが、最初からこのような条件つけたというところに、むしろ来る会社が少なくなってしまうというふうなところで、町の思いは思いとしてわかります。であります、むしろ取っ払っちゃって自由に入居してもらった方が、むしろ早く建設できる近道なのかなというふうなところを考えます。

そういったところで、もう一度、町長の考えは変わらないかと思いますが、お聞きしたいと思います。

町長 ご指摘は十分わかるところもございますが、これについては先ほど言ったとおり、この制度設計をするに当たり、川西町さんとかいろいろ見させていただいた中で、その結果どのように人口がふえてきたかとか、どの世代がふえてきたかというふうなことの一つ要因があって、この制度をつくり出させていただいたというふうなことであります。

やはり町として1,000万もしくは1,200万の補助を出すわけですから、それなりの効果を多く出していけるというような、そういう制度にするには、どの年代を対象にすべきかというふうなことでありまして、第一義的には先ほど言ったとおり若い世代、働く世代を何とか舟形町にとどめ置きたいというふうな思いでございますので、このことをまずやらせていただいて、その後、高齢者等のことについても順次対応させていただければというふうに思います。

委員長 ほかに質問ございますか。

6番 大変恐縮ですが、午前中の続きになります。46ページの16目デマンドですが、課長の答弁で、この1,150万については前年度と同様という話もありましたよね。そうしますと、先ほどちょっと申し上げましたが、前年度の予算で委託料766万7,000円、これまでやっていた乗り合いタクシー216万円、あとガソリン代167万1,000円、これを委託料として支払しておった。その3本を足すと1,100ちょうど50万になると。これでここに、その積算でそこに、ただとんと上げてよこしただけなんですか。

まちづくり課長 事業者の収入という意味では、そこら辺の金額を目安にさせていただきました。算出する段階で、午前中も申し上げましたけれども、やはり今の乗っているバスの運行の乗客数を、タクシー4人乗車なのでそれを4人、8人いれば2台分というふうなことで、そういう意味で計算して出して、所要額を算出させていただきました。

6番 そうしますと、先ほど私が申し上げた前年度までの委託料、乗り合いタクシーの実績、ガ

ソリン代を単純に足したわけではないと。であれば、最初からそういう答弁していただければ、どういう根拠なんだという話はわかるわけであって、ね。新しく始まる事業だから、当然想定つかないと思うんですよ。ただ、想定つかないだけで、前年度同様に1,150万ポンと載せたんでは事業効果も全然ないと、意味がないというふうに感じとられますので、そのあたりちゃんとした積算根拠をしっかりと、こういうことで上げましたよと、15%なり85%なり、こういう計算をしたんですよということであれば納得しますけれども、今後こういう事業が発生したときに、そのあたりを注意していただきたいと思います。以上。

委員長 ほかに質疑ありますか。

5番 ページ42ページです。2-1-7の43ページ、最上地域政策研究所市町村協議会負担金40万とあります。この政策研究所に町職員が派遣されていって見聞を広めて、いろいろな最上地域の活性化のためのいろいろな活動をして、勉強会などをしてやっているということは、私は非常に喜ばしく思っておりますが、今後この政策研究所に対しての町長の思いというようなものを一言聞いておきたいなというふうに思います。

要するに、やっぱり職員派遣するわけですから、当然その分が別の職員に荷重になるかもしれません。そういったところで、行っている職員もやっぱり肩身の狭い思いで活動やっていたんではいい勉強もできなくなってしまうというふうなところで、町長の、トップの思いがかなり影響してくるというふうな感じします。そういったところ、今後ともこの政策研究所があるとすれば、今後とも職員派遣というものがついてくるわけです。そういった中で、町長の思いがどの程度この政策研究所に対してあるのか、お聞きしたいと思います。

町長 どのぐらいあるかというふうなことでございますけれども、最上地域政策研究所につきましては、最上地域8市町村の中で、その政策立案、企画立案というようなことについて、しっかりと職員を育てていきたいと思いますというふうなことで、共通の課題についてそれを研究しながら政策に結びつけているというふうなことでございます。

昨年、二十八、九年度は石川係長のほうで行っていただいております、公共交通関係のこと、移住関係のこととかをやっていただいているんですけれども、1つは、実現していることがございます。そういったものがありますので、ぜひ共通の課題としてこれを捉えていくということは重要だというふうに思っています。

町としても、なかなか職員の数がというふうなところでいきますと、現在の週1回ぐらいの会合というふうな、会議というふうなことについては、かなり出るところが厳しいところもございます。そういった中で、いろいろと最上広域のほうとしても、そのあり方について検討をしていくというふうなことで、余り無理のないような形にできればというふうに思っております。ただ、舟形町を代表して選出して出してやるわけですから、しっかりと肩身の狭い思いにならないように、周りの十分な理解をもって出せるように、私のほうからもその点

については担当、選出する職員の担当課、担当係のほうについては、しっかりとそれを支援するようというふうなことで申し伝えたいというふうに思います。

どのぐらいの思いがあるかというふうなことでございますが、どういうふうに表示したらいかがかわかりませんが、8市町村それぞれの首長と同じ思いぐらいというふうなことで、よろしくお願ひしたいと申します。

5番 非常に前向きな回答をいただきましてほっとしているところであります。一例として、こういうふうな研究所に派遣するというふうなことも今後ともやっていただきながら、もしこれ以外にもいろいろなチャンスがあれば、やはり職員をどんどん派遣していただいて、見聞を広めていただくことによって、これが舟形町の活性化につながっていくというふうに思いますので、ぜひとも町長の、若い町長の思いで、どんどんいろんなところに派遣して下さるようお願いしたいと申します。

町長 その点について十分理解して、平成30年度もしっかりといろんなところに職員を出して行くように頑張りたいと申します。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 44ページが一番上、10目、隣の45ページの中で社会保障税番号制度システム改修委託料がございまして、250万。昨年度700万ほどかけておりますが、これいつまで続くんですか。永遠にこれはずっと改修、改修、改修で経費がかかる事業なんですか。

総務課長 法改正に基づいて必要な場合について、改修が必要な場合出すということでありまして。去年につきましては、厚労省の分とかありまして、そういった改正を行っております。

それから、いろんな要望等がありまして、住民票の中に旧姓を入れることとか、そういう改正が、法改正があつて、それらについて対応しているというふうなことになります。

今回についてもそれなりの改修を見込んでいますので、250万程度は必要だというふうなことで計上しているところであります。基本的には、今回は、30年度は、データ標準レイアウト等への対応というふうなことでシステムの改修を想定をしております。

6番 そうしますと、今年度、30年度そのデータ云々という改修、法の改正があるとか、もうはつきりして、それに係るこの250万を計上したと。今後も何か来る可能性もあるから、これはずっと永遠に改修、改修、改修で、何を改修しているのかよくわからないんですけども、これが発生すれば一番下のサーバーの負担金なり、サーバー使用料とか、それついて回るものなんですよ。これ終わりが無いのがちょっと相対的に日常に支払っている金の何か見えなくてですね、本当にこれかかっているのかっていう、疑いたくなるくらい、代監も笑っていますけれども、そんな感じしていますので、そのあたり、これがあるからこれなんだという、こう、何ていうかね、はつきりしたものをちゃんと示していただいて予算計上すべきと思います。

総務課長 歳入の21ページのほうにも、来年度につきましては社会保障税番号制度の導入事業の補助金というふうなことで160万ほど見込んでおりますけれども、厚労省の改正とか、今言いましたデータ標準改修とかがあって、160万の事業費が国のほうでも予算化されておりますので、そういったものへの対応が出てくるだろうというふうな想定のもとに、一応見積書を徴取して予算を計上しているというふうなことになりますので、その辺についてはどこまでするのかということもありますけれども、国の法改正に伴って必要な部分でございますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

委員長 ほかに質疑ありますか。

(「なし」の声あり)

委員長 質疑なしと認め、第2款 総務費についての質疑審査を終結いたします。

ここで説明員交代のため、暫時休憩いたします。

午後1時53分 休憩

午後1時58分 再開

委員長 それでは開会いたします。

第3款 民生費を審査します。読み上げをお願いします。

総務課課長補佐 (朗読、説明省略)

委員長 これより第3款 民生費の質疑に入ります。質疑ございますか。

1番 58ページ、3款1項1目で、59ページに民生児童委員福祉活動事業という項目ございます。その中で民生児童委員協議会補助金、これが昨年より13万5,000円ほど減額していますけれども、この内容を見ますとほとんど昨年同様の予算を計上していますけれども、ここだけが減額しているというのはどういう意図があるのかお伺いしたいと思います。

健康福祉課長 この減額の理由につきましては、去年が民生児童委員制度スタートしてから100周年記念ということで記念行事がございまして、13万5,000円の旅費といえますか、東京のほうに行く経費を見ておりましたので、今年度101周年ですので、その分がないということで減額になっております。以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

3番 62ページ、3-1-9介護保険事業費、高齢者生活福祉センター運営委託料、これゆいの家だと思えますけれども825万4,000円になっております。昨年740万というふうなことで85万ほど多くなっておりますけれども、これはどのような理由で多くなったのでしょうか。

健康福祉課長 お答えします。例年ゆいの家につきましては740万円で委託を舟和会のほうにお願いしておりますけれども、ゆいの家が平成14年建築でございまして、15年ほど経過しております。ストーブが劣化をしておりますので、29年度予算で4つ補正いただきまして改修しま

したけれども、30年度に残り5つのストーブの改修予算を82万5,000円ほど追加をしまして増額となっております。以上です。

3番 この事業、昨年までは老人福祉事業に入っていたと思うんですけども、どうしてこれ介護保険事業に変わったのかお伺いします。

健康福祉課長 29年度に機構の見直しがございまして、健康福祉課は福祉係と介護医療係に分かれました。このゆいのかの管理につきましては、介護医療係のほうで担当しておりますので、介護医療係で持つ福祉関係の業務を1カ所にまとめたというふうになります。以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

1番 60ページ、3-1-3 老人福祉費の中で老人福祉事業でございます。ここに緊急通報電話取り付け等手数料、緊急通報システム端末購入料でございます。これ28年、29年、30年と毎年、金額は若干違いますけれども計上なっていますけれども、これって1カ所でなくて何カ所かに設置というか取り付けしているわけですか、お伺いします。

健康福祉課長 ひとり暮らし老人で、生活が若干不安であるというふうな方に緊急通報システムをつけておりまして、平成29年度におきましては29件の方がございます。今回3件分の新規の方を見込んでこの予算を計上しております。以上です。

1番 ちなみに、29年度まで何件設置になっていますか。

健康福祉課長 29年度の実績は29件でございます。

1番 28年度から予算計上、28年度の決算で4万8,060円がなんか決算になっているようなんですけれども、ちょっと金額が、予算と決算が随分違うわけなんですけれども、そこら辺お伺いします。

健康福祉課長 28年度の決算につきましては、新規分が1件しかなくて、そのような決算となっております。以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 60……60だな、見えないな、64ページ、3-2-1……3-2-2です、済みません。あ、ごめん、1だ1だ1だ。一番上、児童福祉総務費、右の説明の中で下から3つ目の病児保育事業公益料負担金、これは前なんか伺ったことがあったような、伺ったような気がします、新庄市でやっておる、その……やっておるじゃないな、預けることができる施設に負担をして、いつでも預けられるような仕組みだという話は聞きました。この100何がしというのは、舟形町として何人まで預けられる金額なんですか。

健康福祉課長 この病児保育につきましては、新庄市にあります病児保育所を新庄市と舟形町で共同設置するための費用でございます。新庄市のほうで29年度は6人まで受けられるような体制で進みましたがけれども、若干利用者が少ないということで、今現在3人定員の病児保育にしております。したがって、本町のほうからも3人まではお預けできるという状況

になっております。

6 番 3人定員というのは新庄と舟形合わせて3人じゃないの。舟形だけで3人なの。3人分の負担金として100何がしということなんですか。

健康福祉課長 依頼した順にお受けしますので、定数は3までですので、マックス3人まではお受けいただけると思っております。（「質問の内容は、新庄市と舟形町合わせて3人なのか。舟形町だけで3人なのか、新庄市は3人とか4人とか受けんだかっていうこと」の声あり）新庄市と舟形町の利用者合わせて3名定員の病児保育所でございます。

6 番 そうしますと、この施設というのは3名、マックス3名までしか診ることができない施設だよと。年間で100何がし計上していますけれども、例えば私が入って、私がよくなって出れば、次奥山さん入ってきて、そういう回転してマックスで3名で、3名を受けることができる施設で、年間何人入れかえしても100何がしの負担金しかいらんよという意味なんですか。

健康福祉課長 定数としては1日3名までお受けすることができるということで、回転すれば掛ける365日というふうになります。

委員長 3回に達しております。ほかに質疑ございますか。

5 番 66ページの3－2－3保育所費、保育業務委託料9,361万6,000円、前年が8,510万ということなんすけれども、前年が正職員が何人で臨時何人、30年度の予定として正職員何人、臨時職員何人なのか、お聞かせください。

健康福祉課長 29年度の体制でありますけれども、正保育士採用した方が13名おりまして、臨時の保育士が4名です。それから保育補助5名、給食職員3名、事務職（栄養士）ですけれども1名、それから運転手兼業務員1名、それに園長と副園長と主任保育士、これ町の職員ですけれども、合わせまして30名です。

そして、30年度の体制につきましては、正職員の保育士が1名退職しましたので今回3名採用しまして15名でございます。それから臨時の保育士につきましては1名退職の1名採用で4名です。保育補助が1名退職で4名、給食職員が3名、事務職1名、運転手が1名、それに町の職員3名合わせまして31名体制でございます。1名ふえているんですけども、今年度、30年度育児休暇で休む職員が1人、それから半年休む職員がいますので、その分を見込んで採用してございます。以上です。

5 番 前年比で850万ほどふえているわけですけども、1つは正職員が2名ふえた、あと最終的な人員についても1名ふえた、あとは休職者もおる関係でこのような数字になったということですけども、このふえたというのはほとんど人件費なんでしょうか。

健康福祉課長 職員を採用してふえた部分と、それから園長、園長が29年度までは町の再任用職員で町のほうから派遣しておりましたが、園長の人件費を今回社協のほうに、再任用外して社協のほうに移す関係でその分で300万ふえております。

あとは人件費の伸びとかの分で、合計でふえております。以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 済みません、ちょっと、さっきのちょっとよく理解できなかったの。例えばさっきの、病児保育です。

委員長 65ページ。

6番 マックス3名なの……

委員長 65ページにや。ページ言わなかったから、さっきと同じってしか。

6番 65ページです。例えばマックス3人ですので、舟形の子供が3人入ってお世話になって、ずっと年間通しても104万8,000円、1人入って1人しか世話にならなくても104万8,000円。いつ誰が入るか予測できないのはわかりますけれども、そういう、この104万8,000円というのはどういうふうな形で出してきたのかなと。そこです。

健康福祉課長 この104万8,000円の積算根拠でありますけれども、3つの計算でなっております。基本額と改善分、それから加算分ということで、3つの計算方法で104万8,000円を計算しております。

まず、基本額相当部分でありますけれども、この基本額の部分のいわゆる委託料が242万3,000円です。その3分の2が国と県から補助金がまいりますので、残った分を新庄市と舟形町で半分半分40万4,500円です。が基本分です。

それから改善分がございます。これも同じように委託料が242万3,000円なんですが、3分の2が国と県から来ますので、残った分を舟形町と新庄市のほうで半分ずつ40万450円。

あと加算分とありますけれども、これにつきましては実績に応じてなります。今現在予算の方では3人定員でありますので、新庄市が2、舟形町が1で計算しております。これが30年度の利用実績に応じて変更になりますので、もしかすると3月議会で変更があるかもしれません。以上です。

6番 そうしますと、加算部分で動くということでございますが、この事業というのはことしから始まったんだかさ。前何か、何でここで話題になりましたよね。あのときはまだ全然事業してなかった。ことしから、30年度からの新規事業なんですか。

健康福祉課長 病児保育につきましては、9月補正で予算をいただきまして10月からスタートしております。（「なるほど、いいですか」の声あり）

6番 そうしますと、10月からスタートして3月まで、まあ途中ですが、舟形町の実績はございましたか。

健康福祉課長 2月の段階で確認しましたがけれども、登録者は数名いるということのようでした。利用実績者はまだゼロでございます。

委員長 ほかに質疑ございますか。

(「なし」の声あり)

委員長 質疑なしと認め、第3款 民生費についての質疑審査を終結いたします。

暫時休憩します。

午後2時16分 休憩

午後2時16分 再開

委員長 それでは、再開します。

第4款 衛生費を審査します。読み上げをお願いします。

総務課課長補佐 (朗読、説明省略)

委員長 これより質疑審査をいたします。質疑ございますか。

5番 ページが72ページ、4款2項1目清掃総務費の指定ごみ袋販売手数料56万8,000円、前年が151万4,000円のようにありますが、3分の1近く減額なっていますが、その理由をお聞かせください。

住民税務課長 説明させていただきます。指定ごみの販売につきましては、29年度、今年度までなんですけれども、10%小売店のほうに手数料がつきます。それで歳出のほうで販売手数料ということでその分も含めて支出していました。それで歳入のほうでも売り上げということでその分も含めての歳入だったんですけれども、今年度の当初、商工会のほうに委託していますけれども、その中で販売手数料を入った支出、そして販売手数料が入った売り上げの町への歳入というのはちょっとおかしいんじゃないかということで、その監査の指摘等も受けまして、30年度の当初予算では1箱の実際の手数料分を引いた分、例えば1箱が2万円なんですけれども、その中に2,000円の手数料入っております。それが手数料というか10%分、それを実際に1万8,000円ということで歳出を減額しまして、歳入も減額ということで手数料分を歳入歳出とも除いているということで減っております。以上です。

委員長 暫時休憩します。

午後2時20分 休憩

午後2時22分 再開

委員長 再開します。

住民税務課長 済みません。ちょっとわかりにくい説明させていただいて申しわけないです。先ほど、ちょっと言い方大変まずかったと思います。1箱当たりの手数料の差なんですけれども、今まで2,854円、これが2,000円分の手数料が、販売店分の手数料が入った2,854円での歳出でありました。それがこの販売、先ほど言いました商工会のほう、内部での監査の中で、手数料分を引いた854円、それで支払いをしてほしいということで、2,854円から2,000円を引

いた854円の手数料の支払いということで、かなり少なくなった歳出予算であります。以上です。

5番 そうしますと、2万円のものを買った場合、2,800何がしの手数料があるということですよにや。そこから、その2,000円分というのはどこに消えるんでしょうか。払うことにやべわ。これは町の収入なんだか。

住民税務課長 歳出、何といいますか、先ほどちょっと話させてもらいました、手数料分を入った歳出の2,854円で、歳入、売り上げについても2,000円分入った売り上げということで歳入のほうに入っているんです。それを歳入歳出とも手数料分を最初から引いての歳出、そして売り上げについてもその手数料分を引いての歳入ということで、歳入歳出とも1箱当たりの手数料分を引いた金額で歳入と歳出ということにしております。以上です。

5番 そうしますと、30年度からはこの2万円のものを買っても、役場としては850円の手数料を払えばいいというようなことになるといえるということか。んだ。済みません、ばかで。

住民税務課長 内容は歳入歳出で相殺すれば変わらないんですけども、最初から手数料分を引いて、引いてというか、あれです。手数料分、1割の分を引いて、本来の商工会の取り扱いの手数料、さっき言った端数ちょっとつきます、854円、そっちのほうだけを歳出、支払いするということです。支払いの中に今までですと1割分の2,000円と、あと本来取り扱いの手数料854円、これを合わせて1箱から2,854円支払いしていたんですけども、小売店側の儲けといいますか、その分の1割を最初から引いて、本来の、30年の予算からは商工会の取り扱い手数料、1箱につき854円、それだけを支払いしているということです。今まで小売店側のものを含めて支出して、そして小売店の売り上げなんですけれども、その分も入っていたものを相殺してということで、何ていいますか、シンプルにしたところです。（「オーケーです」の声あり）

委員長 5番委員の本件に関する質疑は既に3回になりましたが、標準会議規則第55条の引用により、もう一回に限り特に発言を許可します。

5番 ありがとうございます。

そうしますと、29年度までは商工会にやるときは2万円でやっておって最終的にこうしておったのが、今年度からは1万8,000円で落とすということか。1万8,000円で落として、本当の手数料として商工会に払うのは854円というふうな経理処理に変わったということな。わかりました。

委員長 じゃあ答弁いりませんね。（「はい」の声あり）ほかに質疑ありませんか。

6番 ページが70ページ、6目の斎場管理費、歳入でもちょっと触れましたが一番下に、右の説明の一番下にございます工事請負費810万、今年度の工事というのは、工事内容についてお伺いします。

住民税務課長 説明させていただきます。今年度の斎場につきましては、2カ所の、2つの工事を予定しております。済みません、ちょっとお待ちください。

1つ目が斎場の火葬炉の操作盤の改修工事であります。

もう一つの工事が、今まで、斎場に非常用の発電機がありません。それが管内の状況を見て、やっぱり非常時に発電機がないとまずいということで、非常用の発電機の設置工事を予定しています。

この2つの工事の合計の金額が810万の予算です。以上です。

6番 そうしますと、今年度は炉の関係の工事はないということで、今2基ありますが、2基同時に今使用可能ですか。

住民税務課長 炉の工事は既に今年度終わっていますので、使用可能であります。

6番 今年度の工事で最終的に可能になったということで、いつ工事終わったのかわかんないけれども、町民の方からこういう話あります。実際に2件一緒にちょっと亡くなられた方おって、2軒の家で。葬儀の時間同じなもんだから、30分ぐらいずれて入ったのかな、うど山に。入ったんじゃない、入れなかったんですね。一緒にできなかったということで、片方が1時の葬儀なのに時間1時まで帰ってこれなかったんだ。だから一緒に、2基を一緒に使えないんじゃないのと言われたんですよ。それ実際に私2基見たわけではないので、そういう時期あったのか、2基そういうふうにせっかくあるわけだから、常時使えるような状態にしておかないと、そういう事態が発生したときに対応ができなくなってしまうので。

今言った、今年度の工事というのはいつ完了しましたか、確認します。

委員長 暫時休憩します。

午後2時31分 休憩

午後2時32分 再開

委員長 再開します。

住民税務課長 今年度の1号機と2号機の火葬炉の改修工事は7月27日完成しております。はい。7月27日完成です。なお、同時にということなんですけれども、30分から1時間、全く同時にはできなくて、30分から1時間の時間のずれで、ずらせば可能だということで聞いております。以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。ほかにありますか。

5番 70ページ、4-1-5健康増進事業費、この中で各種検診委託料1,562万9,000円、前年が1,134万3,000円ということで430万ほどふえております。検診の内容を充実し、さらに町の補助額もふやすというのが思いだろうというふうに思いますが、29年の実績はまだ出ていないと思いますが、おおよそで結構なので、この検診センターなりドックの検診率といいますか、

何%なのか。（「わかる」「何%」の声あり）

健康福祉課長 まず予算の伸びにつきましては、乳がん、子宮がん検診が2年に1回ということで、今回2年に1回する年なので検診の額についてはふえております。

そして、実績でございますけれども、率ではなくて人数でお答えしてよろしいでしょうか。総合検診の人間ドックが29年度実績が821名でした。特定健診の人数が281名、人間ドックプラス特定健診が1,102名となっております。

あとがん検診でございますけれども、胃がん検診が745名、大腸がん検診が1,033、あと呼吸器関係の肺がん検診につきましては1,267名、子宮がんはなし、となっております。以上です。

5番 人数はわかりましたが、この1,102名というふうな数字は年々ふえているのか、減っているのか、現状維持なのかをお聞きしたいと思います。

健康福祉課長 特に特徴的なところはなくて、横ばいで推移しております。以上です。

5番 ぜひ舟形町でもいろいろな施策をとりながら、健康寿命というようなものを考えてやっているわけありますんで、早期発見が一番大事なので、この検診業務についてさらに進めていただけるようお願いしたいなというふうに思います。回答をお願いします。

健康福祉課長 健康寿命の増進も含めまして、がん検診の受診率向上というのは大きな課題かと思えます。今年度受診勧奨としまして未受診者の行動パターンといいますか、過去にどういうふうな検診を受けた、どういうふうな保険に入っていた、そういったところを、行動パターンを研究しまして、別々の勧奨をしていきたいというふうに考えております。以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 70ページの4目、右の70ページの説明の上から2段目です。新規事業です。新生児聴覚検査委託料17万8,000円でございますが、これは説明見ますと早期の発見にすることということでございますが、これはどっか病院を決めておいて、そこに行くことによってその何らかの支援を受けられると、診察代といいますか、それらの支援を受けられるという仕組みになっているんですか。

健康福祉課長 産まれて早期に検診をいたしますので、主に県立病院になるかと思えますけれども、産んだ病院というふうになります。

6番 県立病院が主だということで、今、課長が最後に産んだ病院ということで、県立じゃなくてもどこかで病院にかかったところに行っても、何か申請をすればそういう支援を受けられるということでしょうか。

健康福祉課長 はい、そのとおりでございます。

6番 17万8,000円という金額ですが、ちょっとどれくらい料金かかるのかわかんないんですけども、この17万8,000円というのは何人分ぐらいという予想して計上しているんですか。

健康福祉課長 単価が7,200円で、25名程度を見ております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

(「なし」の声あり)

なしと認め、第4款 衛生費についての質疑を終結いたします。

第5款 労働費の審査を行います。読み上げをお願いします。

総務課課長補佐 (朗読、説明省略)

委員長 では質疑に入ります。

(「なし」の声あり)

委員長 なしと認め、第5款 労働費についての質疑を、審査を終結いたします。

暫時休憩します。説明員の交代をしてください。

午後2時40分 休憩

午後2時43分 再開

委員長 休憩前に引き続き、会議を開きます。

第6款 農林水産業費を審査します。読み上げをお願いします。

総務課課長補佐 (朗読、説明省略)

委員長 これより第6款 農林水産業費の質疑に入ります。質疑ございませんか。

ページで。

4番 82ページ、6-1-13、事業変わったつけ、これ、新規就農支援事業というやつが上の段の事業に変わって、この新規就農支援事業の部分が11万9,000円あるわけですけども、今回この事業で何名が該当、計画あるのか。

農業振興課長 新規就農の支援事業の補助金ということで、現在は農業次世代人材投資事業費補助金、こちらの方の名称に変わってございます。平成30年度の予算の750万円の内容としましては、5名を予定しているものでございます。以上です。

4番 その5名の方の、古い方で何年からか、ことしから新規の人含めてなのかを伺います。

農業振興課長 5名の内訳でございますけれども、4年目を迎える方が2名、3年目の方が1名、2年目の方が1名、新規の方が1名、計5名でございます。以上です。

4番 新規、新規と1年目程度ぐらいまでは私の領域班内でもまあ支援してしっかりと育成するべきだと思います。しかしながら、3年、4年目の方、4年目の方が2名いるということは、非常に育成になっていないと私は解釈します。というのであれば、3年間実績を持って、ある程度学校を卒業したりの実験、格式をもって実践に入っているわけです。5年間あげますよって施策ではなくて、ちゃんとひとり立ちするまでにという施策なわけです。使い道と使い方をずらすと、だらだら5年間いただいて、6年目にも芽が出ないというふうな育成になってしまいます。そこら辺に関してしっかりと教育じゃないですけども、補助を与える側の

見張り番としての役目を果たして、実践的に指導に当たっておられるんですか。今後の点と今までの反省点を踏まえて。

農業振興課長 この農業次世代人材投資事業費補助金のこれまでの経過と今後の対応というふうなことのご質問だというふうに思いますけれども、確かに議員おっしゃるとおり、早く一本立ちするというふうなことが目的でございますし、補助金をいつまでももらえるというふうなものでもございませんので、こういったところを半年ごとに、今の制度上では担当者と、それから指導員のほうと、それから該当者のほうと面談をしながら、半年間の農業についての経営状況なり、活動状況なりをヒアリングをしているところでございます。こういったところを踏まえまして、今後も早く補助金をもらえなくなるような、所得が上がるような対策を、今後とも担当者と指導員の方と該当者のほうと、本来の目的を確認し合って対応してまいりたいというふうに考えております。以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

2番 80ページ、81ページ、若あゆ温泉管理事業について質問させていただきます。今年度また新たに休憩場所のほうを改築する予算だと思うんですけれども、間違いありませんか。

まちづくり課長 清流センターのほうを計画してございます。

2番 ということは、あそこの、何ていうかな、入り口、あそこも改修になると思うんですけれども、ある町民から1つ懸念を言われたものですから。セキュリティーが、安全対策のセキュリティーでなくて、経営的なセキュリティーがなっていないんじゃないかと。舟形の若あゆ温泉ぐらい、何ていうかな、ポッと入って行って券売機の前に人がいない。3歩中に入られるとわからないような状態が多々見受けられるという指摘を受けました。

そういう意味でも、やはり他の温泉施設等も見ても必ず入り口には人がいて、そこで券売機等のチェックもされておるようなんですけれども、今後改修するに当たって、その辺のところも考慮するおつもりあるのかお聞きします。

まちづくり課長 今、ご指摘いただいた件については、こちらのほうでもいろいろお話伺っております。実施設計について、今年度これから入るんですけれども、おおよその基本設計は前年度の方針的なものはあるんですけれども、その後いろいろ今年度、話、課題等々を整理して、実施設計をちゃんとしたものをつくって対応していきたいというふうに考えておりますので、今2番議員がおっしゃった件についても配慮していきたいと思います。

2番 経営的にも大変厳しいということで、値上げまでしているわけなんですので、やはりその辺のほうはきっちり、万全とした体制で臨んでいただきたいと思います。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 76ページ、6－1の、これはどこですかね、4目農業振興費で、右の説明の中で、新規事業……

委員長 ちょっとマイク近づけてください。

6 番 済みません。77ページの右の説明の中で、新規事業の衛星システム開発委託料120万ございますが、内容的にはある程度把握していますが、この120万で今年度何を具体的に取り組もうとしているのかお伺いします。

農業振興課長 今年度の事業の内容でございますけれども、農業者の方へシステムの利用方法についての説明、それから実際にデータを現場での利用、それからデータの判断の仕方、こういったものの内容について利活用するためのシステムの構築を計画しているところでございます。以上です。

6 番 そうしますと、その始めるに当たって、農業者というのは希望、手を挙げた方を一堂に集まっていたいて、そのシステムについて説明をしていくと。これは担当課でやるんですか、どこからか専門家が来て、そのシステムに詳しい方が来てやる説明会なんですか。

農業振興課長 現在のところの計画でございますけれども、具体的な利活用については業者の方をお招きをして、実際に説明をしていただきたいというふうなことで考えております。以上です。

6 番 そうしますと、この内容は委託料ですので、その業者にボンと委託をしちゃうと、120万で。その120万を使ってその業者はある程度、何ていいますか、説明をしていくということで、その業者というのはもうどこかで実施されておって、その説明のプログラムといいますか、そういうものは全部ノウハウは知っている、わかっているという業者なんですか。

農業振興課長 現在、ご相談申し上げているところの業者さんにつきましては、これまで開発に携わってきていただいた会社さんというふうなことで考えてございます。以上です。

委員長 本日の審査はここまでとします。あすは午前10時より開会いたします。

これにて散会いたします。ご苦労さまでございました。

午後2時56分 散会

平成 30 年 3 月 14 日（水曜日）

予算審査特別委員会会議録
(第 3 日目)

平成30年予算審査特別委員会第3日目

平成30年3月14日（水）

出席委員（9名）

1番 伊藤 欽一	6番 斎藤 好彦
2番 小国 浩文	7番 佐藤 広幸
3番 石山 和春	8番 加藤 憲彦
4番 佐藤 勇	9番 叶内 富夫
5番 奥山 謙三	10番 八 敏太

欠席委員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため議場（会議）に出席した者の職氏名

町 長 森 富 広	まちづくり課長補佐	沼 澤 豊 通	
副 町 長 酒 井 雅 彦	住民税務課長補佐	相 馬 昇	
総 務 課 長 中 山 進	住民税務課長補佐	大 場 正 江	
まちづくり課長	住 民 税 務 課 危 機 管 理 室 長	高 橋 勤	
健康福祉課長	叶内 範夫	健康福祉課長補佐	沼 澤 伸 一
住民税務課長	伊藤 誠宏	健康福祉課長補佐	森 祐 子
地域整備課長	伊藤 武美	健康福祉課長補佐	高 橋 真 澄
農業振興課長	小野 芳喜	健康福祉課主査	東 村 貴 恵
会計管理者	須貝 孝子	農業振興課長補佐	斎藤 雅 博
教 育 長 齊 藤 涉	地域整備課長補佐	伊藤 秀 樹	
教 育 課 長 八 敏 照 光	地域整備課長補佐	伊藤 英 一	
総務課長補佐	沼 澤 一 征	地域整備課主査	相 馬 広 志
総務課長補佐	伊藤 茂 樹	教育課長補佐	沼 澤 正
まちづくり課長補佐	鍛 冶 紀 邦	教育課長補佐	大 場 君 博
まちづくり課長補佐	曾根田 健		

本会議に職務のため出席した者の職氏名

議 会 事 務 局 長 斎 藤 洋 一	係	長	石 川 忍
---------------------	---	---	-------

本日の会議に付した事件

議案第26号 平成30年度舟形町一般会計歳入歳出予算について

議案第27号 平成30年度舟形町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出予算について

議案第28号 平成30年度舟形町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出予算について

議案第29号 平成30年度舟形町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出予算について

議案第30号 平成30年度舟形町水道事業会計予算について

議案第31号 平成30年度舟形町農業集落排水事業特別会計歳入歳出予算について

議案第32号 平成30年度舟形町公共下水道事業特別会計歳入歳出予算について

午前10時01分 再開

委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席委員は10名です。定足数に達しております。ただいまから3日目の予算審査特別委員会を再開いたします。

議案第26号 平成30年度舟形町一般会計歳入歳出予算について

委員長 きのうに引き続きまして、第6款からの質疑に入ります。それでは質問を受けたいと思います。

ページ、款、項、目を言って質問してください。ありませんか。

5番 ページが76ページ、6-1-4 農業振興費の中の中古農機導入促進事業費補助金、この内容を見ますと、主食用米を販売する農家2戸以上で共同利用する中古農機ということですが、これはあえて主食用米、米にしたというのはなぜか。要するに、米以外のものでも、出荷している方であれば該当できるような、こういうことは考えなかったのかお聞きしたいと思います。

農業振興課長 それでは、中古農機の農機具導入促進事業でございますけれど、この事業を計画する上で、一つは、平成30年度に米の支払い直接交付金が廃止されるということがございまして、荒廃農地を防ぎたいということが大前提でございました。これに対応するため、また、集落営農という将来のグループ化を見据えた形で、水稻の農業経営というものをぜひ強化を図りたいということがございまして、このような企画とさせていただいたものでございます。以上です。

5番 一反部、7,500円ですか、これがなくなるというようなところでの救済策としての制度というようなことの内容ですけれども、舟形町農業の振興する上で、やはり米というのはますます大規模化されて、集約されていくのかなというような感じがするわけです。その一方では、舟形町の農業というものをもっともっと振興するというようなところから考えていけば、米だけじゃなくて、定年後でも始める農家がおるわけですので、認定農家になれないこの米以外のものの品目導入する方にも対応できるような制度設計はできなかったのか、再度お聞きしたいと思います。

農業振興課長 水稻以外にもということでございますけれど、園芸作物への支援策については、またほかの制度設計がございますので、今回、水稻に限って新しい補助制度を設けたという経過がございます。以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 それでは、1点お伺いします。

82ページでございます。6-1-15一番下でございますが、相談事業です。右のほうの説明

事項の中に営農相談専門員賃金、あと顧問賃金、この顧問賃金については、前年度あった指導官の方の賃金だと思いますが、この上の専門員賃金というのは、新たな人員を配置するという事なんでしょうか。

農業振興課長 営農相談事業費の営農相談専門員賃金の予算化でございますけれど、平成29年度におきましては、13目の担い手等支援対策事業費の中に組み入れさせていただきましたけれど、今年度は営農相談事業費のほうに賃金として予算化させていただいたものでございます。以上です。

6番 それでは、その仕事の内容が違うわけですか。その簡単に目を移動するんでしょうか。新たな取り組みがあつての移動なんでしょうか。

農業振興課長 人・農地プランを作成する上での連携推進事業というふうな財源がございまして、29年度については13目のほうに予算措置をさせていただきました。この補助の財源がなくなったというふうなものとあわせて、営農相談事業がございまして、こちらのほうに予算を30年度は計上させていただいたということでございます。また、業務内容等についての変わったというふうな点についてはございません。以上です。

6番 そうしますと、財源の関係で変更したということで、業務は変わっていないということで、29年度の決算まだ出ていないのでわかりませんが、予算額的にはわずかですけれども違いますよね。同じ人、給料上がったって言えばそれまでですけれども、同じことをさせて目が変わっただけで賃金が変わるもんなんでしょうか。

農業振興課長 臨時職員の方々の経験年数を踏まえた形で、経験年数を経過する上でのアップ分と、定期昇給的な意味合いがあるのかと思いますけれど、その分が加味されて30年度は少々ではございますけれども増額になっているということでございます。

委員長 ほかに質疑ございますか。

10番 81ページの農業体験実習館の管理運営費ですけれども、ここに修繕費から事業用の器具費までの予算がありますけれども、まず一つ、工事請負費1,380万円ですか、これの内訳をお聞きます。

まちづくり課長 工事内容につきましては、屋根の吹きかえと外壁の塗装になってございます。

10番 内容についてはわかりました。この管理委託料343万何がしとありますが、ここ2年ぐらいいはいつも360万円ほどの固定額で来たように思いますけれども、今回、若干ですけれども減らした理由というのは何かあるのかということが一つと、それから、今年度の修繕料30万円ということで少ないんですが、多いときには100万円を超える年もあります。この辺、この修繕等については、例えば指定管理者で行う部分は幾らまでとか、それ以上については町で行うとか、そういう規定があつたんですか。その辺をお願いします。

まちづくり課長 まず最初に、修繕の制限につきましては、30万円以上については町のほうでメ

メンテナンス関係を修繕費として出すというふうにしてございます。

それから、委託料の件でございますけれども、これにつきましては、こちらのほうで算出している内容によるんですけれども、管理人の賃金、それから需用費関係等々ございまして、今まで需用費関係についての内容と、あとコピーリース等々もございまして、それを実績ベースで委託先と協議をしまして、その上で委託料の金額の設定をさせていただいております。

10番 わかりました。じゃあ、最後に、今のこの体験実習館の運営状況といいますか、その辺、わかる範囲で結構ですので伺いたいと思います。

まちづくり課長 今の現状でありますけれども、この施設につきましては、平成23年度から指定管理者制度でというようなことで、NPO東北エコリサイクルネットワーク研究会というところに管理委託をしております、年間大体2,500から3,000人の利用がございまして。収入額については、約200万円ですが、宿泊利用の実績が毎年増加している傾向にございます。特に、県外の利用客がふえていると。あわせて各種イベントの開催などもしております、委託先であるNPO法人の営業努力が実を結んでいるのかなというふうに、町のほうでは認識してございます。

委員長 ほかに質問ございますか。

6番 84ページ、6-3-1水産業費でございまして、右の説明の中で、下から2つ目ですか、元気な6次産業化ステップアップ支援事業補助金300万円でございますが、内容について伺います。

農業振興課長 元気な6次産業化ステップアップ支援事業費補助金でございまして、県単の事業を活用して、小国川漁業協同組合が実施主体となりまして、鮎の開きであったりとか、6次産業化に結びつく加工品の販売を強化するために冷蔵庫等の設備を充実させるという事業でございまして。以上です。

6番 漁協自体がそういう6次化の生産をやるということなんですか。今、済みません、振興公社でやっている6次産業化ありますよね、富長小学校で。ああいうものがあって、なおかつまた別の団体にこういう補助を出してやらせるというのはいかがなものかと思いますが、そのあたり、町長どうでしょうか。

町長 この内容、先ほど課長が冷蔵庫と申し上げましたが、冷凍庫だと思います。鮎の開きなんかは、要は中間飼育してまいりまして、ある程度のところで冷凍するとその大きさのところで加工しやすくなるということで、主にその時点で冷凍すると。その冷凍したものを振興公社のほうの鮎の開きにするための6次産業化に結びつくための施設ということで、現在、家庭用といいますかその冷凍庫しかないんだそうです。容量が小さいものですから、振興公社のほうの要望に応えられないということでありまして、県のほうでの補助金を活用しながらということで、漁協のほうを検討しているというふうな内容だと思います。

委員長 補足で。

農業振興課長 町長からお話あったとおり、私の発言の中で冷蔵庫と申しあげましたけれど、冷凍庫の誤りでございます。訂正してお詫び申し上げたいと思います。以上です。

6番 そうしますと、振興公社でやっておられる6次産業が最終的な目的であって、その前の段階としてこの漁協でこういう処理をすると、そのための冷凍庫だと。漁協自体にそういう処理をする人といえますか、そのノウハウとか、そういうもの、技術を持っている方いらっしゃるわけですか。今もやっているわけですか。そこ伺います。

農業振興課長 そういうふうな人材というご質問でございますけれど、現在、飼育員の業務を担っている方について、そういった技術をお持ちの方がいらっしゃるということでございます。その人材の方を活用して取り組んでいきたいというふうな、今のところの計画でございます。

委員長 ほかに質疑ございますか。

2番 80ページ、体験実習館管理運営事業についてお聞きします。

先ほど、課長答弁の中で、修繕料は30万円以上は業者でなくて、管理事業者でなくて町のほうで考えているという答弁がありましたけど、それは間違いはないのでしょうか。

まちづくり課長 そうでございます。

2番 そうすると、先ほど答弁の中でも年々利用者が増加しているという話もお伺いしましたけれども、風呂場が小さいというご指摘が町民の中から出てますので、それだけニーズが高まっているのであれば、風呂場等の改修の考えはあるのかをお聞きします。

まちづくり課長 今現在ということであるとすれば、今そういう検討はしてございません。将来的に県外の利用者も見込んでいただけるようなNPO法人でのやり方といえますか、前向きなやり方なんですけれども、歳出、歳入と採算性を考えた上で、今のところそういった計画はございません。

2番 今のところないという答弁ですのであれですけれども、年々ニーズが高まってくるのであれば、それも含めて検討していただきたいと思います。

まちづくり課長 現状の動向がどういうふうに、傾向を捉えながら考えていきたいと思います。

委員長 そのほか質疑ございますか。

10番 85ページの林業振興費ですけれども、一つ前から疑問になっていた点がありますので、伺います。この中に、鳥獣被害対策に関連する項目が4項目ほどあります。皆さんもご存じのように、最近では野生の動物の農作物に対する被害というのがかなり拡大しているという状況があるわけですけれども、実際に被害が出ているのは畑、いわゆる農作物が主なのではないかなと思うわけです。そういう観点からいきますと、林業振興費というよりも農業振興費等にもこうした鳥獣対策の予算というものを置くべきなのではないかと感じているわけですので、その点に関してはいかがですか。

農業振興課長 鳥獣被害対策関係の予算の措置ということでございますけれど、今、10番議員さんご指摘のとおりでございますして、30年度の当初予算編成においても新たな事業であったり項目の検討ということも議論の一つとしてはございましたけれど、まず29年度と同じ項目の中で予算化をさせていただいたということでございます。

また、被害の拡大ということもございますので、今後、改めて検討していきたいと考えているところでございます。以上です。

10番 それでは、特に予算を編成する上でのシステム上の問題とか、そういうふうな規則というのはないわけですね。だとすれば、ぜひ農業振興費の中で、やはり農作物の被害対策を行っていただきたいと思いますので。

農業振興課長 財政をつかさどる所管課のほうとも相談させていただきながら対応していきたいと考えております。以上です。

5番 同じところで、84ページ、6－2－1 林業振興費の今言ったところで、ちょっと支出の仕方教えていただきたいということです。一つが、鳥獣被害対策実施隊員報酬4万6,000円、これは1人に対して幾らというような形で支出になるのかなというふうに考えますが、その下のほうに有害鳥獣駆除委託料10万円とあります。これは、前、俺聞いたところでは時給1,000円とかで支出するというように聞いておるんですけども、この内容、この文言から言うと、10万円、もう最初から委託料を支払うというふうな感じに捉えることもできますので、この辺の支出の仕方についてお聞きしたいと思います。

農業振興課長 有害鳥獣駆除委託料の内容でございますけれど、町が所有する箱わな等の管理というふうなことも猟友会のほうにお願いしているということがございます。あわせて、初期活動ということで、駆除活動以外での広報活動ということも含めた委託料がこの猟友会のほうに委託している内容でございます。1時間当たりの1,000円という賃金の話もございましたけれど、こちらのほうの内容については、国からの交付金の事業で支出していく賃金の活動の内容になってございますので、町の予算のほうとはまた別の事業ということでご理解をいただきたいと思います。以上です。

5番 そうしますと、この活動、時給当たり1,000円の支出については、国から直接その活動した方に行くという理解でいいんですか。

農業振興課長 交付金の受け皿に関しては、町で組織している駆除隊のほうを受け皿になりますので、各個人に直接賃金が国から支払われるというものではございませんので、まずは実施隊のほうの口座で一旦受けるというふうなものになってございます。以上です。

5番 ちょっとぼんやりしているところあるもんですから、再度確認しますが、国から直接その組織のほうに支払われて、そこから個人のほうに再度支払われるというような流れで行くということですね。はい、わかりました。

4 番 今の項目と同じになりますけれども、去年は50万円予算をつけておいて、今回の議会で、補正で30万円減額になっております。20万円が執行したという形なわけです。この項目で委託に要した作業で、29年度は約20万円で済んだのでということから、今回の予算は10万円という形になったんですか、それとも、今審議したような、国から来る、直接払われるものがあるからここで減額しているという形なんですか。

農業振興課長 まず、平成29年度の事業に関しては、実施隊ができるまで、4月、5月ということで、まだ交付金の対象外の期間がございましたので、その分も含めての委託料の金額の算定をさせていただいたところでございます。平成30年度につきましては、先ほど申し上げたとおり、箱わな等の管理の委託料の分、それ以外については駆除活動について交付金事業のほうで対応していきたいというふうな予算編成の内容でございます。以上です。

4 番 まあわかりました。大体わかりましたけれども、それでは、29年度途中から体制が変わってきて、なおかつ県のほうでも有害駆除に力を入れながら、時期を延長して3月だかにもありましたよね、有害駆除週間だか、月間だか、そういう中で、今年度の成果、わなもおりから輪っかだっけか、ワイヤーで引っかけるやつで、それに両方セットして捕獲しようという面と、猟友会の人鉄砲で撃つという形であろうかと思えますけれども、どの成果が上がっているのか、今回の駆除の体制。今現在の実績を伺います。

委員長 暫時休憩します。

午前10時27分 休憩

午前10時28分 再開

委員長 再開します。

農業振興課長 平成29年の12月25日に開催した舟形町鳥獣被害防止対策協議会総会時の資料に基づきまして報告させていただきたいと思えます。

このときの資料の内容では、12月10日時点ということでの数値になります。このときに捕獲した実績ということでございますが、まず、イノシシでございます、8月に成獣、わなによる捕獲というふうなことと、11月30日、成獣2頭、これは銃器によるものと思えます。それから、7月にクマ、箱わなによる捕獲、8月に2件、クマによるものでございます。箱わなによる捕獲2頭になります。それから、9月でございますが、クマの捕獲ということで、わなによる捕獲。それから、10月、クマの捕獲ということで、これもわなによる捕獲ということでございます。以上です。

4 番 それなりの成果が上がっているかなと思えます。先ほど項目の入れかえで、やっぱり農業対策のほうで予算組んでという形、確かに人的被害は今のところはないかもしれませんが、しかしながら、やっぱり有害対策をしっかりこれからも進めていくべきであると思えます。

やっぱり県と同様に町のほうでもまたぎというか、猟友会の盟友が年々減少する中で、対策に対する人員も減ってくるわけです。ぜひここら辺をしっかりと対策を持って、どうにもならなくなってからではなくて、前向きな方向でぜひ対策を検討していただきたいと思います。

農業振興課長 ただいまご意見をいただいたとおり、いろいろと課題に前向きに取り組んでいきたいと考えております。以上でございます。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6 番 同じ款、項、目です。右のほうの説明の中に、林業振興費です、林地台帳整備事業委託料142万円ございますが、これ、今年度から新しく台帳整備するための委託するための予算計上でしょうか。

農業振興課長 今年度新たに取り組むということでございますけれど、歳入のほうのご質問にもあったとおり、県のほうでの予備調査というものもございますし、民地台帳のほうの県の使用するデータとあわせて町のデータとの突合というふうな作業になります。以上です。

6 番 その上の段の所有者のシステム保守管理委託料との関連性というのは何もないんですか。所有者を確定させて、それをもとにしてこの台帳を整備していくという事業ではないのですか。

農業振興課長 上段の森林所有者情報システム保守管理委託料でございますけれど、既存の森林所有台帳システムという情報の、パソコンの情報の保守管理の委託料でございますので、林地台帳整備の委託料とはまた別でございます。以上です。

6 番 そうしますと、前のページに水田対策で水田の台帳システムの委託、あと農業委員会経費で農地の台帳システム委託、こういう形に、それは今動いているシステムですよ。それと同じような形に林地もやっていくと、そのための台帳の整備ということなんでしょうけれども、今、課長が答弁した既存のやつとの大きな違いというのは、どういうふうな違いあるんでしょうか。

農業振興課長 今までの内容につきましては、森林のGISというパソコン上での情報がございます。これを法改正によりまして台帳を整備するというものでございます。いわゆるペーパーになるという内容になります。以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

5 番 ページが76ページ、6－1－3水田農業対策費の中の農業再生対策事業費補助金494万8,000円、前年から見ると200万円ほど減額しております。30年産の米づくりは大幅に変わるという中で、この200万円減ったというところの原因といいますかここら辺についてお聞きしたいと思います。

農業振興課長 農業再生対策事業費補助金の内容で、前年比200万円ほどの減ということになりますけれど、まずこの内容でございますが、水田転作作物の種子助成が320万円、エコエリア

対策が28万2,000円、農地集積対策が146万6,000円で、合計で494万8,000円というふうな総額になります。対前年比ということで、種子助成に関しましては20万円、エコエリアにつきましては8万2,000円の増となります。農地集積対策が231万6,000円の減ということでございまして、合計で203万4,000円の減ということで、農地集積支援対策が大きく減額しておりますけれど、これは前年度の実績に応じて1回限りの補助であるということでございますので、この点が大きく影響しているものでございます。以上です。

5番 ちょっと確認したかったのは、これまで米づくりについては、つくってよいというふうな目安を配分しながらつくってきたというような中で、原則的にはつくる自由というようなものを与えながらも、山形県では従来どおりつくるものをつくる面積を配分しているというふうな中で、業務内容的には転作、要するに確認とかそういうのは、今後とも、30年もやっていくということなんでしょうか。

農業振興課長 これまでどおり平成30年度も実施していく予定で今考えております。以上です。

5番 非常に大転換の時期にありながら、例年、町と農協主催で2月下旬か3月ごろに座談会なんかやっていた記憶するんですけども、ことはまだやっていないですね。しましたか、あれ、済みません、私の認識不足でした。

委員長 3回目はいいですね。ほかに質疑ございますか。

4番 ちょうどページが開かれているので、済みません、82ページお願いします。

14目日本型直接支払交付金事業の中で、中山間の取り組みに関しては昨年度とほぼ同額の予算で入っておりますけれども、多面的機能支払交付金については、昨年度よりも344万7,000円ほど減額になっております。内容をお伺いします。

農業振興課長 平成29年度の当初予算比でございまして、339万6,000円ほどの減額になってございます。この要因につきましては、交付団体保全会のほうの会員数が2団体減少というふうなことがございまして、この分が減額になったものでございます。以上です。

4番 今、2団体って言ったよね。337万6,000円ほど、交付金として減額になっていると。これは、各地域で農業者のみならず、この地域間で自分らで器、領域を決めて取り組むことによって、みんなで自分たちの周り、農地を含めた水なりの環境保全をしていこうという意味も踏まえての支払い制度なので、今、農業の現場も多様化していて、集積事業であったり、いろんな形の中で、国の施策とともに進めていって、転換しているわけで、維持管理がすごく大変な状況というか、荒廃する農地がふえる危険性がすごく感じられるわけです。国では、事業を実施者を募って組織を組めば、差し上げますというか、交付しますよというお金なわけです。維持管理、町を、農地を維持管理していくのに国のほうで交付する金なわけです。なぜ2団体が減るような形、逆に言えばふえるような政策というか、支援というか、指導などの組み方はできないのか。改めて伺います。

農業振興課長 議員ご指摘のとおり、大変危惧されるということでございますけれど、実際に2つの保全会が平成29年度でまず一旦活動をとめるということでございましたけれど、一つは、やっぱり構成する組織・団体の会員数が減少していると。ただ、農家だけでなく、それを構成する地域、町内会そのものの人口が減っているということでございまして、活動がなかなか大変だということが一つの要因と。また、もう一つの団体につきましては、長寿命化の取り組みに対する地区内での理解がなかなか一本化は難しいと、共通理解が図られないという課題があつて、30年度は断念するという内容でございました。いろいろとその地域、地域ごとに課題というものがございます。また、それに対応して職員のほうでもぜひ続けていただきたいというお話もさせていただきながらの地域の意向でございまして、この辺についてはご理解をいただきたいと思ひますし、今活動している団体についても、いろんな面で支援をしていながら活動に取り組んでいただきたいと考えております。以上です。

4番 当町では農業施策に大変充実した施策をもって当たられていることについては、常日ごろ感謝を持っているわけでありまして。他町村の農業者から聞いても、舟形町は子育てとともに農業支援策も充実しているという声を聞いております。その中で、やはり国の施策である中間管理機構、農地を集積、現在のものに追い抜かれないように、ちゃんとした施策をつくりなさいという形の中で、国のほうでも施策を練っているわけです。30年度から直接支払補償制度は減るものの、こういう取り組み次第では、交付しますよという交付税なわけです。言ってみれば、地方交付税が減額されるのと全く同じような状況だと私は思っているんです。地方交付税が減れば、町長、困りますよね。これも農業支援策だと思つて、交付税をふやすつもりで、やはり自治体の取り組みが一番主だと思います。やはり今現在の取り組みを改めて見直して、幾らでも最大限の交付金を活用できて地域を保全するという形をとるべきだと思います。改めて町長、それについての考えがあればお聞きしたいと思ひます。

町長 議員ご指摘の件につきましては、やはり日本型直接支払いの3本柱、国で言う3本柱、中山間と多面的機能支払い、そして環境型という3つの柱がありますけれども、うちの当町においては2つというふうなことで、中山間と多面的機能支払いということに取り組んでいるわけです。ただ、その中でやはり当初取り組んだか環境が一つあります。というのが、今現状の課題だというふうに思っております。

何回か4番議員さんからも言われております町一つとしてその受け皿となるべきだというご指摘は非常に前進的なご提言だというふうに思っておりますけれども、現在、やはり多面的機能支払いの保全会の活動が、そのものがやはり動いている状況もありますので、その中で初めからやり直すという形で一本にすることがひとつできるのかどうかという問題がやっぱりあると思ひます。そういったところの兼ね合いと、さらにはこれを一つにしていくためには、法人であつたり等々のグループ等も多くできてこないと、現在の個人的の集合体での保

全会の取り組みということで行くと、そこにもちょっと問題が一つあるのかなというふうに思います。そういったことを今後やはりお金がもらえるということではなくて、やはり今国の政策として進めている大区画であったり、コスト削減のためのいろいろな政策の中でいくと、やはり米をつくる農業者が減ってくることでの地域の環境が守れないということが大きく出てくるというふうには思いますので、今すぐにはちょっと取り組むということで行って、「はい、じゃあやります」というふうにはならないかもしれませんが、大きな課題として今後やはり保全会の数が少なくなってくる段階を見ながらとか、現在が第6次でしたっけか、多面的機能支払い……、済みません、その回数がありますけれども、5年ごとのその段階での見直しとかということの中で取り組んでいくというふうになると思います。できれば、議員おっしゃられるように、舟形町全部でということになれば、それなりの対応もできるし、農業用施設とか、集落の環境保全もできるというふうには思いますので、そういった取り組みについてもしっかりと前を見ながら検討を進めていきたいというふうなことだと思います。

委員長 4番議員の本件に関する質疑は既に3回になりましたが、標準会議規則第55条の引用によりもう一回に限り特に発言を許可いたします。

4番 特別に許可をいただきましてありがとうございます。

今の町長の答弁を要約しますと、金をもらえるから組織を組んだらいいんでないかというふうに、俺が言ったように捉えているようにちょっと聞こえたんですけど、それは、私はそんな形で言ったわけではないです。そうではないです。今、これからどんどん進んでいく集積であったりを踏まえると、農地をどのような過程で守っていくのかと、自分の地域の周辺を、環境保全をどうやっていくのかって、これはこの交付金のある、なしにかかわらず考えていかなければならない課題なわけです。それをしっかり今農業者、これから経営をしていく農業者であって、地主さんであったり、非農家の方でみんなで考えていくべきだと。やっぱり保全というものについては。それをしっかり考えて、計画してやろうよとしたときに、じゃあどうするべとといったときには、国ではそれを支えるって言っているんですよ。今からやっていかなければいけないことをしっかりやることによって、それに対しては応援しますよっていう国の施策なんですよ。金をもらうために物事を組むんじゃないです、やらなければいけないことがあるんです。それをしっかりやっていきましょうということなんです。その上で、これは利用できるような交付金の制度を国が法整備して整えているということなんです。ぜひその置き違いを、私はそういうふうに金をもらうためにやるという意味で言っているわけじゃないです。これからだんだん集約する中でどうやって守っていくかっていうことを、すごく危惧しているんです。そのためには、改めて組織の編成をやっていく方向を考えるべきではないかというふうに言っているんです。

町長 交付税云々の話があったもんですから、そういうふうな答弁になってしまったことをお詫び申し上げたいと思います。

いずれにしても、非農家を巻き込んだ形での保全会の活動になります。やはりそのことをすることで農家が潤うということだけではなくて、地域を守る、もしくはその農業用水路であったり、農業用道路であったり、それらも一つ地域として財産だという認識に立たないと、この活動というのはなかなか進まないものだというふうに認識をしているところでございます。そういったところである意味地域づくりにもつながっていくところであったんですが、最初に国のほうでお金を、昔で言うみずぶしん、へきぶしんといったものを国のほうで急にお金を出すというふうになってしまっているところもあって、それが極端に地域の希薄化につながったとは申し上げませんが、そういったところのみんなで頑張るところが国にある程度お金が来たということもあって、ちょっとギクシャクしているところもあるのかなと思いますけれども、いずれにしても先ほど議員がおっしゃられたことと私の考え方については、目指す方向性については差異はないのかなと思っておりますので、しっかりと取り組めるように検討していきたいと思っております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6 番 同じページの13目、上の段です、担い手でございます。この中に全国サミット実行委員会負担金6万2,000円ございます。このサミットというのはどんな形でいつごろ開催されるのかお伺いします。

農業振興課長 全国担い手サミットでございますけれど、認定農業者、集落営農組織、農業関係団体とう方々を対象にしまして、それぞれの発展を図ることを目的に開催される大会でございます。本県の開催ということでございますけれど、第1回目が平成10年に酒田市で開催しておる大変歴史のある大会でございます。今回は2回目ということで、ことしの秋に開催される予定で準備を進めている段階でございます。具体的な日時につきましては、皇太子さまが出席される規模の全国大会ということもございまして、日程等が明らかにまだされていないという現状でございます。以上です。

6 番 そうしますと、これは毎年やっておって、10年に酒田でやっておって、30年にまた山形に当番といいますか、開催地が来たという話なわけですし、今内容を聞きますと、さまざまな団体の方々が参加するということでございますが、これ参加するには何か募集をかけるとか、もう一つちょっと、このタイトルを見れば何を言いたいのかわかりますけれども、いまいち何をしようとしているのか、はっきり言ってどういう、先ほど二、三ありましたけれどもね、どんな形で、どんな目的でやっているのか、ちょっとそこもう一回お伺いします。

農業振興課長 具体的にその目的ということをお話するよりは、要綱の内容の一部を読み上げさせていただきます、答弁にかえさせていただきますと思います。

まず、全国農業担い手サミットは、全国から認定農業者、集落営農組織、農業関係機関・団体等の意欲ある農業の担い手約2,000人が参集して、互いに研さん、交流することにより、それぞれの農業経営の改善や地域農業・農村の発展を図ることを目的に開催される大会というふうな目的でございます。

日程的なお話とあわせて補足させていただきますけれど、全体会議というふうなことで、山形市のほうで開催する計画でおりまして、全体会が終わった後に県内の4ブロックに分かれまして、各地域ごとの交流会、そして、翌日には各地域の主な農業施設であったり、団体であったりの視察等の計画が組まれているというふうなものでございます。以上です。

6番 大分わかってきました。その4ブロックに分けての分科会のようなものが一番需要であって、この会がためになるような気がします。できるだけこの会に参加できるような認定農業者の方々にお声をかけていただきまして、こういうものを活用して、今後の舟形町の農業振興に役立てていただければなと思うところでございます。終わります。

委員長 ほかに質疑ございますか。

10番 81ページの赤湯温泉の管理でありますけれども、ここに工事請負費8,440万円ほどあります。内容をお伺いしますと、休憩棟といいますか、清流センターの整備ということが主であるようですけれども、それに付随していわゆるあゆっこ村といいますか、そういった周辺の整備について当面の計画というのではないのかをお伺いします。

まちづくり課長 この予算の中には予定としてですけれども、テニスコートがございますけれども、その張りかえ分、あと照明制御盤、安定器の交換、それからふれあい広場の擬木柵の補修等についてもこの中に含めております。先日2番議員からご質問いただいて、一応ざっくりお答えしたんですけれども、それに加えて今申し上げた分が加わっております。

10番 わかりました。一つそこにグラウンドゴルフ場があるわけでありまして、皆さんもご承知のように、この議会においても一般質問なり質疑の中で何度となく取り上げた問題であります。答弁を聞きますとなかなかほかの場所での整備というようなことは考えていないようでありますけれども、やっぱりある程度今回この百歳元気プロジェクトですか、こういった高齢者の健康寿命を延ばすための施策も考えているようですけれども、そういった上からも、やはりそういう整備というものを考えるべきと思いますが、その辺について伺います。

まちづくり課長 あゆっこ村のグラウンドゴルフの協会の活用につきましては、にぎわい創出の点で振興公社としても大変ありがたく思っているところで、今後の動向につきまして、グラウンドゴルフしている芝地の状況等々の要望等も受けてございます。今年度いろいろ材料関係とか、芝地の荒れているところの整備とかというふうなことで、町からのあゆっこ村のグラウンド関係の整備等に250万円、例年かけてございますけれども、今年度300万円を計上して、そこも含めた形で今回予算計上してございます。今後はやっぱり面積的にどうなの

かという議論も前、議会のほうでございましたけれども、遊具の移設についてはP L法とい
いますか、安全対策等々のこともございまして、すぐにはできないという状況にございます。
ただ、センターハウスとの兼ね合いや振興公社としての経営的な面でのことも踏まえて、総
体的な判断が必要なのかなと考えております。

10番 やっぱり議会でこれだけ何度となく質問が出るということは、それなりに住民からの要望
があるということだと思います。町長も就任して3年目を迎えるわけでありましてけれども、
やっぱりある程度この協働のまちづくりという点からも、そういった住民からの要望の多い
事項については、ある程度真剣に考えていただきたいと思うわけでありまして。

また、若あゆ温泉のこの誘客の増進ということを図る意味からも、その周辺整備というのが
必要だというふうに思いますが、この点については町長から一言答弁お願いしたいと思いま
す。

町長 グラウンドゴルフ協会のほうからは、今年度といたしますか、平成30年度に向けての要望と
いうのがゴールといたしますか、マットとか、そういったものの要望はございますが、芝地と
か時計台がちょっと壊れているということで直してほしいということでの要望はあるんです
が、その広さのことにしましては、今のところないのかなというふうに思っているところで
す。なかなか場所の広さでいきますと、若あゆ温泉に来るところの若あゆ大橋の下、河川公園の
芝地については、それなりの広さを持っておるので、今のところ町のほうでグラウンドゴル
フをしようとする若あゆ温泉しかないんですけれども、社会体育のほうでもしそういう大
変人気だということであれば、マットとゴールさえ置けばグラウンドゴルフが楽しめるとい
うふうなことであれば、若あゆ温泉の下、河川公園の中にグラウンドゴルフ場をとい
うふうな形ですれば、2組といたしますか、2チームといたしますか、そういった形の大会等
も開けるということもあるかなと考えているところでございます。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 今のちょっと確認します。温泉の下、橋の下ですか。温泉の下のグラウンドじゃなくて、
橋の下の芝生。

町長 今現在あるあゆっこ村のグラウンドゴルフ場が1つの大会使うと使えなくなるというこ
とでありますし、広さ的な面ということでは、若あゆ温泉のところの芝地、河川公園
の中のところは日中使っていることがないという状況でありますので、あそこを活用して
すれば、2つの大会ができるということも可能なかなと思っているところでございます。

6番 温泉の下のグラウンドじゃなくて、橋の下。ああ、ちょっと余り、あそこが今人気あるの
は、すぐそばに温泉があるからということもあると思います。場所がないから下でつくって
やるという案かもしれませんが、余り下に行くんじゃないで、前も私スポーツ振興
でお話しましたが、上のグラウンドの余り活用がなければ、あそこに全面芝生を張っ

て、あそこでやれるようなコースにしたほうが、温泉も近いし、私はいいのではないかなと。今、その橋の下というの私初めて聞いたので、ちょっと温泉から離れるんじゃないかなと、そこだけ懸念をしておりますが、そのあたりもう一回お願いします。

町長 下のグラウンドという意識がさっぱりなかったもんですから、芝を植えてということであれば、それも一つの検討材料かなと思います。ただ、今すぐできるとなれば、先ほど言った橋の下のところは、芝地になっておりますので、すぐにできるものかなというふうにちょっとと思って、そのように申し上げたところでございました。

委員長 ほかに質疑ございますか。

5番 以前に、グラウンドゴルフ協会の幹部の方と、振興公社の幹部の方と、意見交換をしております。このグラウンドゴルフのコースの件について。その中で、やはり今現在ある8ホール2つ、あの遊具施設あるところですけども、あそこは非常にいろんな変化があって、大変いいという評価でありました。ただ、今ネックになっているのが、これだけする人口がふえているのに、この大きい公認の大会するためには、8ホールが3つ欲しいんだそうです。そうしたときに、今8ホール2つでは、いろんなところから呼び込んでの公式の大会ができないというようなところで、話し合った中で、やはり一つが、下のほうにあるグラウンド、そこを利用してつくったらどうですかというような話もしたんですけども、やはり今やっている方々は今あるところから離れたくないという強い思いがありました。そういった中で、じゃあどうすればいいんだというところで話し合ったところ、テニスコートの隣にゲートボール、前やったところありますよね、そこのところに芝を張って活用すれば、そこに8ホールできるから、8ホール3つ可能になってくるということで、そうすれば今の2ホールとも近いし、それが一番いいというふうなそのときの話し合いになっております。そういったところで、この内容については、振興公社の職員は把握しているかと思いますので、このゲートボール場については、今ゲートボール関係がどういう活用をしているのかわかりませんので、これについてはそれ以上踏み込んだ話はできなかったわけです。そういったところで、ぜひ今ある16ホールを生かしながら、あと8ホールということなので、しかも近いところということになれば、そこら辺が一番いいのかなというような感じがします。そういったところで今後検討していただけないかなというように思います。

まちづくり課長 さまざまなご要望を議会の皆さんとなさっているのかなというようにことで、今伺っておりました。昨年の一般質問で1番議員のほうから長沢小学校にグラウンドゴルフ場のというふうなご要望といたしますか、ご意見もございましたけれども、昨年の11月6日にグラウンドゴルフ協会、町の協会のほうから要望書をいただいております。その内容ですけども、用具で、ステンレス製ホールポスト8個、グラウンドカバー付スタートマット16枚、ゴルフマット16枚、旗一式タイプホールポスト用16枚、スタート表示板用木杭8本、砂とい

うことで軽トラック1台分、設備関係ですけれども、時計等とまっている状態のままで修理してほしい。野外ステージ、立ち入り禁止状態が長く続いています。これにつきましてはちょっと老朽化しておりますので、撤去の方向で今考えてございます。道路の境の杭、折れているところもあるというようなことで、修繕してほしいというふうなことの要望書を受けてございまして、その件について今年度予算化して対応する予定であります。

5番 グラウンドゴルフの会員の方々がこのコースどうのこうのといったところまで要求していないというのはちょっと残念なところありますが、前回、振興公社のほうで話し合った中では、そういうところまで、具体的なところまで話をしておりますので、再度グラウンドゴルフ協会の幹部の方なり、振興公社の方に聞いていただいて、この辺のニーズといいますか、どういうふうな状況になっているのか、再度確認していただいて、コースの設定についてもあわせて検討していただければありがたいと思います。

まちづくり課長 再度、協会の代表者の皆さんとお話をさせていただく機会を設けたいと思います。

委員長 ほかに質疑ございますか。

(「なし」の声あり)

委員長 質疑なしと認め、第6款 農林水産費についての質疑、審査を終結いたします。

次に、第7款 商工費を審査します。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 (朗読、説明省略)

委員長 これより、第7款 商工費の質疑に入ります。

1番 7款1項1目観光費についてお尋ねします。

87ページに、中段ほどに舟形町観光パンフレット制作作業業務委託と、その下に舟形町ノベルティ制作業務委託がございます。これ、新規に入ってきたのかなと思いますけれども、この舟形町観光パンフレット制作に関して、内容をお聞きします。

まちづくり課長 今ある観光パンフレットにつきましては、内容が随分と変わってきてございます。特にですけれども、キャッチフレーズもちょっと変更したいというようなこともありますけれども、飲食店情報の更新、変更、それから若あゆ温泉のリニューアルに伴って料金も変わってきているというようなこともあり、そういったところで新たな観光パンフレットをつくりたいということですが、今あるものを数字だけ変えたのでは、全く前と変わらないので、そういうデザインを変えてということで委託料のほうに計上させていただいております。

あと、ノベルティ関係についても、町をPRできるように、ポリ手提げ、ポリ製の手提げの袋を町のPRできるデザインに変えて、新たな会議資料を入れたりとか、部外者のほうにお渡しする際の袋等々もちょっと企画を考えてございます。

1番 観光パンフレットというのは、つくるのは、何年か前につくったと思いますけれども、そ

れの増刷とかというのは毎年はしていないんですか。

まちづくり課長 毎年はしてございませんけれども、残冊数を確認しながら、予算計上して増刷してございます。

1 番 そうすると、毎年は幾らかの予算は計上しているということによろしいですね。

この業務委託する委託先はどこになるかお伺いしたいと思います。

まちづくり課長 新年度予算ですので、まだ業者選定は確実には決まっております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

3 番 同じく、86ページ、7－1－1 観光費になります。87ページのほうに農林水産物加工施設運営費補助金460万円となっております。昨年度が464万円、ほぼ同じになっておりますけれども、昨年度、一般質問をさせていただきました。そのときの答弁でコスト削減を図り、販売拡大に取り組んでいくというご答弁をいただいているんですけれども、どのようになっているかお伺いします。

まちづくり課長 加工場の今の現状ですけれども、先ほど、前回の一般質問でも申し上げたとおり、品目については絞り込んでおります。ただ、販売につきましては、販売先でございまして、販売先といいますか、販売する場所、若あゆ温泉が4カ月ほど休業状態に入っているということで、都市交流関係での物販へ出したりとか、量販店といいますか、ヨークベニマルさんとかそういったところに出して、駅もそうなんですけれども、物産センターのほうにも売る場所がちょっと前よりも狭まったというようなことで、売り上げに若干支障を来しているというような状況で、何とかとんとんで収められるような状況になるのかなというふうなことで、ちょっと今危惧している状況でございます。

3 番 質問してからちょうど1年になるわけですけれども、そのときの答弁の中で、山形市内の飲食店や漬物販売店と具体的な取引について調整を進めているというご答弁もございました。この辺は進んでいるのでしょうか。

まちづくり課長 山形の漬物業者さんと町の農家の生産者との結びつきは、今回やってございます。それは、品目については青菜でございます。加工場につきましては、農業、そのほかにもラズベリーの集出荷ということでの役割もございまして、そういった意味では今年度青菜を扱ったという面では実績に計上させていただきたいと思っております。

3 番 加工場のほうには29年度まで約2,000万円の補助金を入れているわけです。1年前の課長の答弁がぜひ反映されますようお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

まちづくり課長 加工場の運営につきましては、さまざま課題は多いんですけれども、今後、精査しながら来年度の運営についても検討を詰めて対応していきたいと思っております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

1 番 88ページ、7－1－5 町おこし事業費でございまして。

次のページというか、90ページ、91ページですね、ここの仮設ステージ等設置撤去委託料240万円ございます。昨年は230万円だったと思いますけれども、昨年この仮設ステージというか、出店部会のテントの風で何か倒壊したと。非常に骨組みもきゃしゃだったということで、出店部会のほうで随分懸念していたようなんですけれども、今回10万円アップしたということは、そこら辺を十分に加味してアップしているのかお伺いします。

まちづくり課長 その辺も加味し、なおかつ本部テントのほうもちょっと拡充して委託したいと考えております。

委員長 ほかに。

5番 86ページ、7－1－1 観光費で、農林水産物加工で460万円のところですが、当然30年度における計画に基づいて町からの補助が460万円というような形になったんだろうと思います。そういった中で、加工場についてのこれまでの、現在もそうですけれども、社長であります酒井副町長のほうから加工場の運営についてのこれからの考え方といいますか、進め方、この辺についてお聞きしたいと思います。

副町長 加工場の経営というか運営全般について、まずお話をさせていただきたいと思います。

当初つくったときは、収入の4割ぐらいの補助金ということと、支出については全体の5割ぐらいの人件費というところから実は始まっております。それに対しまして、そういったことからいきますと、売り上げが1,000円に対して大体1,800円ぐらいの経費がかかっているというところから始まっています。

加工場の実態についてまずお話をさせていただきますと、なかなか大量生産ができるような施設でもないということと、今申し上げましたように、固定経費が最初からでのスタートであったということと、商品としてもなかなか売り先を考えていないというか、そういった形の商品開発だったのかなというところからスタートしているということも、反省も踏まえまして、去年からになりますけれども、商品数をまず限定していくということで、当初は250種類ぐらいあったものを現段階では100種類以下ということで、削減をしております。販売先につきましても、いろんなスーパーとかそういったところにつきましては、マージンというか、そういったものが半分近くもかかるということもございますので、その販売先のところについてもまた減らしてきているというのが昨年の状況でございます。そういったことも踏まえまして、舟形のものということで、例えば鮎とか、ラズベリーとか、そういったものを使った商品を開発しているというのも一つの方向性ということと、あと、先ほど、青菜の話もありましたけれども、町ごとの農家の方の少しでも支援というか、そういったことになればということで、地元の農産物の加工ということで取り組んできたということでございます。

そういったことで、現在やっておりますのは、販売については温泉とか、駅とか、ゆめりあというところで、まず身近なところでの販売ということに限定を加えて、商品数も限定して

加工していると。そういったことで、普段から町民の方に手にとって食べていただいて、そして地元のものを食べていただいて、場合によってはお土産としても持って行っていただければ、そのような、そういったことで今回どら焼きとか、ラズベリーのマッシュルームのクッキーとか、そういったものをつくっているというところでございます。

そういったことを進めていきますけれども、実はこの指定管理につきましては、30年度までとなっておりますので、今後の条件も考えまして、30年度いろいろと検討を行っていきたいと思っているところでございます。

5番 非常にやっぱりつくるはつくるけれども、なかなか売り先を確保するというのは非常に困難な状況でありますし、菓子業界というのは非常に競争が激しい状況でありますので、ぜひお願いでありますけれども、これから県に帰られましたら、ぜひとも県の中でもどんどん活用していただけるようなPRをお願いしたいなというふうに思います。以上です。

委員長 答弁ありますか。

副町長 できるだけ、加工場とか振興公社のほうにも今から通いまして、そういった方針について徹底していただきたいということと、今後もしろんなことで協力というか、そういうものをさせていただければと思っております。ありがとうございました。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 88ページ、4目商工振興費、右の説明の中で、中でといいますか、昨年度まであった商工振興のための貸し付けの原資部分、なくなっていますが、実績がなくなってきたので削除したのか、そのあたりをお伺いします。

まちづくり課長 この予算につきましては、昨年、原資貸し付けということで平成29年度当初計上してございましたが、6月に減額補正をしております。理由につきましては、取り扱っているのは、窓口的には商工会なんですけれども、取り扱い銀行がきらやか銀行さんということで、原資がなくてもやっていけるという、昨年当初の段階でお話を伺いまして、その上できらやか銀行さんの原資を活用してやらせていただきたいということでした。それで、これにつきまして、6月に1,000万円減額していたんですけれども、それに付随して利子補給の制度につきましては、まだ町でやっているというふうになっておりますので、貸し付け等に対する制度については、従前どおり利用できるという環境になっております。

6番 補正については失礼しました。

そうしますと、今現在、この制度そのもの、スタートは原資は町で、その後にきらやかになったということですか。今、これには30年度の予算には、利子補給、保証料分の補助と利子の補助出ていますが、もうこっち原資ないのであれば、それそくっと向こうにやるということとはできないんですか。

まちづくり課長 きらやかさんでも貸し付けすることでの利息についてはある程度の儲けといい

ますか、メリットがないとしないと思います。その上で、その利子分を町が補助することで、低利で貸せるということですので、きらやかさんの利息でもらう分の率を下げるために町が補助を出しているということですので、今までの貸付制度そのものについては、今までとは変わりはないというふうに、制度がなくなったわけではございません。

6番 そうしますと、そのもともとの原資貸し付けがきらやかになったということで、その制度はまだあると。その期間で発生した貸し付けについての保証料の利子補給と利子の助成分は今後続くということで、これどのぐらい続くんですか。最後に貸したのはいつなの。これは原資も何もないのずっと利子補給ばかりしてるのも何か変な話だし、変というか、このあたりいつごろまで全部完済になるのか、めどというのはあるの。

まちづくり課長 商工業の振興資金については、随時貸し付け需要はございます。ちょっと手元にあればないんですけども、毎年、償還期限を決めてやっておりますので、その年々、完済するまでの間の利子補給というふうになってございます。

委員長 ほかに質疑ございますか。

3番 同じ88ページ、商工振興費、89ページに舟形町商工業活力アップ推進事業補助金、昨年と同額で400万円となっております。内容を見ますと、移動販売車購入補助等などとなっておりますけれども、補助率というのはどのぐらいを予定しておるのかお伺いします。

まちづくり課長 移動販売車につきましては、200万円を限度として対象経費の3分の2を補助すると規定してございます。

3番 そうすると、今の段階で結構ですけども、購入を予定されている方とかというのはいらっしゃるのでしょうか。

まちづくり課長 商工会さんのほうの情報ですけども、商工会舟形支部という中で、試験的に何か今取り組んでいるという情報があります。その中で実際に業者さんがそれに同意してなさる方がいらっしゃるのかなということも踏まえて、前もって検討させて制度に制定させていただいているところです。

3番 わかる範囲内で結構なんですけれども、そうすると、その開業時期等というのはいつごろになるかわかりになりますか。

まちづくり課長 そこまで細かいところは承知してございません。

委員長 ほかに質疑ございますか。

5番 88ページ、7-1-4 商工振興費の中で、企業誘致対策事業ありますけれども、30年度においてどのような企業誘致のための活動を行っていくのかお聞きしたいと思います。

まちづくり課長 今年度ですけども、いろいろ県の工業誘致担当のほうから紹介もいただいたりしているんですが、そういったところにいろいろ説明もしなければならぬし、そのための資料等も今年度いろいろと整備させていただいています。具体的には企業さんにお声かけ

ていただく、打合せする前に、町の現状等々をわかって、理解していただけるようなものがあります。あと、場所的なこと、例えば、堀内の小学校跡地とか、富長交流センターのいろいろ校舎の中のようなところとか、そういった可能性のある場所については、ビジュアル的にわかるようにというふうな資料はつくってございます。平成30年度についても、そういった声がかかりましたらすぐ対応できるような態勢で臨んでいきたいと考えております。

5 番 この金額を見ますと、前年よりも減っているし、非常に何か活動としてはかえって低下しているのかなと、こういうような感じがするわけです。そういった中で、活動の中でせっかく長沢集学校というようにところにリングロー来ているわけですが、その集学校のほうで各教室に企業来てもらえないか、かつ企業誘致をやっていくというふうな情報があるわけでありまして、ここら辺ともう少しタイアップをしながら進めるというのも一方法なのじゃないかなというふうな感じがします。せっかく隣に宝というか、資源があるのに、それを活用しないというのはもったいないような感じがします。そういったところで、やはり若者をこちらに呼び込もうとするためには、今はやりの職というようなものもやっぱりつくっていったらあげなければ、帰ってこないと思います。そういったところで、もっともっとタイアップをしながら進めるというふうなところについても検討すべきと思いますが、どうですか。

まちづくり課長 今、リングローさんのお話が出たところですが、リングローさんにつきましては町長、副町長を踏まえて、向こうの社長さんといろいろな話をしてございます。今言った企業誘致についても、当然、リングローさんがかかわっている企業さんがいらっしゃるということで、いろいろご紹介もという話もあります。そういったところを具体的にしていきつつ、なおかつお互いウインウインの関係を構築できるようにというのは当然ですので、その辺は触覚をちょっと張りめぐらして、敏感に対応していきたいと考えております。

5 番 こういうふうなことについて、来た後のフォローというのも大事かと思います。そういったところで、高島町で支援室という室を設けてやっていますので、この辺もぜひ参考にしながら企業誘致を進めていただければありがたいなと思います。

まちづくり課長 所管がまちづくり課になってございます。その中でやっぱり業務分担を効率的に対応するように頑張っていきたいと思います。

まちづくり課長 ほかに質疑ございますか。

(「なし」の声あり)

委員長 質疑なしと認め、第7款 商工費について質疑、審査を終結いたします。

ここで説明員交代のため、暫時休憩をいたします。

午前10時35分 休憩

午前10時38分 再開

委員長 それでは、再開します。

第8款 土木費について審査します。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 （朗読、説明省略）

委員長 これより、第8款 土木費の質疑に入ります。

2番 94ページ、除雪対策事業について質問させていただきます。

今年度は記録的な大雪で、オペレーターの方々には大変難儀かけてありがたく思っております。ところでございますけれども、その中で、消雪設備委託料の中で、今年度かなりあの大雪の中でも小学校のちょうど前が、水が、消雪がつながらないで大変不便を来したという事態もあったわけですが、これは今年度中に修理していただけるのかお伺いします。

地域整備課長 ただいまのご質問であります、ちょうど舟形一関線の消雪施設の漏水の件だと思います。ご存じのとおりちょっと本年度は豪雪でありまして、なかなか工事までは至らなかったということはございます。そんなわけで、今年度中にちょっと施工は無理だと考えているところでありまして、4月以降に来年度の冬期間に向けて万全な体制をとりますので、そのように考えております。

2番 来年もこのような雪が降るのかはわかりませんが、万全な体制でしていただきたいなという思いでもおります。

十二河原において排雪の、堆雪の雪がとんでもないくらいあるわけですが、あれはどのようにこれから処理していくのか、それともあのまま放置するのかを含めてお聞きしたいと思います。

地域整備課長 十二河原の排雪に伴った雪をあそこに堆雪しているわけです。一応道路の排雪場所と、あと一般の方々も含めてご利用してくださいということで周知はしておりました。そんな中で、あそこに堆雪するに当たっても、河川管理者、県になりますが、そちらの許可が必要であります。あわせて漁協さんとの協議も必要になるわけなんです、そんな中で、専用の条件として、直接河川に投雪してはならないという項目ございます。そんな中で、河川の高水敷に当たるわけなんです、そこに堆雪をしておりまして、特にことは例年以上の豪雪だったものですから、かなりのボリュームがございます。町としては、一番いいのは天候が、気温が上がっていただいて、融雪が進んでいただければ一番いいんですが、融雪を促進するために重機等を入れてかましたり、そのような形で対応していきたいと今のところは考えております。

2番 やはり何のメリットも、あの雪をまだ残して、排雪のために排雪するなんていうことは、やっぱりなかなか考えづらいのかなという認識でおります。重機等がかましてやっぱりするしかないのかなという思いでおりますので、ただ、余りにもボリュームが多すぎるものです

から、町民の方もどうなるのかって危惧される方もいると思いますので、その辺のところこれから対処していただきたいと思います。

地域整備課長 限られた予算でございますので、議員おっしゃるとおりそのような形で対応してまいりたいと思います。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6 番 92ページです、8－2－2目、右のほうの93ページの説明の中で、下から2段目、印刷機使用料というのございますが、前年度もございましたが、前年度より増額になってございます。この予算書のほかの款にもこの機械使用料が出てきますが、これ機械使用料ってそのものの何を指しているんでしょうか。

地域整備課長 印刷機の使用料でございますが、これについては、うちの第2庁舎、1階のほうであります、そこで使用しているコピー、さらにはプリンター、あとは図面等を焼く大型のプリンターもございます。さらには積算関係のシステムの使用料と、そこら辺を含めましてかなりのリース、さらにはリース機械ですね、入っているわけなんです。それらの使用料となっております。

6 番 地域整備課で使うといいますか、さまざま業務の中で、普通のコピー機とは違った仕事をするためにリースしているいわゆるコピー機械だということなんですか。今年度増額になっていますが、何で増額したのかお伺いします。

地域整備課長 ただいまの質問であります、おっしゃるとおり課のほうで使っておる特殊な機械のリース料でございます。さらに、増額分であります、一昨年は項目として災害復旧費のほうにも使用料置いておりました。今年度はそちらを減額しまして、支出項目を変えて、社会資本整備総合事業のほうから支出するという予算を計上しておりますので、その分が増額となっております。

6 番 昨年の災害復旧費ってどこ、何ページにございます。

使う課が同じだから一緒にしましたというのはわかりますけれども、そういうわかりやすいように災害復旧費で見ておって、こっちで、道路施設見ておったわけですからね、そのあたり使い分けするってうまくできないでしょうけれども、簡単にがっちゃんしたんではまずいんじゃないかなと思うんだけど、そのあたりお伺いします。

地域整備課長 災害復旧費に関しましては、補助の対象になる項目がございまして、その中で使用料を置いたほうが財源として国のほうから補助がまいりますので、昨年度は公共土木災害復旧事業の中のコピー使用料として置かせていただいております。その分が先ほども言いましたけれども増となった部分でございます。

委員長 ほかに質疑ございますか。

1 番 それでは、96ページ、8款4項1目の住宅管理費でございます。97ページ説明のところに、

測量設計業務委託料130万円ございます。今回測量設計業務委託料、この中身について、内容についてお伺いします。

地域整備課長 ただいまの委託料でございます、測量設計委託料であります、町営住宅舟形団地3号棟の長寿命化の工事を一昨年から行っているわけなんです、平成30年度分の工事設計の委託料でございます。

1番 これ3号棟でよろしいでしょうか。

地域整備課長 はい、3号棟となっております。

1番 次の質問というか、同じところなんですけれども、一番下の段に、戸建ての住宅の耐震診断委託料と戸建ての耐震改修というようなことで2つ項目並んでいるんですけれども、一緒に考えてもいいのかなと思いますけれども、今回予定されているこの耐震診断の場所というか、それをお伺いしたいと思います。

地域整備課長 済みません、場所というか、委託先でよろしかったですか。

委員長 内容を確認するための質問としてカウントしません。

1番 委託先でなくて、今回ここに上がっている予定しているところの箇所です。

地域整備課長 今年度は1件を予定しております。平成29年度も一応1件予定しておったんですが、それと同様、今年度も1件分を計上しております。

委員長 ほかに質問ありますか。

6番 済みません、94ページです、8-2-3除雪対策で、右の説明の一番下でございます。用地購入をして工事をするようですが、（「マイクをちょっと近づけて」の声あり）94ページの除雪対策費です。右の説明事項の中で一番下でございますが、格納庫、用地を購入して格納庫を建てる予定のようでございますが、どこに建てる計画なのかお伺いします。

地域整備課長 除雪格納庫の用地購入費でございますが、ご存じのとおり、今年度、木友地区というか新しく除雪センターを新築しておるわけなんです、ご存じのとおり除雪センターについては分散型ということで、平成30年度は舟形地区と堀内地区に考えております。そんな中で、一応用地としてはいろいろ選定している段階ではございますが、堀内地区についてちょっと2カ所ほど選定している箇所がございます、その中で今検討の段階でございます。しかしながら、町の用地としてあるようなところも活用しつつ、そこら辺も考えながら今選定に入っているところでございます。そんな中で、一応予算としては堀内地区の分は計上しておるんですが、町の用地等、手持ちの土地に建つようなことになれば、不用となりますので、今のところは検討の段階でありました。以上です。

6番 そうしますと30年度は舟形地区と堀内地区に2カ所格納庫を設置する予定だと。この購入費50万円については堀内分だけだと。舟形についてはもう町有財産で対応すると。舟形はどこに建てる。

地域整備課長 舟形地区については用地買収が伴わない箇所を今選定中でございます以上でございます。

委員長 午後1時まで休憩をいたします。

午前11時55分 休憩

午後 1時01分 再開

委員長 それでは、午前中に引き続き第8款の質疑審査を行います。質問のある方は挙手をお願いします。

4番 休憩1分前に町長の言葉の中で……、場所言ってから、済みません、94ページ8-2-3除雪対策費の一番下段の格納庫の件で、休憩前に50万円の土地購入費は堀内だけと最後で言ったのか、それとも建物の6,000万円を計上している予算もこれ堀内のだけという形で言ったんであったかということに聞こえたんですけども、その確認を1回させてください。

町長 用地購入費のほうについては、担当課のほうで計上している50万円というのは堀内のほうの分だということです。格納庫の建設については、課長の答弁にもありましたとおり、堀内と舟形と2つ分散型で建設する予定でございます。

4番 今現在建設中の浄化センターのところに建設してある格納庫、1億円ほどで今やっているわけですけども、そこに車両が来年度から12工区になって予備車が2台、3台ぐらいあるのかな、ドーザーと合わせると。それで、長沢に今2台入るわけです。今現在のステーションに何台格納する予定で、これから計画する舟形地区並びに堀内地区の各車両計画場所に何台ずつ保管する予定でのこの6,000万円なのかをお聞きます。

地域整備課長 まず、今建設しております除雪センターにつきましては、6台が入ります。あと、来年度2カ所に、長沢と堀内におのおの建設予定なんですけど、それらについては2台ずつ入る予定です。済みません、堀内と舟形です。2台ずつの予定でございます。

4番 全部で12台という足し算なると、長沢入れるとなるんですけども、ドーザーの予備車なり、ロータリーの予備車の台数を踏まえると、14台ぐらいになるのかなという私の、考えられるんですけども、台数的に合わない計画で格納する予定なんですか。

委員長 暫時休憩します。

午後 1時04分 休憩

午後 1時04分 再開

委員長 それでは、再開をいたします。

地域整備課長 済みません、先ほどちょっと間違えてしまいました。今建設したやつが8台でありまして、長沢が既存のやつが2台がございます。

4番 私の頭でもそういうふうな計算になるかと思うので、8台入る予定って前に聞いておったので。2台ずつ、堀内並びに舟形地区に配置する予定というわけですけども、いかにせん除雪車両は早朝というよりも夜中に出るわけです。新しく計画するときにはなるべくなら民地から離れて、なおかつ管理しやすいとこにできるだけ予算6,000万円って結構ボリュームのある予算がついているようなので、厳粛に調査して進めていただければと思います。

地域整備課長 新しく30年度建てる格納庫につきましては、まずは民地から、民地というか住宅からなるべく離れたところを選定し、主要となる道路沿いに建てる計画で考えております

委員長 ほかに質疑ございますか。

9番 92ページの道路新設改良事業費についてお伺いします。

93ページの社会資本整備事業の中の内容をお聞きます。（「どの部分でしたっけ」の声あり）社会資本整備事業の7,500万円。

地域整備課長 平成30年度の社会資本整備総合交付金事業でございますが、これらについては、来年度については、まず路線名から言いますと、対象予定の路線であります、福寿野岡矢場線、紫山内山線、あと流雪溝で舟形1号線、あと橋梁整備ということで、橋梁補修ですね、補修ということで、洲崎橋の補修を考えております。さらには、舟形一関線の歩道整備を考えております。この路線が来年度の路線となっております。

事業の中では除雪経費についても補助の対象になっておりますので、それは全路線になるわけなんです、そのような感じで来年度は路線を考えております。

9番 大体わかりました。その中で、用地購入費、物件移転補償費が1,400万円ほどついてますけど、この内容お伺いします。

地域整備課長 用地購入費でございますが、舟形一関線の歩道整備工事の用地費と、物件移転補償費についても舟形一関線の補償を計上しております。

9番 この舟形一関線については、今も一関町内の小学校の生徒が徒歩で通学しておるわけでございます。そんな関係上、なるべく早くこの整備をしていただきたいという、我々議会でも数々の中で質問等出ました。その中で、いつごろまで歩道整備になるのか、その計画もしありましたら、その計画を明細にお聞きしたいと思います。

地域整備課長 ただいまのご質問でございますが、工事着手を平成30年に考えております。それで、完了予定年次を平成33年度ぐらいになるのかなと思っております。

ただ、この路線につきましては、ほかの路線とは違ひまして、重点路線に位置づけしていただいております。それで、内示率というか、交付率なんです、若干高くなるのかなというふうに考えているところでございます。一応平成30年から33年の間で事業を完了したいと考えております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

8 番 私、一般質問してから約、これ8年、10年近くかかっているんだけど、今課長が答弁の中で岡矢場線というのが出ましたもんですから、ならば言わないつもりだったんだけど、ちょっとその中身聞かせてください。

地域整備課長 ただいまのご質問でございますが、岡矢場線でございますが、平成30年度は詳細設計に入りたいと思っております。詳細でありますので、もちろん概略がある程度終わっておりますので、法線の決定もある程度、決定のほうに進んでおるわけなんです、それを踏まえて詳細の設計に入ります。それで、平成30年度でその詳細終わらせてまして、平成31年度から用地測量、さらには用地買収等々が始まると考えております。5カ年ぐらいでできればなと思っております。

さらに、先ほどちょっとお話しましたが、この路線につきましても、国のほうの、国といいますか、重点事業ということで一応今要望しておりまして、平成30年度から重点にさせていただきたいということでちょっと要望しているんですけど、どのような形で内示が来るかちょっとまだ不透明なところがございます。そんな形でなっております。

委員長 町長、補足答弁許可します。

町長 今課長のほうからありました重点路線の件でございますが、1月に私と議長のほうと伊藤県議のほうで要望させていただいております。その中で、また山形河川国道事務所の和田所長さんのほうからいろいろご指導いただきまして、ぜひ社会資本の中でなかなか岡矢場線がつかないんだというようなことでお願いを申し上げて、そうしたところ、前任が国交省の中でそういう地方道の整備に関する担当をしておったということもございまして、和田所長のほうから重点路線に上げるべく指導をいただいております。その結果、先ほど課長が申し上げた重点路線の候補に挙がっております。それに挙がることによりまして、優先的に予算が配分されるものと期待をしているところでございますので、大変時間的な経過はいたしておりますけれども、何とか一刻でも早くということで努力してまいりますので、今後ともまた陳情・要望等のご支援等をいただければと思います。

8 番 大体わかりました。懸念する今までの例、話を聞きますと、交差点、早く言えば県道なんです、その絡みがあつてなかなか進まなかったと。町単独でも鉄塔立っていたところまでやりたいというような話も何回も出たんですが、その県道のほうの交差点、あの辺はどんな話で。もしよろしければ、まだ何もなかったらそれで結構ですけど。

地域整備課長 ただいまのご質問でございますが、交差点の改良につきましては、担当する最上総合支所、さらには県道整備部の皆さんにも何度となくアピールはしております。そんな中9で、今年度詳細設計に入るわけなので、そこら辺も含めて、県と再度詳細にわたっての協議をしながら、最終的な詳細設計を終わらせたいなと思っております。そんなところでございます。

委員長 ほかに質疑ございますか。ありませんか。

(「なし」の声あり)

委員長 質疑なしと認め、第8款 土木費についての質疑、審査を終結いたします。

次に、第9款 消防費を審査します。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 (朗読、説明省略)

委員長 これより、第9款 消防費の質疑に入ります。

1番 9款1－1 非常備消防費ということで、100ページです。101ページの説明の中で、県消防長会負担金、今回3万円ここに計上してございます。去年はこれございませんでした。一昨年、28年度を見ますとここに3,000円というのが出ております。この消防長会負担金の中身と、この関連性、28、29、30年の関連性について説明をお願いします。

住民税務課長 予算書101ページですね、県の消防長会負担金ということですけど、30年度の予算項目では、県の12の消防本部の消防長、あと35市町村の団長さん方の研修会、会議が日帰り1回、宿泊が1泊2日になりますけど1回、計2回ございます。それで、28年度、今年度、30年度の関連ということですけど、28年度は3,000円の予算ということで、宿泊等には対応していなかったと思います。それで、このページの負担金の下から5行目ですか、消防長・消防団長会議研修等負担金、ここは消防団長の諸会議負担金等も意味合いもあるんですけど、ここから28年度、そして今年度、29年度、この負担金を支出しております。ただ、県の消防長、市町村の団長と、負担金の区別をしたほうがいいということで、30年度の予算要求の中に1泊2日の分、あと日帰りの分、見合った金額の3万円を計上させてもらったところですよ。以上です。

1番 基本的に消防長会と消防長・消防団長会議というのは別ですよ。

委員長 別かという質問。

住民税務課長 おっしゃるように、上段のほうの県の消防長会負担金というのは県内全市町村の消防長、あと全市町村の消防団長の会議を想定したものです。そして、下から5段目につきましては、最上管内、支部管内の消防長なり消防団長等々、そのほかの団長いろいろな会議ありますので、その負担金を諸会議負担金の意味合いあったものということになります。ここでちょっと別になります。以上です。

1番 さっき、課長の答弁で、県の消防長会の負担金を消防長・消防団長会議のほうから持っていったというふうな答弁でございますけれども、別なものに関して下から持っていくというのはどうなのかなと思いますけれども、お聞きします。

住民税務課長 下のほうの、名称はやっぱり消防長・消防団長会議研修等負担金ってあり、ここから今年度と28年度支出していたんですけど、これはやっぱり管内のものと県全体のものを分けるべきだということを思っております。その意味でちょっとこの県消防長会議負担金と

いうことを29年度に、今年度一旦説明から除いたんですけど、新たに明確に分けるということ
とで、分けさせてもらいました。以上です。

委員長 ほかに質疑ございますか。ありませんか。ないですか。

(「なし」の声あり)

委員長 質疑なしと認め、第9款 消防費についての質疑、審査を終結いたします。

これより、第10款 教育費を審査いたします。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 (朗読、説明省略)

委員長 これより、第10款 教育費の質疑に入ります。

暫時休憩します。

午後 1時24分 休憩

午後 1時24分 再開

委員長 再開します。質疑のある方挙手をお願いします。

2番 116ページ、117ページ、文化財保護費の中で、縄文の公園に簡易トイレ等を借り上げると
ありますけれども、今年度からあそこには固定のやつじゃなくて簡易トイレを設置するとい
うことでよろしいのでしょうか。

教育課長 おっしゃるとおり簡易トイレでございます。簡易トイレについては1基を準備したい
と思っております。

2番 そうしますと、新たな固定のものはつくらないで、簡易トイレでこれからも運用していく
という考えでよろしいのでしょうか。

教育課長 現行のところ、現在の観光の様子を見て対応していきたいなと思っております。多く
人数が来ている状態で、トイレがちょっと汚いとかあった場合に、組長ともお話ししながら対
応していきたいと考えております。

委員長 ほかに質問ございますか。

1番 10－1－2事務局費でございます。ページで104ページ、105ページ、この中で、日本一の
給食食育推進事業の項目で教育用器具費100万円、ここに計上されております。何を予定され
ているのかお伺いします。

教育課長 これにつきましては、温かいものを食べさせ……、ご飯のおひつとかそのようなもの
を準備したいと思っております。

委員長 ほかに質疑ございますか。ありませんか。

10番 それでは、103ページになりますか、事務局費の中で、教育委員会の事務局事業の中にい
じめ問題対策委員会報酬、それから、4段ほど下がりにして、いじめ防止対策委員会報酬と
いうふうにあります。この両委員会はどのような方々で構成されているのかを伺います。

教育課長 いじめ問題対策委員の報酬につきましては、弁護士、あとは……、の組織の4名でやっている組織でありまして、下の協議会のほうは学校長を含めた駐在さん、民生委員等を含めた委員となっております。

10番 このいじめ問題ですけれども、なかなか大々的にはできないといいますが、かといって放っておくと大変な問題になるというような、大変なデリケートな問題であると思うわけですが、こういうふうな問題が出てきたときによく言われる言葉に、学校、家庭、地域の連携がというふうな言葉が出ます。そういう意味から言いますと、これはこの辺に対策なり防止について、そういった連携をとれる組織というのがあるべきだと思うんです。そういう点からいきますと、119ページに学校・家庭・地域の連携協働推進事業というのが生涯学習推進費の中にあります。この辺との関連性というのはあるのでしょうか。

教育課長 この事業に関しましては、学校・家庭・地域の連携協働推進事業となっておりますけれども、いじめ問題とは全く違う事業であります。

10番 私の目から見ますと、やっぱり先ほど申し上げたように、地域というか学校を取り巻く環境というか、全体でこの問題に対処しなければならないと言われる中で、今言ったように関連性がないとなると、正直言って大変違和感を感じているところであります。やはりこういった事業に400万円ほどの予算があるわけですが、やっぱりこれだけの予算を置く中に、こうした学校を中心とした問題に対しての対応といいますが、そういうものもぜひ取り入れるべきではないかと思うわけです。これをやっぱり、こちらは生涯学習ですと、こちらは学校内の問題ですと、こういうふうに区割りすること自体がやはりおかしいのではないかと。その辺がこのいじめの問題を発生させている原因にもなっているのではないかなと思うところがあります。その辺、今後の考えを伺いたいと思います。

教育長 まず、119ページの学校・家庭・地域の連携協働推進事業、これにつきましてですが、この関連性というのは、社会教育の中でということで話、今課長のほうでしたと思います。ただ、中身につきましては、PTAとか、それから保護者会の中で、家庭教育講演会等をやっております。それから、PTAの組織の中でもこの講演会等をやる事業でございます。そういうことでございますので、テーマもそんなにかけ離れたことでの話し合いとか、講演会のテーマでございませんで、私どもはその年度の課題等、特に今年度、例えばそういうふうないじめ等の話題、あるいは話し合いとなったときには、こころの辺のところを十分活用しながらやっていきたいとも考えております。

なお、この事業400万円もということですが、これは一応補助がある事業でございまして、特にここにあります地域コーディネーター報償、これにつきまして今やっているところがかなり大きいところですので、こういったところの今言われたところを十分関連させながらやっていきたいと考えております。よろしくお願いします。

委員長 ほかに質疑ございますか。

1 番 10款4項1目社会教育総務費、ページで114ページ、115ページの説明の中に、東北街道会議負担金って、今回初めて出てきています、10万円、これ内容をお聞かせください。

教育課長 これにつきましてですが、今年度といいますか、30年度お願いする負担金でございます。これは、明治初期にイギリスの旅行家イザベラ・バード、この方は山形県とかを歩いて、非常に山形の土地を気に入った、しかも山形の南のほうにおかれましては、東洋の桃源郷だと、アルカディアだというふうに言って、山形県を北上して、金山、当然ここも通っていったんですが、金山、そして秋田のほうに抜けていったイザベラ・バードがおりまして、その方が来訪してから140年になるということを記念いたしまして、関係市町村、そして県が後援しまして、11月のたしか10日ごろに2日間ほどにわたって事業を行う予定でございます。

舟形にかかわっては、猿羽根山を通っておりますので、そこにさまざまな方をお呼びいたしまして、猿羽根山の眺めとか、そこに来たときのさまざまなお話をいただきたいということを計画して予算を組んだものでございます。よろしく願いいたします。

1 番 そうすると、この事業主体は県、負担金はどこに納付するのかお聞きします。

教育課長 これにつきましては、主催の東北街道、14回の交流会ありまして、山形大会の実行委員会という組織ございまして、そこに負担金として支払い負担金でございます。

1 番 そこはわかります。実行委員でなくて、主体があるわけですね。どこに、山形県庁に置くとか、その置いているところはどこですかということです。実行委員会の組織されている、例えば本部がここに置いているとかってあると思うんですけど、それはどこに今設置になっていますかということです。

委員長 暫時休憩します。

午後 1時37分 休憩

午後 1時37分 再開

委員長 再開します。

教育課長 事務所におきましては、東北文教大学に置いております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

1 番 同じページです、114、115ページで、公民館費で、115ページの説明の中で、昨年までここに公民館のピアノの調律料というのが出てきているんですけども、今回ここに計上されていません。ピアノはもうなくなったのかお伺いしたいと思います。

教育課長 今の質問にお答えいたします。公民館のピアノは現在3階のホールに1台ございます。あと、調律代ですかね、昨年まで上がっていましたが、今年度なくなっているということなんですけれども、それについては27年度までコーラスグループが活動しておりまして、ず

っとピアノ等を使っておりました。それが27年以降にコーラスグループが終了しておりました、そこからピアノの利用が全くなされていない、活動もしていないということで、その時点までは定期的な調律は行っておりましたけれども、昨年についても10月に町でコンサートが開催されております。そのときに調律はしているんですけれども、今年度につきましては、コーラスグループも使わない、そして今年度は音楽コンサートという感じで公民館等は計画していなかったため、調律を省いているところであります。

1番 単純にですけれども、例えば、来年度また使うというようなことで、来年度に、まあこれ1万7,000円、調律料計上、毎年なっているんですけれども、そういうものって、例えば使わないからずっと放っておいて、じゃあ使いますからってまたすぐポツと調律してなるようなものかなと、ちょっと疑問に思うんですけれども、そこら辺伺います。

教育課長 おっしゃるとおりで、ピアノについては、調律するときには、コンサートをするときにその場所に移動する、使う場所に移動する。今ホールにはありますけれども、ホールで調律しても、今度はステージのほうで使いたって動かした場合に、また調律しなくてはいけないという状態が出てきます。であるため、今の段階で使っていない段階で調律しても、ちょっとコンサートのときまた中に入れてまた調律することになってしまうので、なかなか予算面も行き違いがあるかと思うんですけれども、もしそういうものがあったら補正等で対応しながら調律のほうをやっていきいたいなと思っております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 ちょっと記憶が定かでないので、確認の意味も込めて。108ページの10－2－2教育振興費の中で、小学校の図書購入費73万円ございますが、中学校のほうでも図書購入しております。その財源が伊藤 茂さんの基金の崩しでございますが、伊藤 茂さんの基金というのは、中学校の図書購入ということうたわれていませんでしたか。これを見ますと、ちょうど小学校で73万円、中学校で54万1,000円、この財源127万1,000円が歳入で基金の繰り入れで入っているんですけれども、基金が来たときにも何で中学校だけなのかとちょっと思っていたことあるので、その辺ちょっと確認の意味を込めて。

総務課長 お時間をいただいて、今確認をさせますので、よろしくお願ひしたいと思います。

委員長 暫時休憩いたします。

午後 1時42分 休憩

午後 1時45分 再開

委員長 再開します。

総務課長 斎藤委員のおっしゃるとおり、中学校のほうにしか基本的には充当できないということになっていまして、担当のほうで町のほうから500万円も入っているというふうなことがあ

って、単純に振り分けてしまったということでございまして、この財源充当については、後ほどの補正等の段階で充当を変えるというふうに考えております。

委員長 ほかに質問ありますか。質問ありませんか。

5番 ページが116ページ、10－4－3文化財保護費の中で、一番下の考え方ちょっと確認しておきたいんですけども、縄文炎祭実行委員会補助金、補助金ということは、使い切った後にこういうふうな使い方をしましたというふうなところの実績報告といたしますか、こういうのもらっているのかどうか。

教育課長 これにつきましては、補助金になりますけれども、計画の段階から決算書まで全部いただいております。（「わかりました」の声あり）

委員長 ほかに質問ございますか。

9番 ちょっと勉強させてください。

120ページの保健体育費の中の説明種目で121ページの下段のほうになりますか、亀割山登山道整備委託料、また、ハマグリ沼登山道路整備委託料とありますけれども、この整備状況と、これを利用している登山道、ハマグリ沼の利用している、もし人数がわかりましたらお知らせ願いたいと思います。

教育課長 大変申しわけございませんが、人数的にははっきりしたところはつかんでおりません。ただし、亀割登山については、長沢地区なんですけれども、有志集まって春先とか、秋に1回とかに登山をしているようです。人数ですね。（「利用者」の声あり）利用者の人数等までは把握していないところです。ただし、亀割登山については長沢地区の有志の方で何回かにわたって登山をしているようです。あと、ハマグリ沼についても、社会体育の子供たちを活用して、登山なんかも何回かやっているところです。人数までは把握しておりません。

委員長 ちょっと待って、9番委員、整備状況聞かなかったっけか。一問一答だけど、まず。整備状況について、いいか、2回目で聞くか。

9番 この予算的には毎年計上しているから継続事業というような形でおそらく、安易に計上しているのではないかと考えております。ただ、この亀割登山道につきましても、これは鎌倉時代の弁慶と牛若丸のそれで、瀬見温泉発祥というようなことの由緒ある登山道であります。確かにこれは整備するには価値あると思いますけども、本当にそれを利用しているのかどうか。その辺やっぱり利用人数を掌握しながら、利用者が多いとすればもう少し登山者の証明になるものがあるとすれば、それを金をかけてもやるという強い意気込みがあつてしかるべきかなと思います。

それから、また、ハマグリにつきましては、ハッチョウトンボの生息地ということで、学術的にも貴重な沼なんだということで、そのハッチョウトンボの視察を兼ねた登山道の整備がなされたものと思いますけれども、この辺やっぱり整備状況なり、利用状況が芳しくないと

すれば、これはいくら毎年貴重な予算をつけてやっている事業とすれば、それはやっぱり見直しもしながら、もう少し町民のニーズに合ったような形の予算配分があっていいのかというような思いで今質問いたしました。それについてお願いします。

教育長 まず、亀割のほうですが、亀割のルートにつきましては2つあります。一つは休場から1時間ぐらいですぐ瀬見におられるルートで、これが一番最短の昔から使われているルートでございます。もう一つが、この我が町のルートでございまして、射撃場から、そこから峰まで、頂上まで行って瀬見に下る、あるいは休場に下るルートを整備しておるわけです。そのルートにつきましては、新しくつくったものですから、ここ何年かはこの低山愛好者によって結構愛用されております。話よく聞きますし、まず我々が目にするというのはなかなかないかもしれませんが、結構そういう話は聞いております。ただ、何人利用するかということにつきましては、今山のほうで利用、本当に確実に把握するには、機械を入れて、通過すると何人とカウントするような機械がございまして、それを設置しないとはっきり把握はできません。ですので、正確な利用者等はわからない。さっき課長が言ったような答えにしかないだろうと思います。

ハマグリ沼につきましては、さっき言った子供たちとかの体験教室等がございまして、そういう意味から整備、あるいは価値も含めてやっていきたいものだと考えております。よろしくお願いします。

9番 ハマグリ沼については今子供たちの観察場所ということで、利用するというで話わかりました。亀割については、私の地元でありますので、私も小学校時代、学校行事でよく亀割登山をしながら、そして最後には瀬見温泉に入って帰ってくるというようなコースで、よく学校行事として利用した登山道であります。なので私も結構愛着のある登山道であります。また、私の青年団時代には、青年団の有志が集まって登山道の整備ということで、のこぎり、なたなどを持っていきながら整備した経過もあります。そんな形で今整備状況がどうなっているのかというお聞きしたかったんです。それで、もし10万円で大丈夫なのかどうか、その辺もちょっと私なりにまだ理解しないところありますので、その辺伺いたいなと思います。

教育課長 現在の整備状況ということですが、例年、愛好者で登っている人たちから「草いっ刈ってけんのや」って、「草いっぱいだっけずい」って言われるときもあります。そのために、おおむね亀割登山道については、3人から4人で機械持参の上、登って、登山道を下刈りしてもらっている状態です。あと看板なんか落ちている、入り口のところ、崩れたり、あの辺もつくりかえて登山道ですよというような明示もしているところの整備状況であります。

ハマグリ沼についても、これについては松橋の町内会の方々全戸によって、町内運営をする

ために必要だということであそこを、登山道を毎年1回下刈りをしていただいている状態です。

委員長 ほかに質疑ございますか。

2番 112ページ、113ページ、教育振興費の中で前年度よりも半分以上の予算に減額されておりますけれども、この中身についてお聞かせください。全体の中で予算が288万7,000円ばかり減額になっていきますけれども、この中身についてお聞かせください。

委員長 暫時休憩します。

午後 1時56分 休憩

午後 1時57分 再開

委員長 再開します。

教育課長 今のご質問にお答えします。

29年度までここには舟形放課後若鮎塾業務委託料というの250万円ありまして、これについて中学校が主体であった事業であります。30年度からは小学校も該当してわかあゆ塾を開催していこうということで、これを事務局費のほうに移しております。中学校、小学校を対象としておりますので、一括で事務局のほうに置いたということで、この250万円が減っているということになります。

2番 29年度にはわかあゆ塾があったのは知っておりますけれども、それが移行してこの款の項目から抜けて別の項目に移動したという理解でよろしいということですね。

教育課長 はい、結構でございます。

委員長 ほかに質問ございますか。

6番 1点だけ、106ページの小学校管理費、107ページの説明の中に特別支援員報酬でございます。町長の力で1名増という、6名から7名ということで、この部分だと思いますが、財源ですが、これについては左のほうに地方債1,620万円がございますが、財源的には持ち出しはなくて1名増になるんでしょうか。

財政担当課長補佐 今のご質問の地方債の財源についてなんですが、108ページのほうの同じ目の下から4行目の工事請負費、これ小学校のトイレの洋式化になります。それについての地方債でございます。

6番 この1名ふえた分の財源をこれからどういうふうを考えていくの、せっかく1名、町長の力でふやしてもらったんだけど、ずっと長続きするような形でもっていかないとだめなんじゃないのというご質問でした。

町長 一般財源でその1名増員した分も賄っているということでございます。6番委員のおっしゃられるとおり、長く継続できるようにということでございますので、その点についてはい

ろいろな財源の手当てができないかを検討しながら、少しでも長くその支援員という形のことで学校運営、そして学力向上に努めてまいりたいと思います。

委員長 ほかに質問ございますか。

5 番 ページが106ページ、10－1－4 スクールバス管理費、スクールバス運転委託料1,791万円とありますが、現在というか、来年度で結構ですけれども、スクールバスの運転手の数と人数と、あと年齢等の制限あるのか、ないのか、そしてまた、確保が十分できているのかお聞きしたいと思います。

教育課長 バスの運転手の人数については、9名でございます。それで、年齢のほうがおおむね60歳となっておりますけれども、「おおむね」がついておりますので、この辺の取り扱いをどうしたらいいかということで、平均年齢的には、現在50歳ぐらいですかね、30代もいますので、平均で50近くになるかと思います。あと、定員については、9名採用していますけれども、9台を動かさなければいけないので、定員がいっぱいでございます。ぎりぎりで運営している状態であります。

5 番 おおむね60歳ということですが、なかなか今60以降でも、現在国のほうでは75まで仕事をしなさいというふうな時代の中で、やっぱり運転手というのは危険なところもありますけれども、60歳というふうなところのおおむねの拡大として、拡大解釈として何歳ぐらいまで雇用する考えなのか。

教育課長 これにつきましては、町の規定でありまして、総務課とも打ち合わせしながらちょっとその辺を調整していかなければいけないと思うんですけれども、うちのほうの教育委員会としては、60歳超えても健康状態、健康診断受けてもらって、健康状態を見ながら、薬何飲んでいるとか、そこら辺まで調査して、今委託しているところであります。

今後の年齢の採用については、総務課とともに今後検討していかなければいけないかなと思っています。

委員長 いいですか。ほかに質疑ございますか。

1 番 ちょっと確認したいんですけども、112ページのB Gセンターの管理費の中で、説明の中で土地借り上げ料の2万6,000円ここがございます。中学校の土地借り上げ398万5,000円が計上になっていまして、ここの土地借上料というのが中学校の借り上げしている並びの三菱マテリアルさんからのこれなのか、ちょっと確認したいと思います。

委員長 款、項、目を言って質問するようにしてくださいね。（「はい、10款5項3目です、ページ122、123ページで、説明で土地借り上げ料でございます。2万6,000円。これに関してでございます」の声あり）

教育課長 これにつきましては、B Gは隣にあるんですけど、マテリアルさんではありません。これについては、実栗屋の艇庫、船を、ヨット、カヌーを収納しておく小屋を個人的に2名

の方からお借りしている土地代であります。

委員長 ほかに質問ございますか。

5 番 非常に懐かしい言葉があるもんですから、どういう活動をしているのか。118ページ、10－4－4生涯学習の中で、119ページで若妻学級と、非常に懐かしい言葉があるんですけども、どういうふうな活動をしているのかお聞きしたいと思います。

教育課長 お答えします。今現在、若妻学級開催報償ということだったんですけども、現在、舟形町では福寿野さんと長者原の2町内会の若妻会が活動していただいております。その活動の報償費として2町内に支払いしている報償費でございます。

5 番 私、質問したかったのは、町全体で若妻学級というのあって、活動やっているのかなというようなところで質問したところでした。確かに福寿野と長者原にはあるようであります。これに対する支援というような形ね。はい、わかりました。

委員長 ほかに質問ございますか。

6 番 118ページ、10款5項1目保健体育の中で、次のページの121ページの説明の中に、県の駅伝競走大会の負担金が75万5,000円ございます。毎年七十四、五万円を負担金として舟形で出しているんですけども、この使われ方はどのようにされているのか。というのは、一生懸命応援はしているんですけども、なかなか実績に結びつかないのが実態ではないかなと思っておるところでございます。この70万円が足りないのか、もっと出せばもっと強化できるのか、せっかく町を挙げて応援しているわけだから、そのあたりどのようにお考えなのかお伺いします。

委員長 暫時休憩します。

午後 2時08分 休憩

午後 2時09分 再開

委員長 再開します。

総務課長 これにつきましては、駅伝競走大会の新庄最上チームの実行委員会に負担しているもので、それでまず一つが20万2,000円の分については、その実行委員会のほうに出しております。30年度の計画については、強化合宿とか、それから4月下旬の駅伝大会出場、それから、新庄選手権とかいろいろありまして、それらの経費に充てられるものでありますけれども、その内容としましては、歴史と伝統ある県縦断駅伝競走、それから県の女子駅伝大会に参加するための経費、主に宿泊費や交通費、食糧費や保険、そういったものに充当します。それから、もう一つのほうは55万3,000円でありますけれども、それは強化対策費として支出しております。それにつきましては、第8期の強化対策分として来年度採用予定の新規強化選手1名分の人件費、それを増額をさせていただいて、その大会に臨むということであり

まして、事業計画については、先ほどのやつと基本的には一緒でありますけれども、強化選手を雇用するということでの人件費ということになるようであります。

6番 そうしますと、この駅伝大会そのものに、大会そのものの負担というのは20万円しかない、22万円しかない。あとほかは人件費であって、前ここに山口さんがおりましたけど、そういう方に対しての人件費だということなんですか。

総務課長 先ほどの20万円については、先ほどの縦断駅伝関係の事業関係、女子駅伝関係の事業関係、そういった旅費、宿泊費になっていまして、その強化費につきましては、郡内全部で638万6,000円ほどありますけれども、そのうち455万円が人件費というふうなこと、それから、強化費が162万円というふうなことであります。29年度は1名選手を増強できなかったのも、30年度についてはその分を増強するというふうな計画であるという説明を受けております。

6番 今は、前の山口さんのような方を招致して、最上で順番で回していくんですね。今度、来年、30年度ってどこに配属になるんですか。その方の人件費なんですか。

教育長 2人おまして、1人が最上町、もう1人が新庄市に強化選手として入る予定でございます。

委員長 ほかに質疑ございますか。

（「なし」の声あり）

委員長 質疑なしと認め、第10款 教育費について質疑、審査を終結いたします。

第11款 災害復旧費を審査いたします。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 （朗読、説明省略）

委員長 これより、第11款 災害復旧費の質疑に入ります。質疑ございますか。

（「なし」の声あり）

委員長 質疑なしと認め、第11款 災害復旧費についての質疑、審査を終結いたします。

次に、第12款 公債費を審査します。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 （朗読、説明省略）

委員長 これより、第12款 公債費の質疑に入ります。質疑ございますか。

（「なし」の声あり）

委員長 質疑なしと認め、第12款 公債費についての質疑、審査を終結いたします。

次に、第13款 予備費を審査を行います。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 （朗読、説明省略）

委員長 これより、第13款 予備費の質疑に入ります。

（「なし」の声あり）

委員長 質疑なしと認め、第13款 予備費についての質疑、審査を終結いたします。

これをもちまして、議案第26号 平成30年度舟形町一般会計歳入歳出予算の審査を終結いた

します。

ここで、説明員の交代のため、暫時休憩をいたします。

午後 2時16分 休憩

午後 2時18分 再開

議案第27号 平成30年度舟形町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出予算について

委員長 それでは、ただいまから議案第27号 平成30年度舟形町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出予算を審査します。読み上げをお願いします。

総務課財政管財班長 （朗読、説明省略）

委員長 それでは、休憩をいたします。2時45分まで。

午後 2時26分 休憩

午後 2時45分 再開

委員長 それでは、休憩前に復し、舟形町国民健康保険特別会計勘定歳入歳出予算の質疑に入ります。

質疑ある方は、ページ、款・項・目等を明言され、完結をお願いをいたします。では、質問を受けます。ありませんか。

9番 款・項・目、何ページ、まだ該当しないんですけども、ことしから、30年度から健康保険が山形県広域に、制度に変更するわけなんですけれども、この変更に伴って、我が舟形町の健康保険の事務体制、また執行体制は、今までどおりなのか、その辺伺います。

健康福祉課長 制度改革に伴って30年度からいわゆる保険者が市町村と県のほうになります。そして、県のほうで財政的な部分を担うと、そして、市町村がいわゆる給付であったり、給付事務です、それから、資格のほうを主に担当するということでもありますけれども、特に体制等については変更等はございません。

委員長 ほかに質問ございますか。

4番 舟形町、現行の場合は一般会計から繰り入れて何とかやっていける状態である。今後もそういう状況である中で、合併になっていくわけなんですけれども、各35市町村、平均的な形に国民保険の体制が、同時にはならないと思うけど、いずれはそういうふうになっていくのか。なることによって、いくとすれば、予測的に今から舟形町で払っている健康保険に対して上がるような要素があるのか、下がる要素があるのか、そこら辺を推測の範囲でいいですから。

委員長 平均的な体制ってどういうことですか。

暫時休憩します。

午後 2時48分 休憩

午後 2時50分 再開

委員長 再開します。

健康福祉課長 今回の広域化に伴って、県のほうから納付金の請求が来るわけですが、当面は各市町村でその納付金を納めるために保険料率を設定して、徴収をして、納めることになります。県の、あるいは国の方向性としましては、保険料率を将来的には県一本にしたいと。そして、最終的には全国一本にしたいという方向性を持っているようです。ただ、それが10年後になるのか、20年後になるのかについては、まだはっきりしないということでありますので、将来的な方向としては一本になると。そのときの保険料率が上がるか、下がるかについては、まだ想定できません。以上です。

4番 集金した、納付した税金で運用していくわけで、35市町村あれば35市町村に担当職員がいて、ちゃんと給料があつて云々という形になっているわけです。最上には合併広域保険の事務がありますよね。うちのほうは入ってないですけども。その中の体制のように、県が一本になって、要するに35市町村にある組織が一つになって、事務方、要するに経理が凝縮されて、その分でかかる経費、今35市町村でかかる経費を薄くしていったら、保険納付者の負担を軽くするという言葉はちょっと悪いかもしれないけれども、そういうふうになっていくのかなという推測はするんだけど、その逆で、上がっていく予測のほうがすごく高いものだからって質問したところでした。今後、できるだけ上がらないことに希望して、質問を終わります。

委員長 ほかに質問を受けたいと思います。

(「なし」の声あり)

委員長 質疑なしと認め、議案第27号 平成30年度舟形町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出予算の質疑を終結いたします。

議案第28号 平成30年度舟形町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出予算について

委員長 次に、議案第28号 平成30年度舟形町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出予算を審査いたします。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 (朗読、説明省略)

委員長 これより質疑に入ります。質問ありませんか。

(「なし」の声あり)

委員長 質疑なしと認め、議案第28号 平成30年度舟形町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出予算の質疑、審査を終結いたします。

議案第29号 平成30年度舟形町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出予算について

委員長 続きまして、議案第29号 平成30年度舟形町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出予算を審査いたします。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 （朗読、説明省略）

委員長 これより質疑に入ります。

6番 210ページです、1－1－1一般管理費。今回、人件費をここから除いて、除いてといいますか移動して一般会計に移動したということで、その分の減額で事業費が減額したという説明がございましたが、なぜこの介護から人件費分1人分を除いて一般会計に移さなければいけないのか。何か指導があつてそういうふうになっているのか。そのあたりをお伺いします。

健康福祉課長 特に指導はなかったんですが、平成12年に介護保険法がスタートしまして新しく会計をつくったときに、国の準則といいますか、予算のつくり方の中に人件費相当分が入っておりまして、当時は介護保険の事務費交付金ということで、若干事務費に対する交付金もございました。今は人件費に対する交付金ありませんし、また、国民健康保険の会計につきましても、一般会計のほうで全部人件費持っておりますので、今回、統一した形で事務職員の人件費は一般会計で持つという形で予算のつくり方を整理しました。以上です。

6番 そうしますと、その一般職員の分はそうだけれども、ここに事務執行費残っていますよね。この方、臨時だからこれはここに残しておくという話なんですか。

健康福祉課長 正職員のほうだけ一般会計のほうに戻して、臨時の方につきましては、このまま残しております。以上です。

委員長 ほかに質問ございますか。ありませんか。

6番 222ページの5－3－3包括的マネジメントで、右のほうの説明の中で、包括支援センター主任介護支援専門員雇上賃金216万円ございますが、これについてお伺いします。

健康福祉課長 健康福祉課内にございます地域包括支援センターです。今2人態勢で行っておりますけれども、2人態勢じゃない、2人プラス所長です、3名体制でしているんですが、所長が兼務でございまして、なかなか認定調査であったり、ケアプランであったり、いろんな業務ができないということで、新たに1名主任ケアマネの方を採用したいと思っております。以上です。

6番 そうしますと、昨年度計上しておったセンター長報酬としてもらっておる方1人と、あと1人プラスして2名体制でやっておると。2名体制の分が216万円という意味なんですか。少な過ぎませんか。

委員長 暫時休憩します。

午後 3時05分 休憩

午後 3時05分 再開

委員長 再開いたします。

健康福祉課長 去年との比較でよろしいですか。

去年は、地域包括支援センター職員2人プラスセンター長ということで、別の人を雇うつもりで、3人態勢で考えておりました。ところが、なかなか人選できなくて、1人分の予算を落として、今いる2人と県の職員の3人で29年度は実施してきましたが、なかなか兼務はできないということで、新たにこの216万円相当の主任ケアマネの方を採用して、体制の充実を図りたいと思っております。

6番 そうしますと、30年度は何名体制で、それにかかる人件費というのは幾らになるんですか。

健康福祉課長 30年度は専任で3名体制になります。この216万円の主任ケアマネの方と、上にあります一般職給料の分で、人件費で3名分になります。

委員長 ほかに質問ございますか。

(「なし」の声あり)

委員長 質疑なしと認め、議案第29号 平成30年度舟形町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出予算について質疑、審査を終結いたします。

議案第30号 平成30年度舟形町水道事業会計予算について

委員長 次に、議案第30号 平成30年度舟形町水道事業会計予算を審査します。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 (朗読、説明省略)

委員長 これより質疑に入ります。質疑ございますか。

6番 質疑の前に、資料全体なんですけれども、水道事業関係の会計で245ページから247ページは一番後ろにさせていただきたいと、最近大変見づらいんですが、これはどこかの指示なんですか。これは会計には直接関係ないから一番後ろに持っていつていただきたい。

本題に入ります。254ページです。254ページの歳入で、雑収益で700万円の還付がございます、消費税還付金。この還付というのは、還付の内容について伺います。

地域整備課長 ただいまのご質問でございますが、消費税の還付金でございます。平成29年度については、投資的経費額なり変わっておりまして、拡張事業をやっておりまして、それられ消費税を納めているということになっております。その確定申告しまして、平成30年度700万円の還付予定でございます。

6番 平成29年度分のまだ確定していませんよね。それで700万円戻ってくるということ確定してここに計上しているの。予想。

地域整備課長 確定ではございません、申しわけなかったです。概算で出している数値でございます。

委員長 いいですか。ほかに質問ございますか。

10番 なかなか切りかわったばかりで年間の収支というのが見つらい事業ではあるんですが、この254ページの事項別明細書の収益的収入の中で、2款に他会計補助金ということで一般会計の一般会計会計補助金1,309万6,000円あります。その次の、257ページの資本的収入および支出の中で、これも3款の他会計の繰入金ということで一般会計繰入金3,666万4,000円あります。これ、一般会計のほうを見ますと、都市計画費の中で一括して水道事業のほうへの繰出金というふうになっています。この性質上、これは歳出のほうでは分ける必要がないのかなというふうに、ちょっと疑問なんです、その辺どうですか。

地域整備課長 ただいまのご質問でございますが、254ページにある一般会計補助金のほうであります、これらにつきましては、他会計繰入金になっておりまして、地方債の元利償還金の利子の分でございます。利子の分の2分の1ですね、2分の1相当額になっております。

あと、257ページの資本的収支のほうのやつであります、これの一般会計繰入金につきましては、償還金元金分の繰入金になります。これも2分の1相当の額になっております。

10番 内容的な説明をいただきましたけれども、中身はわかりました。言っているのは、一般会計の繰り出しのほうで、4,976万円、これ一括して繰り出しをしています。ここを見ますと、説明の中で、補助金というふうな説明でありますので、本来ならば補助金という限りは補助規定なり、その要綱に基づいた補助をするべきではないかなと思うわけです。そういう意味からいえば、一括した繰出金というあらわし方でいいのかという質問であります。その辺をもう一回お願いします。

委員長 暫時休憩します。

午後 3時17分 休憩

午後 3時18分 再開

委員長 再開します。

地域整備課長 ただいまのご質問でございますが、一般会計から8款の都市計画費の中で繰出金ということで水道事業会計に一括で繰り出しをまずはしていただいております。それで、受ける側であります、水道事業会計としましては、一般会計からの補助金というような区分でしているんですが、これらについては、実はうちのほうでも一昨年からの企業会計を導入になりまして、その会計上、昨年も補助金としておりまして、これを繰出金に変えることは別にしなくてもいいということで、補助金という区分であらわしても差し支えないということになっておりまして、企業会計としては一般会計の補助金という言いあらわし方で受け

ているという形になっております。

委員長 補足説明ありますか。休憩します。

午後 3時20分 休憩

午後 3時22分 再開

委員長 再開します。

地域整備課長 ただいまのご質問、何回も済みませんが、企業会計のほうで補助金として受けることに関しましては、制度上、この項目で受けても問題ないとのこと指導を受けていまして、こういう予算書のつくり方になっております。しかしながら、企業会計の先に導入している市町村もございますので、そこら辺とも連絡をとりながら、なお検討してみたいと思います。

10番 じゃあ財政のほうに伺いますけれども、繰り出すほうというか、出すほうの一般会計では、特に一括した操出金というような名目で支出をしても問題ないということでもいいのですか。

総務課長 一般会計から出すことについて、問題はないです。

委員長 ほかに質疑ございますか。

6番 255ページ、支出、総経費の11目で、公営企業会計アドバイザー業務委託料161万3,000円、これは相手はどこなんですか。

地域整備課長 これの委託料でございますが、相手方につきましては、トーマスという会計の公認会計士がおる会社になっております。そのアドバイザー業務であります。平成30年度の決算に向けたさまざまなアドバイザーをお願いする予定でございます。

6番 そうしますと、今後、これ30年度発生して、以降は全然発生しないと、この委託料については。あとはお願いしなくても大丈夫だということで、今年度限りという話なんですか。

地域整備課長 平成30年度のみで考えております。

6番 ちょっとこの百六十何がしというのは妥当なのかどうかわからないんだけど、30年度の決算を見てただくだけで百六十何がしの経費がかかるということなんですか。

地域整備課長 内訳としましてはそのような形になります。

委員長 ほかに質疑ございますか。

(「なし」の声あり)

委員長 質疑なしと認め、議案第30号 平成30年度舟形町水道事業会計予算について質疑、審査を終結いたします。

議案第31号 平成30年度舟形町農業集落排水事業特別会計歳入歳出予算について

委員長 続きまして、議案第31号 平成30年度舟形町農業集落排水事業特別会計歳入歳出予算を審査します。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 （朗読、説明省略）

委員長 これより質疑に入ります。質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長 質疑なしと認め、議案第31号 平成30年度舟形町農業集落排水事業特別会計歳入歳出予算の質疑、審査を終結いたします。

議案第32号 平成30年度舟形町公共下水道事業特別会計歳入歳出予算について

委員長 続きまして、議案第32号 平成30年度舟形町公共下水道事業特別会計歳入歳出予算を審査します。読み上げをお願いします。

総務課長補佐 （朗読、説明省略）

委員長 これより質疑に入ります。質疑ありますか。

6番 292ページの1款1項1目の管理費で、ここに数字ないんですが、昨年度まで下水の計画書策定というのありますね、これは前の話ですと、30年の11月ごろまで作成するんだよという話だったんだけど、昨年度の1,500万円の事業費で、30年の11月まで完成するというこ
とで、今年度は全然予算計上しなくてもいいということなんですか。

地域整備課長 計画策定につきましては、29年度で完了しておりますので。今年度、30年度には計上しておりません。終わっております。29年度年度末に完了する形になっております。

委員長 ほかに質疑ございますか。

（「なし」の声あり）

委員長 質疑なしと認め、議案第32号 平成30年度舟形町公共下水道事業特別会計歳入歳出予算の質疑、審査を終結いたします。

ここで、討論についてお諮りいたします。

本委員会に付託されました議案第26号から第32号まで7議案を一括して討論することにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

委員長 異議なしと認めます。よって、本案件につきまして一括して討論を求めます。討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

委員長 なしと認め、討論を終結いたします。

これより採決に入ります。

お諮りいたします。本委員会に付託されました議案第26号 平成30年度舟形町一般会計歳入歳出予算、議案第27号 平成30年度舟形町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出予算、議案第28号 平成30年度舟形町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出予算、議案第29号 平成

30年度舟形町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出予算、議案第30号 平成30年度舟形町水道事業会計予算、議案第31号 平成30年度舟形町農業集落排水事業特別会計歳入歳出予算、議案第32号 平成30年度舟形町公共下水道事業特別会計歳入歳出予算、以上7議案を予算審査特別委員会として原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

委員長 挙手多数です。よって、7議案は原案のとおり可決されました。

次に、委員長報告の作成についてお諮りします。本委員会の委員長報告作成は、委員長に一任していただきたいと思います。ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 異議なしと認めます。よって委員長報告の作成は委員長に一任することに決定いたしました。

長時間の審査、大変ご苦労さまでした。

以上をもちまして、一般会計並びに6特別会計予算の質疑、審査を終結します。ありがとうございました。

午後3時34分 散会